

国語国文学科専門科目（令和7年度入学生用）

	科目 コード	授業 コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職 必修	概要	開放				
基幹科目	10010		国文学概論	②	30	1	後期	佐々木紀一	○		教養 教養 教養 教養 教養				
	10020		国語学概論	2	30	1	後期	山本 淳	○						
	10022		日本語教育概論	2	30	1	前期	小峰 克之	○						
	10060		古典文学史	2	30	1	前期	佐々木紀一	○						
	10070		近現代文学史	2	30	1	後期	高畑 早希	○						
共通			古典文学基礎演習ⅠA	2	30	1	前期	岩原 真代		本年度開講せず 本年度開講せず					
			古典文学基礎演習ⅠB	2	30	1	後期	岩原 真代							
	10121		古典文学基礎演習ⅡA	2	30	1	前期	齋藤 奈美							
	10122		古典文学基礎演習ⅡB	2	30	1	後期	齋藤 奈美							
	10131		古典文学基礎演習ⅢA	2	30	1	前期	佐々木紀一							
	10132		古典文学基礎演習ⅢB	2	30	1	後期	佐々木紀一							
	10143		近現代文学基礎演習ⅠA	2	30	1	前期	高畑 早希							
	10144		近現代文学基礎演習ⅠB	2	30	1	後期	高畑 早希							
	10151		近現代文学基礎演習ⅡA	2	30	1	前期	今井 瞳良							
	10152		近現代文学基礎演習ⅡB	2	30	1	後期	今井 瞳良							
	10163		国語学基礎演習A	2	30	1	前期	山本 淳							
	10164		国語学基礎演習B	2	30	1	後期	山本 淳							
	10173		日本語教育論基礎演習A	2	30	1	前期	小峰 克之							
	10174		日本語教育論基礎演習B	2	30	1	後期	小峰 克之							
	10181		論理と表現	2	30	1・2	前期	今井 瞳良				○	前期開講（8～9月）	教養	
	10560		日本語文書・表現プログラム	2	30	1	集中	田中 宣廣							
	日本古典文学			古典文学講読Ⅰ	2	30	1・2	前期				岩原 真代		本年度開講せず	
		10221		古典文学講読Ⅱ	2	30	1・2	前期				齋藤 奈美			
10231			古典文学講読Ⅲ	2	30	1・2	前期	佐々木紀一							
10241			古典文学作品研究Ⅰ	2	30	1・2	集中	富澤 萌未							
10251			古典文学作品研究Ⅱ	2	30	1・2	後期	齋藤 奈美							
10261			古典文学作品研究Ⅲ	2	30	1・2	後期	佐々木紀一							
10271			古典文学特講Ⅰ	2	30	1・2	集中	富澤 萌未							
10281			古典文学特講Ⅱ	2	30	1・2	後期	石黒 志保							
10291			古典文学特講Ⅲ	2	30	1・2	前期	佐々木紀一							
										後期開講（2～3月）					
日本近現代文学	10411		近現代文学講読Ⅰ	2	30	1・2	前期	高畑 早希							
	10421		近現代文学講読Ⅱ	2	30	1・2	前期	今井 瞳良							
	10431		近現代文学作品研究Ⅰ	2	30	1・2	後期	高畑 早希							
	10441		近現代文学作品研究Ⅱ	2	30	1・2	後期	今井 瞳良							
	10451		近現代文学特講Ⅰ	2	30	1・2	前期	高畑 早希							
	10461		近現代文学特講Ⅱ	2	30	1・2	後期	今井 瞳良							
国語学と日本語教育	10512	10514	音声表現法A	②	30	1	前期	山本 淳	②	いずれか一つ履修					
	10512	10515	音声表現法A												
	10513	10516	音声表現法B												
	10513	10517	音声表現法B												
	10532		国語資料講読												
	10550		国語学特講												
	10561		日本語文化論												
10562		日本語運用スキルアップゼミ													
									②	いずれも「音声表現法A」を既修のこと いずれか一つ履修					
漢文学	10600		漢文学概説	2	30	1・2	前期	渡部東一郎	○						
	10611		漢文学講読	2	30	1・2	前期	渡部東一郎							
	10621		漢文学作品研究	2	30	1・2	後期	渡部東一郎							
	10631		漢文学専門ゼミⅠ	2	30	1	後期	渡部東一郎							
			漢文学専門ゼミⅡ	2	30	2	前期	渡部東一郎							
	10650		漢文学特講	2	30	1・2	後期	渡部東一郎							
展開科目			古典文学演習ⅠA	④	30	2	前期	岩原 真代		本年度開講せず 本年度開講せず					
			古典文学演習ⅠB												
			古典文学演習ⅡA												
			古典文学演習ⅡB												
			近現代文学演習ⅠA												
			近現代文学演習ⅠB												
			近現代文学演習ⅡA												
			近現代文学演習ⅡB												
			国語学演習A												
			国語学演習B												
			日本語教育論演習A												
			日本語教育論演習B												
			図書館文化論演習A												
			図書館文化論演習B												
			教育文化論演習A												
		教育文化論演習B													
関連科目	10800	10801	書道（木曜Ⅲ限）	4	60	1・2	通年	我彦 芳柳	④	いずれか一つ履修	教養 教養				
	10800	10802	書道（木曜Ⅳ限）												
	10910		伝統文化論	2	30	1・2	前期	石黒 志保		後期開講（2～3月） 〔日〕と合同	教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養				
	10920		有職故実	2	30	1・2	集中	田中 潤							
	10930		民俗学概説	2	30	1・2	前期	阿部 宇洋							
	10951		山形の郷土資料と文学	2	30	1・2	前期	千葉 正昭							
	10952		現代文化論	2	30	1・2	後期	今井 瞳良							
	10960		東洋思想	2	30	1・2	前期	小野 卓也							
	10970		現代社会と教育問題	2	30	1・2	後期	村瀬 桃子							
	11120	11121	古文書学	2	30	1・2	後期	原 淳一郎				④	〔日〕「古文書学2」で読替 いずれか一つ履修		
	11120	11122	古文書学												
			古文書学演習	2	30	2	前期	小林 文雄					〔日〕「古文書学3」で読替 「古文書学」の既修が望ましい		
			日本古代社会の歴史	2	30	1・2	前期	吉田 歙					〔日〕「日本史概説1」で読替		
			日本中世社会の歴史	2	30	1・2	前期	山田彩起子					〔日〕「日本史概説2」で読替		
		日本近世社会の歴史	2	30	1・2	前期	小林 文雄					〔日〕「日本史概説3」で読替			
		日本文化史	2	30	1・2	後期	原 淳一郎					〔日〕「日本文化史概説」で読替			
		視覚文化論	2	30	1・2	後期	小池 隆太		〔社〕と合同						
		卒業研究	4		2										

(注)・「○数字」は必修単位数、「□○数字」は選択必修単位数  
 ・「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる  
 ・教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす

国語国文学科専門科目（令和6年度入学生用）

	科目 コード	授業 コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職 必修	概要	開放	
基幹科目			国文学概論	②	30	1	後期	佐々木紀一	○		教養 教養 教養 教養	
			国語学概論	2	30	1	後期	山本 淳	○			
			日本語教育概論	2	30	1	前期	小峰 克之				
			古典文学史	2	30	1	前期	佐々木紀一	○			
			近現代文学史	2	30	1	後期	奥村 華子	○			
基礎科目	共通		古典文学基礎演習ⅠA	2	30	1	前期	岩原 真代		本年度開講せず 本年度開講せず		
			古典文学基礎演習ⅠB	2	30	1	後期	岩原 真代				
			古典文学基礎演習ⅡA	2	30	1	前期	齋藤 奈美				
			古典文学基礎演習ⅡB	2	30	1	後期	齋藤 奈美				
			古典文学基礎演習ⅢA	2	30	1	前期	佐々木紀一				
			古典文学基礎演習ⅢB	2	30	1	後期	佐々木紀一				
			近現代文学基礎演習ⅠA	2	30	1	前期	奥村 華子				
			近現代文学基礎演習ⅠB	2	30	1	後期	奥村 華子				
			近現代文学基礎演習ⅡA	2	30	1	前期	今井 瞳良				
			近現代文学基礎演習ⅡB	2	30	1	後期	今井 瞳良				
			国語学基礎演習A	2	30	1	前期	山本 淳				
			国語学基礎演習B	2	30	1	後期	山本 淳				
			日本語教育論基礎演習A	2	30	1	前期	小峰 克之				
			日本語教育論基礎演習B	2	30	1	後期	小峰 克之				
		10181		論理と表現 日本語文書・表現プログラム	2	30	1・2	前期 集中	今井 瞳良 田中 宣廣	○	前期開講（8～9月）	教養
		10221 10231 10241 10251 10261 10271 10281 10291		古典文学講読Ⅰ	2	30	1・2	前期	岩原 真代		本年度開講せず  後期開講（2～3月）  前期開講（8～9月）	
			古典文学講読Ⅱ	2	30	1・2	前期	齋藤 奈美				
			古典文学講読Ⅲ	2	30	1・2	前期	佐々木紀一				
			古典文学作品研究Ⅰ	2	30	1・2	集中	富澤 萌未				
			古典文学作品研究Ⅱ	2	30	1・2	後期	齋藤 奈美				
			古典文学作品研究Ⅲ	2	30	1・2	後期	佐々木紀一				
			古典文学特講Ⅰ	2	30	1・2	集中	富澤 萌未				
		古典文学特講Ⅱ	2	30	1・2	後期	石黒 志保					
		10291		古典文学特講Ⅲ	2	30	1・2	前期	佐々木紀一			
		10411 10421 10431 10441 10451 10461		近現代文学講読Ⅰ	2	30	1・2	前期	高畑 早希			
			近現代文学講読Ⅱ	2	30	1・2	前期	今井 瞳良				
	近現代文学作品研究Ⅰ		2	30	1・2	後期	高畑 早希					
	近現代文学作品研究Ⅱ		2	30	1・2	後期	今井 瞳良					
	近現代文学特講Ⅰ		2	30	1・2	前期	高畑 早希					
	近現代文学特講Ⅱ		2	30	1・2	後期	今井 瞳良					
	10532 10550 10561 10562		音声表現法A	2	30	1	前期	山本 淳 小峰 克之	②	いずれか一つ履修  いずれも「音声表現法A」を既修のこと いずれか一つ履修  (日本語検定2級合格相当)		
		音声表現法B	2									30
		10532		音声表現法B	2	30	1・2	前期	山本 淳			
		10550	国語資料講読	2								30
		10561	日本語文化論	2	30	1・2	前期	小峰 克之				
	10562	日本語運用スキルアップゼミ	2	30	1・2	後期	小峰 克之					
	10600 10611 10621 10641 10650		漢文学概説	2	30	1・2	前期	渡部東一郎	○			
		漢文学講読	2	30	1・2	前期	渡部東一郎					
		漢文学作品研究	2	30	1・2	後期	渡部東一郎					
		漢文学専門ゼミⅠ	2	30	1	後期	渡部東一郎					
		漢文学専門ゼミⅡ	2	30	2	前期	渡部東一郎					
		10650	漢文学特講	2	30	1・2	後期	渡部東一郎				
展開科目	共通		古典文学演習ⅠA	2	30	2	前期	岩原 真代		本年度開講せず 本年度開講せず		
			10721	古典文学演習ⅠB	2	30	2	後期				岩原 真代
			10722	古典文学演習ⅡA	2	30	2	前期				佐々木紀一
			10731	古典文学演習ⅡB	2	30	2	後期				佐々木紀一
			10732	近現代文学演習ⅠA	2	30	2	前期				高畑 早希
			10742	近現代文学演習ⅠB	2	30	2	後期				高畑 早希
			10743	近現代文学演習ⅡA	2	30	2	前期				今井 瞳良
			10744	近現代文学演習ⅡB	2	30	2	後期				今井 瞳良
			10753	国語学演習A	2	30	2	前期				山本 淳
			10754	国語学演習B	2	30	2	後期				山本 淳
			10763	日本語教育論演習A	2	30	2	前期				小峰 克之
			10764	日本語教育論演習B	2	30	2	後期				小峰 克之
			10782	図書館文化論演習A	2	30	2	前期				大沼太兵衛
			10783	図書館文化論演習B	2	30	2	後期				大沼太兵衛
			10791	教育文化論演習A	2	30	2	前期				村瀬 桃子
	10792	教育文化論演習B	2	30	2	後期	村瀬 桃子					
関連科目	10800	10801	書道（木曜Ⅲ限）	4	60	1・2	通年	我彦 芳柳	④	いずれか一つ履修	教養 教養	
		10802	書道（木曜Ⅳ限）									
	10910	伝統文化論	2	30	1・2	前期	石黒 志保	後期開講（2～3月）	教養 教養			
	10920	有職故実	2	30	1・2	集中	田中 潤					
	10930	民俗学概説	2	30	1・2	前期	阿部 宇洋	[日]と合同	教養 教養			
	10951	山形の郷土資料と文学	2	30	1・2	前期	千葉 正昭					
	10952	現代文化論	2	30	1・2	後期	今井 瞳良	[日]は専門単位[英・社]は教養単位	教養 教養			
	10960	東洋思想	2	30	1・2	前期	小野 卓也					
	10970	現代社会と教育問題	2	30	1・2	後期	村瀬 桃子	[日]「古文書学2」で読替 いずれか一つ履修	教養 教養			
	11120	11121	古文書学	2	30	1・2	後期			原 淳一郎		
	11120	11122	古文書学					山田彩起子				
		11123	古文書学演習	2	30	2	前期	小林 文雄	[日]「古文書学3」で読替 「古文書学」の既修が望ましい	教養 教養		
		11131	日本古代社会の歴史	2	30	1・2	前期	吉田 歆	[日]「日本史概説1」で読替			
		11141	日本中世社会の歴史	2	30	1・2	前期	山田彩起子	[日]「日本史概説2」で読替			
		11151	日本近世社会の歴史	2	30	1・2	前期	小林 文雄	[日]「日本史概説3」で読替			
	11160	日本文化史	2	30	1・2	後期	原 淳一郎	[日]「日本文化史概説」で読替				
	11171	視覚文化論	2	30	1・2	後期	小池 隆太	[社]と合同				
	11010	卒業研究	4		2							

(注)・「○数字」は必修単位数、「□数字」は選択必修単位数  
 ・「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる  
 ・教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす

講義科目名称： 国文学概論（10010）

授業コード： 10010

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修・教職必修
担当教員			
佐々木 紀一			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放（教養）			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	学ぶ対象と意義、その範囲、考え始めると難しいのですが、国文学（に限らず文学）とは何か、文学の対象、価値、構成、成立、技法、批評法について、全般的に理解を深めましょう。到達目標 1、文学はどのような芸術か、存在形式についての理解。2、文学の価値を巡る議論についての理解。3、文学解釈の諸理論・方法についての理解。		
授業計画	第1回		
	タイトル	今、そしてこれからの世界で、文学を読む意味（「有益かつ快樂」？）	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	文学と文学以外（文学は言語の特別な構築物？）	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	国文学の対象（範囲と価値）	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	国文学の諸ジャンル	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	国文学の成立（古典）	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	国文学の成立（近代文学 - 作家論について）	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	作家なんて（ ）に入れろ！（1）ロシア・フォルマリズム、ニュークリティシズム、神話批評	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	作家なんて（ ）に入れろ！（2）受容理論、解釈学	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	作家なんて（ ）に入れろ！（3）記号論、脱構築		
フリー欄			
第10回			
タイトル	作家なんて（ ）に入れろ！（4）精神分析批評		
フリー欄			
第11回			
タイトル	全てを歴史化しろ！（1）ポスト・コロニアル、フェミニズム批評		
フリー欄			
第12回			
タイトル	全てを歴史化しろ！（2）ニューヒストリシズム		

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	文学の技巧（1） ロッジ『小説の技巧』から（1）
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	文学の技巧（2） ロッジ『小説の技巧』から（2）
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	再び（国）文学を読む意味
	フリー欄	
授業概要	前半は文学を読む意味、文学の対象（範囲）、価値、成立について、後半は、各自の以降の文学理解に必要な、さまざまな批評の理論、技巧について学びます。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	参考書の廣野さんの著書の精読 作品は指定しませんが、各ジャンルの文学作品を読む	
テキスト	特になし	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	知識詰め込みはしません。じっくり考えましょう。皆さんが今後、文学を友として生きていけますように。	
評価方法	レポート（100%）	
参考文献	廣野由美子「批評理論入門—『フランケンシュタイン』解剖講義」（中公新書） D. ロッジ『小説の技巧』が面白く、分かりやすいです。さらに深めたい人は、T. イーグルトン『文学とは何か（上）・（下）』（岩波文庫）が良いです。	
備考		

講義科目名称： 国語学概論（10020）

授業コード： 10020

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修・教職必修
担当教員			
山本 淳			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>国語学は、日本語ということばそのものを研究対象とする学問分野です。この授業はその入門的性格をもつもので、現代日本語の構造や体系についての概要を学びます。この授業の受講を通して、</p> <p>①日本語の音声の特徴が解る ②日本語の語の構成や単語同士の関係性が解る  ③学校文法の利点と欠点を捉えて書き言葉とは別の文法体系があることが解る  ④標準日本とは又別に言語層が多重的に存在することに気づく</p> <p>という学修成果の獲得を目指します。</p>																																														
授業計画	<p>第1回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>言語と人間</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>導入 言語の特質・言語の機能・脳の言語中枢(ブロードマンの脳地図)</td> </tr> </table> <p>第2回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>日本語の音声と音韻 1（単音と音素）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>音声学と音韻論について</td> </tr> </table> <p>第3回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>日本語の音声と音韻 2（音声器官と調音）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>子音の特徴をめぐって／音声器官と調音について</td> </tr> </table> <p>第4回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>日本語の音声と音韻 3（子音と歴史的変容）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>音声・音韻史</td> </tr> </table> <p>第5回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>日本語の音声と音韻 4（かぶせ音素）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>主にアクセントのこと</td> </tr> </table> <p>第6回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>日本語の文字表記 1（日本語表記の特徴）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>漢字仮名まじり表記の特徴について</td> </tr> </table> <p>第7回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>日本語の文字表記 2（漢字と仮名）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>漢字と仮名の歴史</td> </tr> </table> <p>第8回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>日本語の文字表記 3（仮名の諸相と仮名遣い）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>仮名遣いの系譜</td> </tr> </table> <p>第9回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>日本語の語彙 1（語彙調査・語の意味・類語）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>語の意味について</td> </tr> </table> <p>第10回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>日本語の語彙 2（語種と語構成）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>語構成法について</td> </tr> </table> <p>第11回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>日本語の語彙 3（語の位相）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>日本語における言語層の多相性について</td> </tr> </table> <p>第12回</p>			タイトル	言語と人間	フリー欄	導入 言語の特質・言語の機能・脳の言語中枢(ブロードマンの脳地図)	タイトル	日本語の音声と音韻 1（単音と音素）	フリー欄	音声学と音韻論について	タイトル	日本語の音声と音韻 2（音声器官と調音）	フリー欄	子音の特徴をめぐって／音声器官と調音について	タイトル	日本語の音声と音韻 3（子音と歴史的変容）	フリー欄	音声・音韻史	タイトル	日本語の音声と音韻 4（かぶせ音素）	フリー欄	主にアクセントのこと	タイトル	日本語の文字表記 1（日本語表記の特徴）	フリー欄	漢字仮名まじり表記の特徴について	タイトル	日本語の文字表記 2（漢字と仮名）	フリー欄	漢字と仮名の歴史	タイトル	日本語の文字表記 3（仮名の諸相と仮名遣い）	フリー欄	仮名遣いの系譜	タイトル	日本語の語彙 1（語彙調査・語の意味・類語）	フリー欄	語の意味について	タイトル	日本語の語彙 2（語種と語構成）	フリー欄	語構成法について	タイトル	日本語の語彙 3（語の位相）	フリー欄	日本語における言語層の多相性について
タイトル	言語と人間																																														
フリー欄	導入 言語の特質・言語の機能・脳の言語中枢(ブロードマンの脳地図)																																														
タイトル	日本語の音声と音韻 1（単音と音素）																																														
フリー欄	音声学と音韻論について																																														
タイトル	日本語の音声と音韻 2（音声器官と調音）																																														
フリー欄	子音の特徴をめぐって／音声器官と調音について																																														
タイトル	日本語の音声と音韻 3（子音と歴史的変容）																																														
フリー欄	音声・音韻史																																														
タイトル	日本語の音声と音韻 4（かぶせ音素）																																														
フリー欄	主にアクセントのこと																																														
タイトル	日本語の文字表記 1（日本語表記の特徴）																																														
フリー欄	漢字仮名まじり表記の特徴について																																														
タイトル	日本語の文字表記 2（漢字と仮名）																																														
フリー欄	漢字と仮名の歴史																																														
タイトル	日本語の文字表記 3（仮名の諸相と仮名遣い）																																														
フリー欄	仮名遣いの系譜																																														
タイトル	日本語の語彙 1（語彙調査・語の意味・類語）																																														
フリー欄	語の意味について																																														
タイトル	日本語の語彙 2（語種と語構成）																																														
フリー欄	語構成法について																																														
タイトル	日本語の語彙 3（語の位相）																																														
フリー欄	日本語における言語層の多相性について																																														

	タイトル	日本語の文法1 (学校文法と文節文論)
	フリー欄	学校文法と現代語文法論
	第13回	
	タイトル	日本語の文法2 (現代日本語の文法)
	フリー欄	現代語文法論/敬語の5分類と歴史的展開
	第14回	
	タイトル	日本語の方言1
	フリー欄	方言と標準語・方言分布について
	第15回	
	タイトル	日本語の方言2
	フリー欄	周圏分布と東西分布/方言の過去と将来
授業概要	日本語という言語の個性について、音声、文字・表記、語彙、文法、標準語・方言という各観点から講述します	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	授業を踏まえてテキストを読み返し、スライド資料を参照して、要点を理解するように勉強してください テキストに掲げてある巻末の問題について、各回終了御、銘々解答しておいてください	
テキスト	藤田保幸著『緑の日本語学教本』・A5判・並製・カバー装 1,300円(本体価格) ISBN978-4-7576-0541-1 C1381 初回時希望を募ってさわらび購買部に一括注文します	
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	「ことばに対する素朴な疑問」を大切にしましょう 講義終了後に出される課題は、期限を守り、必ず提出しましょう	
評価方法	試験70%、課題提出 (授業への参加度を含む) 30%で総合評価します	
参考文献	『日本語学研究事典』(明治書院) 『日本語学キーワード事典』(朝倉書店) 『日本語百科大事典』(大修館書店)	
備考	授業中はスライドを使用します 必要に応じてカメラでの撮影は各自の判断で行ってください	
	高大連携・単位互換指定科目	

講義科目名称： 日本語教育概論（10022）

授業コード： 10022

英文科目名称： ー

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
小峰 克之			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放（教養）	聴講生開講科目（※一般の男女が聴講する場合有）	高大連携開放科目（※高校生男女が受講する場合有）	授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	日本語教育とは一体どのようなものなのか、その概略を講義する。 到達目標1 日本語教育の教授内容を具体的に説明できる。 2 母語話者が教授する場合の問題点を意識できる。 3 学習者に合わせて練習方法や評価方法を考えられる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	導入 日本語教育とは何か	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	日本語教育の実像	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	第二言語習得理論	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	母語話者による日本語教授の問題点	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	文字の指導	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	母語話者が学ぶ文法との違い	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	動詞の教授法	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	様々な文法概念	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	用言と助詞		
フリー欄			
第10回			
タイトル	談話表現とその指導		
フリー欄			
第11回			
タイトル	生教材の問題		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	様々な練習方法
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	中上級の指導と評価方法
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	日本語教育の歴史
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ
	フリー欄	
授業概要	日本語を教授する場合、日本語の母語話者は多くの利点があるがそれだけで日本語の指導ができるわけではない。この授業では、まず日本語教育がどういったものなのかを理解し、その指導方法について考えていくことを目的とする。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	次の授業内容に予め目を通しておき、ポイントが示されている場合は次の授業までにやっておく。授業後はプリントやメモなどで授業内容を整理しておく。	
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本語教育について学ぶことは、自分の日本語を見つめ直す良い機会となります。授業を通して、普段自分が使っている日本語について考えてみましょう。	
評価方法	試験（80%）、提出物（20%）で評価する。	
参考文献	授業で適宜紹介する。	
備考		

講義科目名称： 古典文学史 (10060)

授業コード： 10060

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修・教職必修
担当教員			
佐々木 紀一			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放 (教養)			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	奈良時代より、江戸時代までの日本文学の歴史の展開を、時代精神との関連から概観し、その達成の特異性について考察します。		
授業計画	第1回		
	タイトル	古典文学史の意義、対象、方法	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	長い口承文芸時代と文字の衝撃、日本文学の基礎としての漢文学	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	上代文学の開花	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	平安時代の開幕、或いは国文学の模索	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	古今和歌集の決定的価値	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	仮名文学の隆盛 (和歌・物語・日記)	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	平安文学の黄昏と新文学の興隆	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	中世文学の多様性	
	フリー欄		
	第9回		
	タイトル	庶民文学の芽生え (能・狂言、御伽草子)	
	フリー欄		
	第10回		
	タイトル	江戸の平和と商業出版 (キリシタン文学の可能性、仮名草子)	
	フリー欄		
	第11回		
	タイトル	江戸の日常生活と文学 (俳諧、浮世草子、浄瑠璃)	
	フリー欄		
第12回			
タイトル	文学の革新 (戯作、読本、歌舞伎)		
フリー欄			
第13回			

	タイトル	江戸知識人の文学
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	文学の袋小路（合巻、滑稽本、人情本）
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	日本古典文学の特異性
	フリー欄	
授業概要	上代から江戸時代に至る文学の成立、特質、文学的価値について、歴史的背景との関連から紹介します。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	授業で興味を持った作品を読みませう。	
テキスト	特になし	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	このハイパー情報社会、古典の、しかも歴史なんて意味なくね？ダルッ！とおもってる女子よ。今、貴女が存在してゐるのは、古典文学が築いた表現と、価値に拠るものですよ。貴女の、社会の根っこを知らずして、現在、未来を如何して生きて行ける？	
評価方法	期末レポート（90%）、授業への参加度（10%）で評価する。	
参考文献	高校の時に利用した国語の副読本（文学史、文学作品の概要を載せる）があれば十分。	
備考	ドナルド・キーン、吉田健一『日本の文学』（中公文庫）、他は授業で紹介	

講義科目名称： 近現代文学史（10070）

授業コード： 10070

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修・教職必修
担当教員			
高畑 早希			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放（教養）			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	日本の近現代文学史について小説を中心に概観することで、大まかな流れを理解できる。社会的背景にも目を配りながら主要な作品を実際に読解することで、各作品の持つテーマや意義を判断できる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	近代の出発	
	フリー欄	明治初～明治20年代	
	第3回		
	タイトル	社会と自然	
	フリー欄	明治半～明治末	
	第4回		
	タイトル	自然主義文学の隆盛	
	フリー欄	明治末～大正初	
	第5回		
	タイトル	夏目漱石と森鷗外	
	フリー欄	明治末～大正	
	第6回		
	タイトル	大正文壇	
	フリー欄	大正～昭和初	
	第7回		
	タイトル	芥川龍之介の変遷と私小説	
	フリー欄	大正～昭和初	
	第8回		
	タイトル	プロレタリア文学の隆盛	
	フリー欄	大正～昭和初	
第9回			
タイトル	新感覚派とモダニズム文学		
フリー欄	昭和初		
第10回			
タイトル	大正児童文学の登場		
フリー欄	大正～昭和初		
第11回			
タイトル	「転向」と文芸復興、戦時下の文学		
フリー欄	昭和10年代～20年まで		
第12回			
タイトル	戦後文学の展開		
フリー欄	高度成長前まで		

	第13回
	タイトル 高度経済成長と文学
	フリー欄 高度成長～70年代まで
	第14回
	タイトル ポスト・モダンの文学
	フリー欄 80年代～90年代初
	第15回
	タイトル 現代社会と文学の「いま」
	フリー欄
	第16回
	タイトル 試験
	フリー欄
授業概要	この授業では、『原色 新日本文学史〔増補版〕』（文英堂）を教科書にして、日本の近現代文学・文化の通史的な展開を学びます。 文学史における「通史」とは、時間的な順序に沿いながら、主要な作家や作品、文芸思潮や文芸結社、文化運動などをできるだけ幅広く叙述する歴史の描き方です。 この授業では、そうした一般的な文学の歴史を学んでいくことに加えて、具体的な作品（主に小説）を取り上げつつ、その作品が書かれた時代背景を、社会的な動向やメディア、読者の変化などにも目配りしつつ追っていきます。
実務経験及び授業の内容	なし
時間外学習	
テキスト	秋山虔・三好行雄 編『原色 新日本文学史〔増補版〕』文英堂、650円、ISBN：978-4-578-27192-5
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	毎回の授業後にコメントシートの提出があります。 一般的な文学史の流れをつかむだけでなく、それぞれの作品と時代や社会、人びとの関係を、みなさん独自の着眼点で様々に探ってみてほしいと思います。
評価方法	期末テスト80％／毎回の授業におけるコメントシート20％
参考文献	安藤宏『日本近代小説史』中公選書、2015年 奥野建男『日本文学史 近代から現代へ』中公新書、1970年 紅野敏郎・三好行雄ほか編『明治の文学 近代文学史1』、『大正の文学 近代文学史2』、『昭和の文学 近代文学史3』有斐閣書房、1972年 斎藤美奈子『日本の同時代小説』岩波新書、2018年 中村光夫『日本の近代小説』岩波新書、1954年、『日本の現代小説』岩波新書、1968年 三好行雄『近代日本文学史』有斐閣書房、1978年 その他、授業中に適宜紹介します。
備考	

講義科目名称： 古典文学基礎演習ⅡA (10121)

授業コード： 10121

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
齋藤 奈美			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	1. 平安時代の歌物語の表現方法について理解できる。 2. 各自設定したテーマについて辞書、索引、関連図書を使って調べることができる。 3. 調べたことをもとに自らの意見を組み立て、資料を作成して発表することができる。 4. 発表者の意見を理解し、自らの意見を述べて討議できる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス(辞書・文献などの使い方、発表資料の作成方法について)	
	フリー欄	『伊勢物語』概説①「『伊勢物語』の時代と在原業平」「書名と成立」	
	第2回		
	タイトル	『伊勢物語』概説②「『伊勢物語』と『古今和歌集』」「成立論について」	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	『伊勢物語』講読「初冠」(初段)	
	フリー欄	※「講読」は教員による講義形式で行う。以下同じ。	
	第4回		
	タイトル	『伊勢物語』講読「二条后章段」①(第三段・第四段)※(第6回の資料提出)	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	『伊勢物語』講読「二条后章段」②(第五段・第六段)	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	『伊勢物語』演習「筒井筒」①(第二十三段)	
	フリー欄	※受講生全員で分担(語釈・現代語訳)して発表	
	第7回		
	タイトル	『伊勢物語』演習「筒井筒」②(第二十三段)	
	フリー欄	※受講生全員で内容について議論	
	第8回		
	タイトル	『伊勢物語』講読「二条后章段」③(第六十五段)	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	『伊勢物語』演習「東下り章段」①(第七段第八段)		
フリー欄	※「演習」は担当者による発表と出席者による質疑応答の形式で行う。以下同じ。		
第10回			
タイトル	『伊勢物語』演習「東下り章段」②(第九段)「東国章段」①(第十段)		
フリー欄			
第11回			
タイトル	『伊勢物語』演習「東国章段」②(第十一段～第十三段)		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	『伊勢物語』演習「陸奥国章段」(第十四段第十五段)
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	『伊勢物語』演習「二条后後日譚」(第二十六段第二十九段)
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	『伊勢物語』演習「狩使章段」(第六十九段第七十段)
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	『伊勢物語』演習「伊勢国章段」(第七十一段第七十二段第七十五段)
	フリー欄	
授業概要	『伊勢物語』の概要について学んだ後、各段を読んでいきます。発表担当者が調べ、考察したことについて報告した後、他の学生から質問・意見を受け、討論する演習形式で進めます。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	演習の発表担当者は、担当する段の語句、和歌などについて調べ、レジュメを作成すること。担当以外の学生はその段をあらかじめ読み、内容を理解しておくこと。	
テキスト	石田穰二訳注『伊勢物語』(角川ソフィア文庫) ISBN9784044005016税込 価格858円	
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	『伊勢物語』は和歌とその和歌をめぐる物語からなる短い章段、百二十五段で構成されています。和歌の解釈、章段ごとの解釈、『伊勢物語』の中での解釈、『古今和歌集』『大和物語』との比較など、さまざまに読むことができるおもしろさを感じ取ってほしいと思います。毎時全員に発言を求めますので、予習して授業に臨んで下さい。	
評価方法	発表(50%)・討論における発言・提出物(30%)、レポート(20%)	
参考文献	授業中に指示します。	
備考		

講義科目名称： 古典文学基礎演習ⅡB（10122）

授業コード： 10122

英文科目名称： ー

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
齋藤 奈美			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	1. 平安時代の歌物語の表現方法、文化的背景について理解できる。 2. 各自設定したテーマについて辞書、索引、関連図書を使って調べることができる。 3. 調べたことをもとに自らの意見を組み立て、資料を作成して発表することができる。 4. 発表者の意見を理解し、自らの意見を述べて討議できる。 5. 討議を踏まえて自分が考察したことを再検討し、レポートにまとめることができる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	『伊勢物語』講読「惟喬親王章段」①(第八十二段)	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	『伊勢物語』講読「惟喬親王章段」②(第八十三段・第八十五段)	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	『伊勢物語』演習「実名章段」(第十六段・第三十九段・第百一段など)	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	『伊勢物語』演習「梓弓」(第二十四段)	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	『伊勢物語』演習「むかしの若人」(第四十段)	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	『伊勢物語』演習「行く蛸」(第四十五段)	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	『伊勢物語』演習「花橋」(第六十段)	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	『伊勢物語』演習「つくも髪」(第六十三段)	
	フリー欄		
	第9回		
	タイトル	『伊勢物語』演習「二条后章段」(第七十六段・第九十五段)	
	フリー欄		
	第10回		
	タイトル	『伊勢物語』演習「翁章段」(第七十六段～第七十九段・第百十四段)	
	フリー欄		
	第11回		
	タイトル	『伊勢物語』演習「さらぬ別れ」(第八十四段)	
	フリー欄		
	第12回		
	タイトル	『伊勢物語』演習「絵かく女」(第九十四段)	

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	『伊勢物語』演習「齋宮章段」(第百二段・第百四段)
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	『伊勢物語』演習「陸奥国章段」(第百十五段・第百十六段)
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	『伊勢物語』演習「つひにゆく道」(第百二十四段・第百二十五段)
	フリー欄	
授業概要	発表担当者が調べ考察したことを報告した後、他の人から質問・意見を受け、討論する演習形式で進めます。自分の解釈、意見を説得的に述べるには、何を根拠にあげればよいのか、どの表現・語句に注目して論を展開すればよいのか、実践の中で学んでいくことを目指します。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	演習の発表担当者は、担当する段の語句、和歌などについて調べ、テーマを決めて考察し、レジュメを作成すること。担当者以外の者はその段をあらかじめ読み、内容を理解し、自分なりの解釈を述べられるようにしておくこと。	
テキスト	石田穰二訳注『伊勢物語』(角川ソフィア文庫) ISBN9784044005016 税込価格858円	
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	『伊勢物語』の「男」はどのような人物と捉えられるか。「“男”の一代記」に当てはまらない段をどう考えるか。和歌の解釈と物語の関係をどう考えるか……など、各段の解釈にとどまらず、『伊勢物語』という物語の解釈に迫って欲しいと思います。毎時全員に発言を求めますので、予習して授業に臨んで下さい。	
評価方法	発表(30%)、討論における発言・出席(30%)、年度末レポート(40%)	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 古典文学基礎演習ⅢA (10131)

授業コード： 10131

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	古典文法の復習もかね、古典学習の方法を学び、和歌を中心に古典の読解を発展させます。到達目標は、1、辞書・参考文献の利用法。2、古典文法の復習。3、和歌の技巧の理解。4、和歌の読解発表。が到達目標となります。		
授業計画	第1回		
	タイトル	導入 藤原公重と『風情集』述懐百種について	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	古典文法概観・古典読解の諸道具（辞書・辞典・図書館・検索法）について	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	古典和歌の世界、修辞について	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	和歌の歴史1（万葉～平安時代）	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	和歌の歴史2（鎌倉～江戸時代）	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	受講生の発表1（古今集より）	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	受講生の発表2（和泉式部集より）	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	受講生の発表3（山家集より）	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	受講生の発表4（風情集より）		
フリー欄			
第10回			
タイトル	受講生の発表5（風情集より）		
フリー欄			
第11回			
タイトル	受講生の発表6（風情集より）		
フリー欄			
第12回			
タイトル	受講生の発表7（風情集より）		
フリー欄			

	第13回
	タイトル 和歌の詠作1
	フリー欄
	第14回
	タイトル 和歌の詠作2
	フリー欄
	第15回
	タイトル 和歌の詠作3
	フリー欄
授業概要	平安時代後期の歌人藤原公重の歌集『風情集』末尾の百首は、あたかも自虐・ウツの感情に満ち満ちた大変ユニークな和歌です。勿論、平安和歌ですから、平安時代を基とする「古典文法」と修辞に基づいてをります。授業では、この作品に限らず、古典作品を読む為の参考図書、辞書等の利用方を学び、次に入門として『古今集』他、また『風情集』の他の箇所より、一般的な和歌を取り上げます。各自、宛てられた和歌を読み解き、その意味、技法を発表します。更に王朝風和歌を詠んでみましょう。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	常に文法書、古語辞典を携帯し、古典を読む。対象が平安和歌なので、古今和歌集がおすすめ。
テキスト	コピーを配ります。高校で利用した古典文法、古語辞書必携（電子辞書はお勧めしません）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	吾と云へば人の言葉はあらし山かくては何と生まれこしぢぞ 「私が…」といふと他人の言葉は荒いのです（荒らしと愛発山が懸詞）。この様な状況では、どうして私は生まれてきたのだらう（と歎かれます）（来しと越路が懸詞） なんて素敵な歌が続出です♪。 古典文法を復習しながら、貴女の感性にピッタリの和歌世界に浸れます。
評価方法	演習の発表（100%）
参考文献	片桐洋一『歌枕・歌ことば辞典』
備考	

講義科目名称： 古典文学基礎演習ⅢB（10132）

授業コード： 10132

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	古典文法の復習もかね、古典学習の方法を学び、ⅢAに継いで和歌、古典の読解を発展させます。到達目標は、1、古典文法の復習、2、和歌の技巧の理解、3、公重の和歌の解釈発表が到達点です。		
授業計画	第1回		
	タイトル	『風情集』述懐百種・古典和歌の世界、修辞について（復習）	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	受講生の発表1（風情集535～545番、以下同）	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	受講生の発表2（風情集546～556）	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	受講生の発表3（風情集557～567）	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	受講生の発表4（風情集568～578）	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	受講生の発表5（風情集579～589）	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	受講生の発表6（風情集590～600）	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	受講生の発表7（風情集601～611）	
	フリー欄		
	第9回		
	タイトル	受講生の発表8（風情集612～622）	
	フリー欄		
第10回			
タイトル	受講生の発表9（風情集623～633）		
フリー欄			
第11回			
タイトル	受講生の発表10（風情集633～634）		
フリー欄			
第12回			
タイトル	和歌詠作1		
フリー欄			
第13回			

	タイトル	和歌詠作 2
	フリー欄	
	第 1 4 回	
	タイトル	和歌詠作 3 (公重風に)
	フリー欄	
	第 1 5 回	
	タイトル	和歌詠作 (公重風に)
	フリー欄	
授業概要	平安時代後期の歌人藤原公重の歌集『風情集』末尾の百首は、あたかも自虐・ウツの感情に満ち満ちた大変ユニークな和歌です。本授業では独特のレトリックに満ちた、問題の百首に取り掛かります。各自、宛てられた和歌を読み解き、その意味、技法を発表します。更にⅢAに引き続き王朝風、公重風和歌を各自つくりま	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	常に文法書、古語辞典を携帯し、古典を読む。対象が平安和歌なので、古今和歌集がおすすめ。	
テキスト	コピーを配ります。高校で利用した古典文法、古語辞書必携（電子辞書はお勧めしません）	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	吾と云へば人の言葉はあらし山かくては何と生まれこしぢぞ 「私が…」といふと他人の言葉は荒いのです（荒らしと愛発山が懸詞）。この様な状況では、どうして私は生まれてきたのだらう（と歎かれます）（来しと越路が懸詞） なんて素敵な歌が続出です。 古典文法を復習しながら、貴女の感性にピッタリの和歌世界に浸れます。	
評価方法	演習の発表（100%）	
参考文献	片桐洋一『歌枕・歌ことば辞典』	
備考		

講義科目名称： 近現代文学基礎演習 I A (10143)

授業コード： 10143

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
高畑 早希			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>(1) 文学作品に関連する資料収集力や作品分析能力を身につけることができる。  (2) 文学研究の基本事項を学びながら、適切な作品分析を行うことができる。  (3) 個々の文学作品に対して、自分の主張をわかりやすく他の受講者に説明し、建設的な議論につなげることができる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	前期ガイダンス・発表担当者決め	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	小説の〈読み〉実験	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	作品分析の基礎——語り手・人称・視点	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	作者と読者①——志賀直哉「小僧の神様」読解	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	作者と読者②——志賀直哉「小僧の神様」グループ発表	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	描写的な表現と説明的な表現①——横光利一「蠅」の読解	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	描写的な表現と説明的な表現②——横光利一「蠅」グループ発表	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	ジェンダーと語り①——太宰治「千代女」の読解	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	ジェンダーと語り②——太宰治「千代女」のグループ発表		
フリー欄			
第10回			
タイトル	物語論①——佐藤春夫「女誠扇綺譚」の読解		
フリー欄			
第11回			
タイトル	物語論②——佐藤春夫「女誠扇綺譚」のグループ発表		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	文学と都市空間①——田山花袋「少女病」の読解
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	文学と都市空間②——田山花袋「少女病」のグループ発表
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	ゼミ発表の方法・学術発表の方法
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ
	フリー欄	
授業概要	この授業では、短編小説の精読および発表を受講者に課し、それらを積み重ねることによって資料収集や作品分析の技術を磨くことを目指します。 授業では一つの小説を二回に渡って読んでいきます。一週目は取り扱う小説に関して受講者同士が感想や疑問を共有し、作品を分析するための切り口を見つけていきます。二週目は履修者がグループ発表を行い、ディスカッションしつつ、一週目の論点や作品分析をより深めていきます。	
実務経験及び授業の内容	なし	
時間外学習	受講者は毎回、作品を精読し自身の疑問や論点を整理しておいてください。 発表者は発表内容に関する十分な資料調査を行い、充実したプレゼンテーション資料を作成してください。	
テキスト	河野龍也・佐藤淳一ほか編『大学生のための文学トレーニング 近代編』三省堂、2100円、ISBN：978-4-385-36553-4	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	取り扱う文学作品については必ず授業までに読了しておいてください。発表者には発表内容に関する十分な資料調査と発表資料の作成が求められます。受講者はハンドアウトやノート等を活用しながら、各回毎のテーマ・内容に関して理解を深めてください。	
評価方法	授業中の報告内容40％／質問（事前課題を含む）10％／議論時の発言10％／期末レポート40％	
参考文献	授業の中で適宜指示します。	
備考		

講義科目名称： 近現代文学基礎演習 I B (10144)

授業コード： 10144

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
高畑 早希			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>(1) 文学作品に関連する資料収集力や作品分析能力を身につけることができる。  (2) 文学研究の基本事項を学びながら、適切な作品分析を行うことができる。  (3) 個々の文学作品に対して、自分の主張をわかりやすく他の受講者に説明し、建設的な議論につなげることができる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	後期ガイダンス・発表担当者決め	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	日記と小説①——林芙美子「放浪記」の読解	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	日記と小説②——林芙美子「放浪記」の個人発表	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	メディアと同時代言説①——坂口安吾「真珠」の読解	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	メディアと同時代言説②——坂口安吾「真珠」の個人発表	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	敗戦というコンテクスト①——石川淳「焼跡のイエス」の読解	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	敗戦というコンテクスト②——石川淳「焼跡のイエス」の個人発表	
	フリー欄		
	第8回		
タイトル	小説の生成①——夏目漱石「坊っちゃん」の読解		
フリー欄			
第9回			
タイトル	小説の生成②——夏目漱石「坊っちゃん」の個人発表		
フリー欄			
第10回			
タイトル	典拠・アダプテーション①——芥川龍之介「舞踏会」の読解		
フリー欄			
第11回			
タイトル	典拠・アダプテーション②——芥川龍之介「舞踏会」の個人発表		
フリー欄			

	第12回
	タイトル 読者の誕生①——井伏鱒二「山椒魚」の読解
	フリー欄
	第13回
	タイトル 読者の誕生②——井伏鱒二「山椒魚」の個人発表
	フリー欄
	第14回
	タイトル 「挿絵」——谷崎潤一郎「蓼喰ふ蟲」の読解
	フリー欄
	第15回
	タイトル まとめ
	フリー欄
授業概要	この授業では、短編小説の精読および発表を受講者に課し、それらを積み重ねることによって資料収集や作品分析の技術を磨くことを目指します。 授業では一つの小説を二回に渡って読んでいきます。一週目は取り扱う小説に関して受講者同士が感想や疑問を共有し、作品を分析するための切り口を見つけていきます。二週目は履修者がグループ発表を行い、ディスカッションしつつ、一週目の論点や作品分析をより深めていきます。
実務経験及び授業の内容	なし
時間外学習	受講者は毎回、作品を精読し自身の疑問や論点を整理しておいてください。 発表者は発表内容に関する十分な資料調査を行い、充実したプレゼンテーション資料を作成してください。
テキスト	河野龍也・佐藤淳一ほか編『大学生のための文学トレーニング 近代編』三省堂、2100円、ISBN：978-4-385-36553-4
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	取り扱う文学作品については必ず授業までに読了しておいてください。発表者には発表内容に関する十分な資料調査と発表資料の作成が求められます。受講者はハンドアウトやノート等を活用しながら、各回毎のテーマ・内容に関して理解を深めてください。
評価方法	授業中の報告内容40%/質問（事前課題を含む）10%/議論時の発言10%/期末レポート40%
参考文献	授業の中で適宜指示します。
備考	

講義科目名称： 近現代文学基礎演習ⅡA（10151）

授業コード： 10151

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
今井 瞳良			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	演習形式で現代社会とメディアに関する文献と論文、小説を読みます。到達目標は以下の二つです。①現代社会を読みとく視座と文学作品の読む力を身につける。②議論に参加することによって自身の考えを発信する力と他者の考えを聞く力を身につける。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	プレゼンテーションを学ぶ	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	トーク①	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	文献講読：小林真大『生き抜くためのメディア読解』①：報道写真、広告	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	文献講読：小林真大『生き抜くためのメディア読解』②：表紙、インフォグラフィック	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	文献講読：小林真大『生き抜くためのメディア読解』③：広報、論説文	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	文献講読：小林真大『生き抜くためのメディア読解』④：演説文、ニュース記事	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	文献講読：小林真大『生き抜くためのメディア読解』⑤：評論文、マニュアル	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	文献講読：受講者の関心に合わせてテキストを選定する		
フリー欄			
第10回			
タイトル	文献講読：受講者の関心に合わせてテキストを選定する		
フリー欄			
第11回			
タイトル	文献講読：受講者の関心に合わせてテキストを選定する		
フリー欄			
第12回			
タイトル	文献講読：受講者の関心に合わせてテキストを選定する		

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	ボードゲームを「読む」
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	村田沙耶香『コンビニ人間』・宇佐美りん『推し、燃ゆ』を読む
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	トーク②
	フリー欄	
授業概要	報告者による報告をベースに演習形式で学習します。また、トークでは気になる小説、映画、アニメ、ゲーム、動画、ニュース等について簡単な発表をしてもらいます。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	報告者以外も文献には目を通し、分からないところや疑問点をまとめてくる。	
テキスト	資料をTeamsよりダウンロードできるようにします。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自分の周りにあるメディアに意識を向けるようにしてください。小説を読む力は、自分の周りの世界を読む力でもあります。	
評価方法	授業中の報告（60%）、議論への貢献度（40%）	
参考文献	演習の中で適宜紹介する。	
備考		

講義科目名称： 近現代文学基礎演習ⅡB（10152）

授業コード： 10152

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
今井 瞳良			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	演習形式で芥川龍之介「羅生門」を読んでいくとともに、作品分析について学びます。授業の後半では、各自で作品を選び、分析を発表してもらいます。到達目標は以下の三つです。①文学作品の精読を通して、作品分析の方法を学ぶ。②作品分析を実践して、自身の「読み」を作り出す。③自身の「読み」を他者に理解できるように伝える。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス：論文の書き方を学ぶ	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	作品分析を学ぶ①：なぜ分析するのか	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	作品分析を学ぶ②：どう記述するのか	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	映画『羅生門』（1950年）を見る	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	芥川龍之介「羅生門」とその論点①	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	芥川龍之介「羅生門」とその論点②	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	芥川龍之介「羅生門」とその論点③	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	芥川龍之介「羅生門」とその論点④	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	映画『羅生門』とその論点①		
フリー欄			
第10回			
タイトル	映画『羅生門』とその論点②		
フリー欄			
第11回			
タイトル	個人研究発表①		
フリー欄			
第12回			
タイトル	個人研究発表②		
フリー欄			

	第13回
	タイトル 個人研究発表③
	フリー欄
	第14回
	タイトル 個人研究発表④
	フリー欄
	第15回
	タイトル 個人研究発表⑤
	フリー欄
授業概要	報告者による報告をベースに演習形式で学習します。個人研究では、各自で作品を選んで研究してもらいます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	報告者以外にも文献には目を通し、分からないところや疑問点をまとめてくる。
テキスト	資料をTeamsよりダウンロードできるようにします。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	芥川龍之介の生涯や他の小説なども調べてみて下さい。作品を読んで自分が感じたことを大切にしつつ、なぜ自分がそこに興味を持ったのか考え抜きましょう。
評価方法	授業中の報告（30%）及び議論への貢献度（30%）、期末レポート（40%）
参考文献	演習の中で適宜紹介する。
備考	

講義科目名称： 国語学基礎演習 A (10163)

授業コード： 10163

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
山本 淳			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>国語学国文学の基礎的知見を身につけることを授業テーマの主軸に据えて、古典文学の実文章に触れ、古典文法の基礎的事項を十分に理解し、古典を「読む」技術を身につけることをねらいとします。この授業の受講を通して、</p> <p>①古典文法がしっかり解る ②古典を朗読することが難なく出来る ③書かれている内容から往時の貴族社会の宮中での様子が概ね把握できることを最終目標にして進めます。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	古典の仮名遣いについて確認する	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	日本文学史の時代区分を知る	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	古典文学史の流れを大掴みに把握する（上代・中古・中世・近世文学）	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	辞書の構成について理解する・古語を探查する	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	吉田兼好と『徒然草』について知る①	
	フリー欄	『徒然草』の章段を読む 古典文法の復習① 活用語（動詞 正格型①）	
	第6回		
	タイトル	吉田兼好と『徒然草』について知る②	
	フリー欄	『徒然草』の章段を読む 古典文法の復習② 活用語（動詞 正格型②）	
	第7回		
	タイトル	『伊勢物語』初段～一五段を読む①	
	フリー欄	在原業平をモデルとした章段を読む 古典文法の復習③ 活用語（動詞 変格型）	
	第8回		
タイトル	『伊勢物語』初段～一五段を読む②		
フリー欄	和歌集に採られた歌との関連性を考える 古典文法の復習④ 活用語（動詞の型のまとめ）		
第9回			
タイトル	『伊勢物語』初段～一五段を読む③		
フリー欄	註釈書の註記に従って解釈を施す 古典文法の復習⑤ 活用語（形容詞）		
第10回			
タイトル	『伊勢物語』初段～一五段を読む④		
フリー欄	註釈書の翻案に注意して解釈する 古典文法の復習⑥ 活用語（所謂形容動詞と断定助動詞）		
第11回			

	タイトル	清少納言の活躍した時代について理解する
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	『枕草子』執筆の動機について理解する
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	『枕草子』の本文系統について整理する
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	『枕草子』類聚章段および随想的章段を読む
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	『枕草子』日記的章段を読む
	フリー欄	
授業概要	日本の古典文学におけるおおよその歴史的展開を理解するため、代表的な古典作品、とくに『枕草子』『徒然草』といった随筆や『伊勢物語』等の歌物語を中心教材とし、文体的な特徴を掴む。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	翌週の学習範囲・概要を指定するので、示された部分を事前に読み、要点を掴むようにしてください 授業後は、問題点を整理し、理解の痕跡を残しておくことに努めてください	
テキスト	特段指定するテキストはありません 高校時代の国語科の授業で使用した古語辞典、古典文法のサブテキスト等あれば、座右に御用意ください (電子辞書等に替えても差し支えありません)	
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	高校生の時に、あまり古典に馴染みが無かった方を対象に授業展開する予定です。作業中心に授業を進めることが受講生の理解に結びつくという傾向が授業評価から見て取れますので、できる限り作業を取り入れて進めたいと思います。	
評価方法	授業への参加度(50%)と提出物を頻繁に課しますのでその成果(50%)とを併せて総合的に評価します。	
参考文献	小田勝『読解のための古典文法教室』(和泉書院) 安良岡康作『徒然草全注釈』(角川書店) 竹岡正夫『伊勢物語全評釈』(右文書院) 田中重太郎『枕冊子全注釈』(角川書店)	
備考		

講義科目名称： 国語学基礎演習 B (10164)

授業コード： 10164

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
山本 淳			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>引き続き国語学国文学の基礎的知見を身につけることを授業テーマの主軸に据えて、「国語学基礎演習A」にて習得した古典文法基礎力を基に、古典の読み深を実践します。</p> <p>この授業を通して、</p> <p>① 原典を読むことに馴れる</p> <p>② 古注釈書の読み方を体得するという実践力が身につきます。</p>																																																																				
授業計画	<p>第1回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">演習計画</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2">後期演習のためのおおまかな説明をいたします</td> </tr> </table> <p>第2回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">佐々木弘綱『竹取物語俚言解』について</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第3回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">『竹取物語俚言解』本文・傍注・頭注を読む</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第4回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">発表に備えて各自読みの練習をする① 一変体仮名に馴れる (1) 現代に通用する字母一</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第5回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">発表に備えて各自読みの練習をする② 一変体仮名に馴れる (2) 古筆特有の字母一</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第6回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">発表① 「かぐや姫の生ひ立ち」の段</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第7回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">発表② 「貴公子たちの求婚」の段</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第8回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">発表③ 「石造皇子の御石の鉢」の段</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第9回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">発表④ 「くらもち皇子の蓬萊の玉枝」の段</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第10回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">発表⑤ 「あべ右大臣の火鼠の皮衣」の段</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第11回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">発表⑥ 「大伴大納言の龍の首玉」の段</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第12回</p>			タイトル	演習計画		フリー欄	後期演習のためのおおまかな説明をいたします		タイトル	佐々木弘綱『竹取物語俚言解』について		フリー欄			タイトル	『竹取物語俚言解』本文・傍注・頭注を読む		フリー欄			タイトル	発表に備えて各自読みの練習をする① 一変体仮名に馴れる (1) 現代に通用する字母一		フリー欄			タイトル	発表に備えて各自読みの練習をする② 一変体仮名に馴れる (2) 古筆特有の字母一		フリー欄			タイトル	発表① 「かぐや姫の生ひ立ち」の段		フリー欄			タイトル	発表② 「貴公子たちの求婚」の段		フリー欄			タイトル	発表③ 「石造皇子の御石の鉢」の段		フリー欄			タイトル	発表④ 「くらもち皇子の蓬萊の玉枝」の段		フリー欄			タイトル	発表⑤ 「あべ右大臣の火鼠の皮衣」の段		フリー欄			タイトル	発表⑥ 「大伴大納言の龍の首玉」の段		フリー欄		
タイトル	演習計画																																																																				
フリー欄	後期演習のためのおおまかな説明をいたします																																																																				
タイトル	佐々木弘綱『竹取物語俚言解』について																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	『竹取物語俚言解』本文・傍注・頭注を読む																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	発表に備えて各自読みの練習をする① 一変体仮名に馴れる (1) 現代に通用する字母一																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	発表に備えて各自読みの練習をする② 一変体仮名に馴れる (2) 古筆特有の字母一																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	発表① 「かぐや姫の生ひ立ち」の段																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	発表② 「貴公子たちの求婚」の段																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	発表③ 「石造皇子の御石の鉢」の段																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	発表④ 「くらもち皇子の蓬萊の玉枝」の段																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	発表⑤ 「あべ右大臣の火鼠の皮衣」の段																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	発表⑥ 「大伴大納言の龍の首玉」の段																																																																				
フリー欄																																																																					

	タイトル	発表⑦ 「石上中納言の燕の子安貝」の段
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	発表⑧ 「帝の求婚」の段
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	発表⑨ 「かぐや姫昇天」の段
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	発表⑩ 「ふじの山」の段 と まとめ
	フリー欄	
授業概要	古典が書かれた時代背景を理解しつつ、近世幕末期に成ったとされる『竹取物語』の注釈書を座右に置いて、本文の読みと解釈をゼミ形式で行う。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	「国語学基礎演習A」と同様、翌週の学習範囲・概要を指定します 示された部分を事前に読み、要点を掴むようにしてください 授業後は、問題点を整理し、理解の痕跡を残しておくことに努めてください	
テキスト	「国語学基礎演習A」に同じく、特段指定するテキストはありません 高校時代の国語科の授業で使用した古語辞典、古典文法のサブテキスト等あれば、座右に御用意ください 電子辞書等の利用でも差し支えありません	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「国語学基礎演習A」の学習内容を承けて、受講生による輪読を主体として授業展開します 授業中の積極的発言（授業内容に関与するものに限って）は大歓迎です	
評価方法	授業への参加度(50%)と演習の成果(50%)とを併せて総合的に評価します	
参考文献	小田勝『実例詳解古典文法総覧』（和泉書院） 新編日本古典文学全集『竹取物語』（小学館）	
備考		

講義科目名称： 日本語教育論基礎演習 A (10173)

授業コード： 10173

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
小峰 克之			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	この授業では初級者に対する日本語教育のうち文型の教授を中心とし、その指導方法を理解することを目的としている。 到達目標 1 日本語教育の基本的な文型とその用語を理解し説明できる。 2 教育内容を理解し、実施する場合の優先順位などを考えることができる。 3 初級者に対して日本語教育を実際に教授できる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	導入 日本語教育とは何か	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	文型積み上げ型テキストの概要と授業での扱い	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	文型項目 1 名詞文	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	文型項目 2 指示語	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	文型項目 3 動詞の導入	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	文型項目 4 自他動詞と助詞	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	文型項目 5 授受動詞	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	文型項目 6 形容詞と形容動詞	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	文型項目 7 構文「～は～が～」		
フリー欄			
第10回			
タイトル	文型項目 8 存在の表現と数詞		
フリー欄			
第11回			
タイトル	文型項目 9 形容詞と比較表現		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	文型項目 1 0 動詞の「て形」
	フリー欄	
	第 1 3 回	
	タイトル	文型項目 1 1 「て形」と許可・禁止
	フリー欄	
	第 1 4 回	
	タイトル	文型項目 1 2 「て形」と文の接続
	フリー欄	
	第 1 5 回	
	タイトル	文型項目 1 3 動詞の「ない」形
	フリー欄	
授業概要	文型積み上げ型の初級用テキストを使い、日本語教育が実際どのように行われているかを理解する。また、授業では発表のような形で、学生に学習項目の導入を実演してもらうことも予定している。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	次の授業内容に予め目を通しておき、課題が与えられている場合は次の授業までにやっておく。また、授業後は授業内容を整理して理解しておく。	
テキスト	必要に応じて授業で配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本語教育での教育内容や方法、また考え方は母語話者である私たちが中学高校で学んだ日本語の文法と大きく異なる点が多々ありますので、最初は戸惑うことがあると思いますが、初歩から丁寧に説明しますので、授業の後半ではある程度慣れてくると思います。	
評価方法	発表や実演（70%）、ワークシート等の各種提出物（30%）で評価する。	
参考文献	授業で適宜紹介する。	
備考		

講義科目名称： 日本語教育論基礎演習 B (10174)

授業コード： 10174

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
小峰 克之			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	この授業は「日本語教育論基礎演習A」に引き続き、初級者に対する日本語教育のうち文型を中心に、その教授内容と方法を理解することを目的としている。従って「日本語教育論基礎演習A」で学んだことを前提として授業を進める。 到達目標 1 初級において動詞の「て形」導入以降の教育内容を理解し説明できる。 2 初級における教育範囲を理解し、その優先順位を考えることができる。 3 動詞の「て形」導入以降の教育内容を実際に教授できる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	導入 既習文型の確認と授業方法の説明	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	文型項目 1 可能表現と名詞化	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	文型項目 2 経験の表現・「する」と「なる」	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	文型項目 3 形容詞・形容動詞の普通形	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	文型項目 4 引用・連体修飾	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	文型項目 5 条件の表現	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	文型項目 6 「て形」と授受表現	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	文型項目 7 助詞のまとめ	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	文型項目 8 使役・受け身・使役受け身		
フリー欄			
第10回			
タイトル	文型項目 9 敬語		
フリー欄			
第11回			
タイトル	文型項目 10 様々な条件の表現とその違い		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	文型項目 1 1 自他動詞
	フリー欄	
	第 1 3 回	
	タイトル	文型項目 1 2 瞬間動詞と継続動詞
	フリー欄	
	第 1 4 回	
	タイトル	文型項目 1 3 様々な補助動詞
	フリー欄	
	第 1 5 回	
	タイトル	初級文法のまとめ
	フリー欄	
授業概要	「日本語教育論基礎演習A」に引き続き、文型積み上げ型の指導が実際にどのように行われているかを理解する。また、「基礎演習A」と同様、学生に学習項目の導入を実演してもらうことも予定している。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	次の授業内容に予め目を通しておき、課題が与えられている場合は次の授業までにやっておく。また、授業後は授業内容を整理し、理解しておく。	
テキスト	必要に応じて授業で配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「日本語教育論基礎演習A」の内容を修得していることが前提となっていますので、Aと併せて履修してください。	
評価方法	発表や実演（70%）、ワークシート等の各種提出物（30%）で評価する。	
参考文献	授業で適宜紹介する。	
備考		

講義科目名称： 論理と表現 (10181)

授業コード： 10181

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
今井 瞳良			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放 (教養)			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	論理的な文章表現の基礎であるパラグラフィティングを学びます。到達目標は以下の二つです。①論理的な文章を書く力を身につける。②論理的思考力を身につける。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	なぜ文章は「読めない」のか	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	パラグラフィティング：トピックセンテンスを考える	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	パラグラフィティング：パラグラフを完成させる	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	絵画を例にパラグラフを書いてみる：ライティングの実践	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	絵画を例にパラグラフを書いてみる：ライティングの添削と実践	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	アニメを例にパラグラフを書いてみる	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	パラグラフを増やす：何を書いてはいけないのか	
	フリー欄		
	第9回		
	タイトル	川端康成『日向』を読んでパラグラフを書く	
	フリー欄		
	第10回		
	タイトル	川端康成『雨傘』を読んでパラグラフを書く	
	フリー欄		
	第11回		
	タイトル	パラグラフを増やす：自分の意見と他人の意見を分ける	
	フリー欄		
	第12回		
	タイトル	『日向』・『雨傘』課題総評	
	フリー欄		
第13回			

	タイトル	パラグラフを増やす：並べる順番を考える
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	パラグラフから文章へ
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ：最終課題の総評
	フリー欄	
授業概要	様々な題材を使って文章を書いてもらい、担当教員が添削します（パソコンかスマートフォンで文章作成をしてもらいます）。話し合いの時間も取りますので、論理的に話す練習にもなると思います。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	ネットや新聞などで見かけた気になるニュースを、見出しだけではなく全文読む。	
テキスト	プリントとTeamsにアップロードされた資料を使います。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	一方的な講義ではなく、ワークを中心に進めるので、積極的に授業に参加して下さい。課題は多いですが、論理的な文章を書く力は必ず役に立ちます。	
評価方法	毎授業での課題の習熟度（100%）	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 日本語文書・表現プログラム (10560)

授業コード： 10560

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1	2	選択・教職必修
担当教員			
田中 宣廣			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	①学術論文の構成法の基本, および, 論述内容について理解できる。 ②現在の論文やレポート作成の主流であるパソコンを使った作成法が理解できる。 ③パソコン利用に必要な日本語の文字の成り立ちやローマ字の仕組みについて理解できる。 ④社会人として, 日本語のさまざまな社会的書き方の社会的役割を正しく認識し, 理解できる。 ⑤コミュニケーションと文章表現の関係について理解できる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	講義概要・計画の解説/学生論文編1: パソコン利用論文作成のメリットとその活用法	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	学生論文編2: 研究論文における論述内容+注釈で解説すること	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	学生論文編3: 入門的論文としての卒業論文の構成例+注釈の効果的使用法	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	学生論文編4: 文章の階層構造とその表示法	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	学生論文編5: 読み手が理解しやすい文章の構成とその留意点	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	学生論文編6: 図表の作成と効果的提示法	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	学生論文編7: パソコンの基本操作とファイル管理やバックアップの重要性	
	フリー欄		
	第8回		
タイトル	基本強化編1: 文字の定義, 「漢字」の構成		
フリー欄			
第9回			
タイトル	基本強化編2: 日本の文字の成り立ち		
フリー欄			
第10回			
タイトル	基本強化編3: 「ひらがな」と「カタカナ」		
フリー欄			
第11回			
タイトル	基本強化編4: 日本のローマ字=5種類		
フリー欄			

	第12回
	タイトル 社会文書編 1 : 社会との接触における表現の注意点
	フリー欄
	第13回
	タイトル 社会文書編 2 : 文書の自己アピールの表現～履歴書・志望理由・エントリーシート～
	フリー欄
	第14回
	タイトル 社会文書編 3 : 用件伝達の表現の注意点と作法～手紙・Eメール・電話～
	フリー欄
	第15回
	タイトル 社会文書編 4 : 社会的コミュニケーションの意義～まとめ：社会人となる心構え
	フリー欄
授業概要	①学術論文の構成法の基本, および, 論述内容について考察します。 ②現在の論文やレポート作成の主流であるパソコンを使った作成法を考察します。 ③パソコン利用に必要な日本語の文字の成り立ちやローマ字の仕組みについて考察します。 ④社会人として, 日本語のさまざまな社会的書き方の社会的役割を正しく認識し, 考察します。 ⑤コミュニケーションと文章表現の関係について考察します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	《授業前》 配布資料《プリント》について, 事前に目を通しておきましょう。 講次順に整理し, 当該講とともに他講分も参照できるよう, 用意してください。 《授業後》 講義内容についてあらためて自分なりに整理しておきましょう。
テキスト	教員作成配布資料《プリント》を用い, 投影資料(パワーポイントなど)により進めます。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	社会人の文章として格式があって型式が整えられ, しかも, 明解な文書表現を学びます。特に, パソコン利用の効果的な論文やレポートの書き方は, 今や常識として学んでおく必要があります。 また, 「集中講義」は時間の集中とともに, 気持ちの集中も求められます。通常なら15週にわたり少しずつ考察を進めていく内容を, 4日間で学ぶのは, 気持ちの集中があつてこそ成立します。
評価方法	毎講, 「レポートシート」にその講の主旨を120字程度にまとめて記入し, 提出していただきます。 評価は, 学修姿勢(レポートシートの内容や受講態勢など)により審査します。 試験, また, (時間の掛かる)レポートは課しません。
参考文献	田中宣廣他(2011)『講座 I T と日本語研究 第1巻 コンピュータ利用の基礎知識』(明治書院) ISBN: 9784625434389
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 奈美			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	1. 平安時代の物語文学の文化的背景について理解できる。 2. 物語文学の表現方法(和歌の技法、引歌、草子地など)について理解できる。 3. 辞書などを使って、古文を読解することができる。																																												
授業計画	<p>第1回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>『源氏物語』概説①(「成立と作者」—『紫式部日記』と『源氏物語』)</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第2回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>『源氏物語』概説②(「諸本」、「『源氏物語』の構造」)</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第3回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>『源氏物語』における「帚木」の位置</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>(冒頭の表現—「桐壺」と「帚木」のつながり、「帚木三帖」)</td> </tr> </table> <p>第4回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」①</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>(発端 光源氏と頭中将 頭中将の女性観)</td> </tr> </table> <p>第5回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」②</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>(左馬頭の論① 中の品の女)</td> </tr> </table> <p>第6回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」③</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>(左馬頭の論② 理想の妻)</td> </tr> </table> <p>第7回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」④</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>(左馬頭の体験談① 指喰いの女)</td> </tr> </table> <p>第8回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」⑤</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>(左馬頭の体験談② 木枯の女)</td> </tr> </table> <p>第9回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」⑥</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>(頭中将の体験談 常夏の女)</td> </tr> </table> <p>第10回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」⑦</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>(藤式部丞の体験談 博士の娘/女性論のまとめ)</td> </tr> </table> <p>第11回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>「帚木」巻講読 「光源氏と空蝉」①</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>(発端—方違えのため紀伊守邸へ)</td> </tr> </table> <p>第12回</p>	タイトル	『源氏物語』概説①(「成立と作者」—『紫式部日記』と『源氏物語』)	フリー欄		タイトル	『源氏物語』概説②(「諸本」、「『源氏物語』の構造」)	フリー欄		タイトル	『源氏物語』における「帚木」の位置	フリー欄	(冒頭の表現—「桐壺」と「帚木」のつながり、「帚木三帖」)	タイトル	「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」①	フリー欄	(発端 光源氏と頭中将 頭中将の女性観)	タイトル	「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」②	フリー欄	(左馬頭の論① 中の品の女)	タイトル	「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」③	フリー欄	(左馬頭の論② 理想の妻)	タイトル	「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」④	フリー欄	(左馬頭の体験談① 指喰いの女)	タイトル	「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」⑤	フリー欄	(左馬頭の体験談② 木枯の女)	タイトル	「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」⑥	フリー欄	(頭中将の体験談 常夏の女)	タイトル	「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」⑦	フリー欄	(藤式部丞の体験談 博士の娘/女性論のまとめ)	タイトル	「帚木」巻講読 「光源氏と空蝉」①	フリー欄	(発端—方違えのため紀伊守邸へ)
タイトル	『源氏物語』概説①(「成立と作者」—『紫式部日記』と『源氏物語』)																																												
フリー欄																																													
タイトル	『源氏物語』概説②(「諸本」、「『源氏物語』の構造」)																																												
フリー欄																																													
タイトル	『源氏物語』における「帚木」の位置																																												
フリー欄	(冒頭の表現—「桐壺」と「帚木」のつながり、「帚木三帖」)																																												
タイトル	「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」①																																												
フリー欄	(発端 光源氏と頭中将 頭中将の女性観)																																												
タイトル	「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」②																																												
フリー欄	(左馬頭の論① 中の品の女)																																												
タイトル	「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」③																																												
フリー欄	(左馬頭の論② 理想の妻)																																												
タイトル	「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」④																																												
フリー欄	(左馬頭の体験談① 指喰いの女)																																												
タイトル	「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」⑤																																												
フリー欄	(左馬頭の体験談② 木枯の女)																																												
タイトル	「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」⑥																																												
フリー欄	(頭中将の体験談 常夏の女)																																												
タイトル	「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」⑦																																												
フリー欄	(藤式部丞の体験談 博士の娘/女性論のまとめ)																																												
タイトル	「帚木」巻講読 「光源氏と空蝉」①																																												
フリー欄	(発端—方違えのため紀伊守邸へ)																																												

	タイトル	「帚木」巻講読 「光源氏と空蝉」②
	フリー欄	(女近き旅寝 空蝉の境遇)
	第13回	
	タイトル	「帚木」巻講読 「光源氏と空蝉」③
	フリー欄	(空蝉との契り)
	第14回	
	タイトル	「帚木」巻講読 「光源氏と空蝉」④
	フリー欄	(空蝉という女性)
	第15回	
	タイトル	「帚木」巻講読 「まとめ」
	フリー欄	(空蝉のその後 「恋愛譚の序」としての「帚木」巻)
授業概要	『源氏物語』の概説をした上で、「帚木」巻を講読します。登場人物の心情表現や語句に即して読み、「雨夜の品定め」に論じられる理想の女性像や結婚観、女性の生き方についても考察します。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	翌週学習するテキストの範囲を指定するので、予め読んで、理解しておくこと。	
テキスト	玉上琢彌訳注『源氏物語』第1巻（角川ソフィア文庫）ISBN 9784044024017 税込価格1,100円	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「帚木」巻の「雨夜の品定め」は、後に展開される光源氏の恋愛譚の序と見ることができます。男性貴族たちの失敗談を交えた女性論は、現代にも通じるところがあり、楽しく読めることと思います。登場人物の心理描写、和歌など、『源氏物語』の豊かな表現世界に触れてみてください。毎時、各自の解釈や感想、疑問などを書いてもらい、授業に反映させていく予定です。	
評価方法	出席（15%）、提出物（15%）、筆記試験（70%）	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 古典文学講読Ⅲ (10231)

授業コード： 10231

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	『保元物語』を読み解き、その魅力を知ると共に、その成立について学びます。到達点は、1、歴史と歴史物語の相違、相似の諸相の理解、2、写本間の関係と物語の展開についての理解、3、合戦譚、英雄譚を生む文学的精神、環境の理解になります。		
授業計画	第1回		
	タイトル	導入 保元物語の歴史的背景	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	保元の乱の成立、諸本、作者像	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	『保元物語』と対象歴史史料	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	卷上講読一（乱の発端、崇徳院・藤原頼長）	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	卷上講読二（策士信西の登場、陰謀の深化）	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	卷上講読三（為義、その子英雄為朝の形象）	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	卷上講読四（英雄為朝一党の成立）	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	卷中講読一（合戦、清盛の情弱、山田伊行の暴死）	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	卷中講読二（合戦、義朝・為朝兄弟対決）		
フリー欄			
第10回			
タイトル	卷中講読三（乱戦、関東武士の群像）		
フリー欄			
第11回			
タイトル	卷下講読一（敗走・頼長最期）		
フリー欄			
第12回			
タイトル	卷下講読二（父為義の処刑）		
フリー欄			

	第13回	
	タイトル	卷下講読三（幼児とその母の死）
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	卷下講読四（為朝捕縛流罪）
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	卷下（番外）為朝の冒険と最期
	フリー欄	
授業概要	<p>保元の乱にもとづいた本作品三巻は、歴史的事件に基づきながら、英雄為朝の活躍や源氏の遺児達の処刑場面に見られる様に、物語としての飛躍があります。授業では単に意味を取るのではなく、歴史資料（『愚管抄』・『兵範記』等）との比較、保元物語の諸本（内容が異なる本、半井本・鎌倉本・京凶本・竜門本・金刀比羅本、古活字本等）間の比較を通じて、立体的に物語を精読します。</p>	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	愚管抄、兵範記の関係箇所読解、保元物語各本の対照、関連作品（保元物語・平家物語）の読解	
テキスト	コピーを配ります。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>さまざまな媒体で、源平合戦、あるいは保元の乱についてどこかで知ってゐる、キャラ萌えしてゐる貴女！『保元物語』がその根源ですぞ！</p> <p>しかし歴史資料からする保元の乱の真相、『保元物語』諸本による事件展開、人物造型の相違等、今までとは異なる保元物語が起ち上がって来ると思ひます。</p> <p>読まうと思へば三日で読める分量ぢやが、ねっつく読むぞ（`谷く；）</p>	
評価方法	レポート（100%）	
参考文献	授業で適宜指示	
備考		

講義科目名称： 古典文学作品研究 I (10241)

授業コード： 10241

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択必修
担当教員			
富澤 萌未			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	①日本古典文学に関する基礎知識、研究方法を習得することができる。 ②『うつほ物語』の概要を知り、さらにその特徴を理解する。 ③上記2点を踏まえた上、自分なりの着眼点を持ち、自分の考えを文章にまとめることができる。																																																																																										
授業計画	第1回 <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">『うつほ物語』の概要・清原俊蔭一族の流離と予言</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> 第2回 <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">さまざまな求婚者たち（三奇人・忠こそ・身分の高い求婚者たち）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> 第3回 <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">楽器の上手な求婚者たち（良岑行正・源仲頼）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> 第4回 <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">楽器の上手な求婚者たち（藤原仲忠・源涼）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> 第5回 <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">あて宮求婚譚の顛末</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> 第6回 <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">蔵開・上巻を読む：俊蔭一族の活躍①</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> 第7回 <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">蔵開・中下巻を読む：俊蔭一族の活躍②</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> 第8回 <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">国譲・上中下巻を読む：源氏と藤原氏の立坊争い①</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> 第9回 <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">国譲・上中下巻を読む：源氏と藤原氏の立坊争い②</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> 第10回 <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">楼の上・上下巻を読む：俊蔭一族の琴の伝授</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> 第11回 <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">『うつほ物語』と『源氏物語』：『うつほ物語』の宮あこ</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table>			タイトル	『うつほ物語』の概要・清原俊蔭一族の流離と予言			フリー欄				タイトル	さまざまな求婚者たち（三奇人・忠こそ・身分の高い求婚者たち）			フリー欄				タイトル	楽器の上手な求婚者たち（良岑行正・源仲頼）			フリー欄				タイトル	楽器の上手な求婚者たち（藤原仲忠・源涼）			フリー欄				タイトル	あて宮求婚譚の顛末			フリー欄				タイトル	蔵開・上巻を読む：俊蔭一族の活躍①			フリー欄				タイトル	蔵開・中下巻を読む：俊蔭一族の活躍②			フリー欄				タイトル	国譲・上中下巻を読む：源氏と藤原氏の立坊争い①			フリー欄				タイトル	国譲・上中下巻を読む：源氏と藤原氏の立坊争い②			フリー欄				タイトル	楼の上・上下巻を読む：俊蔭一族の琴の伝授			フリー欄				タイトル	『うつほ物語』と『源氏物語』：『うつほ物語』の宮あこ			フリー欄			
タイトル	『うつほ物語』の概要・清原俊蔭一族の流離と予言																																																																																										
フリー欄																																																																																											
タイトル	さまざまな求婚者たち（三奇人・忠こそ・身分の高い求婚者たち）																																																																																										
フリー欄																																																																																											
タイトル	楽器の上手な求婚者たち（良岑行正・源仲頼）																																																																																										
フリー欄																																																																																											
タイトル	楽器の上手な求婚者たち（藤原仲忠・源涼）																																																																																										
フリー欄																																																																																											
タイトル	あて宮求婚譚の顛末																																																																																										
フリー欄																																																																																											
タイトル	蔵開・上巻を読む：俊蔭一族の活躍①																																																																																										
フリー欄																																																																																											
タイトル	蔵開・中下巻を読む：俊蔭一族の活躍②																																																																																										
フリー欄																																																																																											
タイトル	国譲・上中下巻を読む：源氏と藤原氏の立坊争い①																																																																																										
フリー欄																																																																																											
タイトル	国譲・上中下巻を読む：源氏と藤原氏の立坊争い②																																																																																										
フリー欄																																																																																											
タイトル	楼の上・上下巻を読む：俊蔭一族の琴の伝授																																																																																										
フリー欄																																																																																											
タイトル	『うつほ物語』と『源氏物語』：『うつほ物語』の宮あこ																																																																																										
フリー欄																																																																																											

	第12回
	タイトル 『うつほ物語』と『源氏物語』：『うつほ物語』の宮はた
	フリー欄
	第13回
	タイトル 『うつほ物語』と『源氏物語』：『源氏物語』 「帚木」 「空蝉」 巻の小君
	フリー欄
	第14回
	タイトル 『うつほ物語』 前半部の語りと『源氏物語』の語り
	フリー欄
	第15回
	タイトル 『うつほ物語』 後半部の語りと『源氏物語』の語り
	フリー欄
授業概要	『源氏物語』はそれ以前に成立した『うつほ物語』から大きな影響を受けている。しかし、『源氏物語』と比較して、『うつほ物語』の概要やその特徴はあまり知られていない。本講義では、『うつほ物語』の概要を確認することで、『うつほ物語』が切り開いた物語の長編化の方法や描写の方法を読み解く。さらに、『うつほ物語』が『源氏物語』に与えた影響についても一部確認する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	【予習】 ・授業で扱う作品（『うつほ物語』や『源氏物語』）のあらすじを参考書などでつかんでおく。 【復習】 ・授業で配った資料を読み直し、必要があれば調査して自分なりの考えをまとめておく。
テキスト	毎回、資料を配布して授業を進める。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	『うつほ物語』は『源氏物語』やさまざまな作品に影響を与えた重要な作品です。また、筋の展開もおもしろく、個性的な人物も多く登場する、魅力のある作品です。しかし、授業概要で述べたように、その内容はあまり知られていません。本講義では、この作品の概要をたどりながら、その魅力に迫りたいと思います。ぜひあらすじや言葉の使い方の巧みさを楽しみつつ、自分なりの感想や意見を持って考えて見ましょう。それを、ぜひ授業内の発話やリアクションペーパーで発信してみてください。
評価方法	レポート（60%）、リアクションペーパーをはじめとする授業への参加度（40%）
参考文献	・室城秀之『うつほ物語 ビギナーズ・クラシックス 日本の古典』（角川ソフィア文庫、2007年）
備考	

講義科目名称： 古典文学作品研究Ⅱ（10251）

授業コード： 10251

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 奈美			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	1. 平安時代の物語文学の文化的背景について理解できる。 2. 物語文学の表現方法(和歌の技法、引歌、草子地など)について理解できる。 3. 辞書などを使って、古文を読解することができる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	『源氏物語』概説①（「成立と作者」）	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	『源氏物語』概説②（「諸本」「『源氏物語』の構造」）	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	『源氏物語』の主要な登場人物について（「作中人物論」）	
	フリー欄	物語の「葵」巻までの展開	
	第4回		
	タイトル	「葵」巻講読「御代がわり」（帝の譲位にともなう状況の変化）	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	「葵」巻講読「葵の上と六条御息所」（『源氏物語』の婚姻）	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	「葵」巻講読「車争い」（人物描写の比較）	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	「葵」巻講読「祭りの日」（葵の上・六条御息所への評価と若紫）	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	「葵」巻講読「六条御息所の懊悩と物の怪」（「物の怪」とは何か）	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	「葵」巻講読「葵の上の出産と死」①(物の怪との対面)		
フリー欄			
第10回			
タイトル	「葵」巻講読「葵の上の出産と死」②(産後の葵の上)		
フリー欄			
第11回			
タイトル	「葵」巻講読「葵の上追悼」①(葵の上の葬送と光源氏の悲嘆)		
フリー欄			
第12回			
タイトル	「葵」巻講読「葵の上追悼」②(光源氏の傷心と和歌)		

	フリー欄
	第13回
タイトル	「葵」巻講読「若紫との結婚」①(新枕と三日夜の餅)
フリー欄	
	第14回
タイトル	「葵」巻講読「若紫との結婚」②(若紫の裳着)
フリー欄	
	第15回
タイトル	「葵」巻講読「まとめ」(その後の人々)
フリー欄	
授業概要	『源氏物語』の概説をした上で、「葵」巻を講読します。六条御息所、葵の上などの登場人物の内面の描写、和歌、語句などを読み解き、内容についての理解を深めるとともに、平安時代の結婚のあり方・「物の怪」信仰など文化的背景についても解説します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	翌週学習するテキストの範囲を指定するので、予め読んで、理解しておくこと。
テキスト	玉上琢彌訳注『源氏物語』第2巻(角川ソフィア文庫) ISBN 9784044024024 税込価格880円
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	「葵」巻には、車争い、六条御息所の生霊など後世の作品にも影響を与えた名場面が多く描かれています。六条御息所、葵の上ら登場人物たちの心情の描写、巧みな物語展開など、豊かな表現世界に触れてみてください。毎時、各自の解釈や感想、疑問などを書いてもらい、授業に反映させる予定です。
評価方法	出席(15%)、提出物(15%)、筆記試験(70%)
参考文献	
備考	

講義科目名称： 古典文学作品研究Ⅲ (10261)

授業コード： 10261

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	『平治物語』を読み解き、その魅力を知ると共に、その成立について学びます。到達目標は、1、歴史と歴史物語の相違、相似についての理解、2、写本間の相違と文学の展開についての理解、3、合戦譚、英雄譚を生む文学精神、環境についての理解、になります。		
授業計画	第1回		
	タイトル	導入 平治の乱の歴史的背景	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	平治物語の成立・諸本・作者像、対象史料について	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	卷上講読一 不用者信頼と大学者信西	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	卷上講読二 (焼討と信西最後の謎、その解明)	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	卷上講読三 清盛・重盛の造形	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	卷上講読四 物語の転機 (光頼諫言・天皇脱出の虚実)	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	卷上講読五 (信頼像の瓦解と悪源太の登場)	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	卷中講読一 (重盛と義平の激突)	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	卷中講読二 (六波羅の決選と源氏の敗北)		
フリー欄			
第10回			
タイトル	卷中講読三 (源氏壊走)		
フリー欄			
第11回			
タイトル	卷中講読四 (義朝の最期、頼朝の捕縛)		
フリー欄			
第12回			
タイトル	卷下講読一 (義平の潜伏と刑死、怨霊化)		
フリー欄			

	第13回	
	タイトル	卷下講読二（頼朝助命、配流）
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	卷下講読三（常盤の苦衷）
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	卷下講読四（源氏開運）
	フリー欄	
授業概要	平治の乱にもとづいた本作品三巻は、歴史的事件に基づきながら、藤原信頼、信西等の造型に見られる様に、物語としての飛躍があります。授業では単に意味を取るのではなく、平治物語の諸本（内容が異なる本、陽明本・九条本、『平治物語絵詞』、金刀比等本）間の比較、他物語（『平家物語』・舞の本）との比較を通じて、立体的に物語を精読します。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	愚管抄の関係箇所読解、平治物語各本の対照、関連作品（保元物語・平家物語）の読解	
テキスト	コピーを配ります。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	歴史資料が不足してゐる為、平治の乱の真相は不明な所が多いのです。また源氏の敗北と悲話の部分には、民間伝承の反映が予想され、『保元物語』とも異なります。それでも謎の多い魔術師信西の自害、後白河院の脱出、源氏名刀伝説等、物語として興味深いです。読まうと思へば三日で読める分量ぢやが、ねっつく読むぞ（谷）；	
評価方法	レポート（100%）	
参考文献	授業中、適宜指示	
備考		

講義科目名称： 古典文学特講 I (10271)

授業コード： 10271

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択必修
担当教員			
富澤 萌未			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	①日本古典文学に関する基礎知識、研究方法を習得することができる。 ②平安時代の文学作品と絵の関係を理解する。 ③上記2点を踏まえた上、自分なりの着眼点を持ち、自分の考えを文章にまとめることができる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	屏風・障子歌と絵①	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	屏風・障子歌と絵②	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	屏風・障子歌と絵③	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	贈答歌と絵①	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	贈答歌と絵②	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	独詠歌と絵	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	物語絵の和歌化	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	大和物語	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	蜻蛉日記		
フリー欄			
第10回			
タイトル	枕草子		
フリー欄			
第11回			
タイトル	源氏物語①		
フリー欄			
第12回			
タイトル	源氏物語②		

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	源氏物語③
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	狭衣物語
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	物語の絵画化・まとめ
	フリー欄	
授業概要	平安時代の文学作品には、絵の人物に成り代わって歌を詠む、絵の中の人物に感情移入する、絵の中の人物に感情移入して自らを省みるといった場面がある。本講義では、このような場面を丁寧に読み解くことで、平安時代の文学と絵の関係を考える。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	<b>【予習】</b> ・授業で扱う作品のあらすじを参考書などでつかんでおく。 <b>【復習】</b> ・授業で配った資料を読み直し、必要があれば調査して自分なりの考えをまとめておく。 ・授業で扱った作品は、授業では触れなかった場面も目を通しておく。	
テキスト	毎回、資料を配布して授業を進める。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	平安時代の文学には、絵と文が融合した作品があります。現代でも、マンガをはじめとしたさまざまな作品において、絵が重要な役割を果たしています。本講義では、平安時代文学における絵と文学の融合した作品を丁寧に解説することで、文字だけでは成立しなかった文学の可能性を確認します。現代楽しんでいる作品と本講義で扱う作品を比較しながら、いろいろ考えてみましょう。それを授業内の発話やリアクションペーパーで発信してみてください。	
評価方法	レポート（60%）、リアクションペーパーをはじめとする授業への参加度（40%）	
参考文献	・川名淳子 『物語世界における絵画的領域—平安文学の表現方法』（ブリュッケ、2005年） ・田島智子 『屏風歌の研究』（和泉書院、2007年）	
備考		

講義科目名称： 古典文学特講Ⅱ（10281）

授業コード： 10281

英文科目名称： ー

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
石黒 志保			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	勅撰和歌集『新古今和歌集』所収の和歌を詠み解くことで、当時の言語表現や感情の表し方について学びます。講義を通して「和歌」とはなにか、を自らで考え、発表報告することを目的とします。また、発表者の報告を聞き、積極的な質疑応答を行うことで、和歌文学への理解を深めることを望みます。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	中世和歌論概説	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	『新古今和歌集』仮名序・真名序をよむ	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	『新古今和歌集』春歌上・下	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	『新古今和歌集』夏歌	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	『新古今和歌集』秋歌上・下	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	『新古今和歌集』冬歌	
	フリー欄		
	第8回		
タイトル	『新古今和歌集』賀歌・哀傷歌		
フリー欄			
第9回			
タイトル	『新古今和歌集』離別歌・羈旅歌		
フリー欄			
第10回			
タイトル	『新古今和歌集』恋歌一・二		
フリー欄			
第11回			
タイトル	『新古今和歌集』恋歌三・四・五		
フリー欄			

	第12回
	タイトル 『新古今和歌集』 雑歌上・中・下
	フリー欄
	第13回
	タイトル 『新古今和歌集』 神祇歌
	フリー欄
	第14回
	タイトル 『新古今和歌集』 釈教歌
	フリー欄
	第15回
	タイトル まとめ
	フリー欄
授業概要	『新古今和歌集』の部立ごとに、発表者による輪読・研究発表を中心に読解を進めます。進め方や発表の方法については、第1回ガイダンス時に履修者と相談の上、決めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	自身の発表前には、和歌を熟読し、先行研究や語句・用例の調査をしっかりと行なった上で発表に臨んでください。発表以外でも、授業前には該当箇所和歌について熟読した上で、授業に臨んでください。
テキスト	久保田淳訳注『新古今和歌集』上・下（角川ソフィア文庫） ISBN:978-4044001025 / 978-4044001032
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講を考えている方は、必ず第1回ガイダンスに参加してください。発表の順番や方法について決めますので、欠席の場合は必ず早めに教員に相談してください。
評価方法	発表報告（50%）、授業の参加度（50%）
参考文献	適宜、授業内で紹介します。
備考	

講義科目名称： 古典文学特講Ⅲ（10291）

授業コード： 10291

英文科目名称： ー

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	昔話と口承文学との関係、特に東アジア伝来の口承文芸を視野に入れて、成立、共通性、日本の独自性について考察する。到達目標は、1、昔話の存在形式についての理解、2、昔話解釈の諸方法（その歴史）についての理解、3、日本昔話と朝鮮昔話との共通性の理解、になります。		
授業計画	第1回		
	タイトル	導入ー昔話とは？享受の現状、魅力とは？	
	フリー欄		
	第2～3回		
	タイトル	口承文芸全般の中の昔話（伝説、語り物等との関係）	
	フリー欄		
	第4～8回		
	タイトル	昔話研究史（グリム兄弟、人類学説、地理伝播説、文芸学的分析、精神分析的方法）	
	フリー欄		
	第9～10回		
	タイトル	日本、朝鮮、中国の口承文芸の概観	
	フリー欄		
	第11～12回		
	タイトル	法明童子と沈清伝	
	フリー欄		
第13～14回			
タイトル	酒呑童子と韓国の昔話		
フリー欄			
第15回			
タイトル	まとめ		
フリー欄			
授業概要	国内の昔話研究が確立まで、比較研究は差し控へるといふのが、柳田国男の提言でした。然るに近年、中国・韓国・モンゴル・チベットの昔話が多く紹介され、日本の昔話、及び中世の物語との近似が注目されてをります。前半では、昔話とはどのような言説なのか研究史を辿り、後半は中世の物語と日本の口承文芸、更には東アジアの口承文芸との比較を試みます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	日本の昔話集は各種あります。適宜読んでみて下さい。		
テキスト	コピー配ります		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	まさか、アノ物語が、韓国の昔話・芸能とクリソツなんて！		
評価方法	レポート（100%）		
参考文献	鵜野祐介『日中韓の昔話ー共通話型三〇選』 崔仁鶴『韓国昔話集成』1～8 『日本昔話通観 研究編1 日本昔話とモンゴロイドー昔話の比較記述ー』		
備考			

講義科目名称： 近現代文学講読 I (10411)

授業コード： 10411

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
高畑 早希			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	(1) フェミニズム・ジェンダー研究の基礎的な事項や展開を概説できる (2) 文学研究におけるフェミニズム・ジェンダー研究の基礎的な成果をふまえて、文芸作品を精読し分析的に批評できる		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	読書の歴史とジェンダー①——明治時代の読書	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	読書の歴史とジェンダー②——明治期から戦前戦中期の女性の読書環境	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	〈お話〉の歴史とジェンダー ——家庭教育を担うのは誰？	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	漫画・アニメ『はいからさんが通る』から見る大正時代の女子教育	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	大正期の女性作家と生活——田村俊子「彼女の生活」(1915)	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	作家を夢見る「少女」たち——1930年代の女性誌を読む	
	フリー欄		
	第8回		
タイトル	小括とフェミニズムの歴史——四つの波の展開と現在		
フリー欄			
第9回			
タイトル	萩尾望都のマンガで読む母娘関係		
フリー欄			
第10回			
タイトル	小説が模索する「私たち」の関係性——江國香織『きらきらひかる』(1991)		
フリー欄			
第11回			
タイトル	現代社会をサバイブする労働者たち——津村記久子『ポトスライムの舟』(2008)		

	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	女性障害者の「性」とケア——田辺聖子「ジョゼと虎と魚たち」(1984)
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	瀬尾まいこ原作・三宅唱監督映画『夜明けのすべて』(2024)の鑑賞と分析
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	『夜明けのすべて』つづき——「男女の恋愛」ではなくて
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ
	フリー欄	
授業概要	この授業では、『ジェンダー×小説 ガイドブック：日本近現代文学の読み方』（ひつじ書房）を教科書にして、この本がとりあげるフェミニズム・ジェンダー論のテーマを概観しつつ、テーマに関連する中短編小説を読みます。文学研究におけるフェミニズム・ジェンダー研究の成果を学びつつ、小説を分析的に読む能力を身につけます。	
実務経験及び授業の内容	なし	
時間外学習	事前に読了するよう指示のあった文芸作品や資料については、該当の授業までに必ず一読してください。また、ハンドアウトやノートなどを活用しながら各回の内容に関して理解を深めてください。	
テキスト	飯田祐子・小平麻衣子編『ジェンダー×小説 ガイドブック：日本近現代文学の読み方』ひつじ書房、2200円、ISBN：978-4-8234-1192-2	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生同士の対話の機会も設けますが、主として講義形式で実施します。</li> <li>・受講生には毎回の授業時にハンドアウトを配布します。授業で使用する資料や文芸作品等については教員が適宜配布します。</li> <li>・授業中に、教師がテキストの内容に関わる感想や質問を求めたり、授業前後にコメントや課題の提出を課したりする場合があります。</li> </ul>	
評価方法	毎回の授業時のコメントシート（ミニ課題を含む）40% 期末レポート60%	
参考文献	授業時に適宜紹介します。	
備考		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
今井 瞳良			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	西加奈子『円卓』を一度読み通した後、家族と居住空間に関する歴史的脈を学び、再び『円卓』を読み直す。到達目標は以下の三つです。①長編小説を読み通す力を身につける。②長編小説を二回読むことで、一回目では気がつかなかった細部を発見する。③歴史的背景に小説を位置付けることで新たな「読み」を発見する。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイドランス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	映画『家族ゲーム』（1983年）を見る	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	家族とは何か：「近代家族」論を学ぶ講義	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	西加奈子『円卓』精読①	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	西加奈子『円卓』精読②	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	西加奈子『円卓』精読③	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	家族と居住空間①：団地と家族（映画『私は二歳』）	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	家族と居住空間②：団地と家族（映画『しとやかな獣』）	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	家族と居住空間③：家族の壊し方（映画・テレビドラマ『家族ゲーム』と映画『逆噴射家族』）		
フリー欄			
第10回			
タイトル	家族と居住空間④：団地の主婦たち（小説・映画『OUT』）		
フリー欄			
第11回			
タイトル	家族と居住空間⑤：団地の子どもたち（映画『どこまでもいこう』）		
フリー欄			
第12回			
タイトル	映画『円卓、こっこひと夏のイマジジン』（2014年）を見る		

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	西加奈子『円卓』精読④：「かっこええ」問答と8月15日
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	西加奈子『円卓』精読⑤：「成長」はいいことなのか？
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ
	フリー欄	
授業概要	西加奈子『円卓』を二回読みます。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	西加奈子の他の作品も読んでみて下さい。	
テキスト	西加奈子『円卓』（文春文庫、2013年、550円、ISBN978-4-16-786101-8） ※購買で購入できます、西加奈子『円卓』であれば他の版でも問題ありません。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	最初の「読み」を大切にしつつ、歴史的な文脈を知ることで、より楽しく小説を読むことができるようになりますと思います。担当教員が振り返りシートを2～3回ほど確認し、応答する時間を取ります。自身の「読み」を積極的に発信して下さい。	
評価方法	授業振り返りシート（10%）、中間レポート（30%）、最終レポート（60%）	
参考文献	授業中に適宜紹介する。	
備考		

講義科目名称： 近現代文学作品研究 I (10431)

授業コード： 10431

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
高畑 早希			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	(1) 〈家〉を切り口に近代から現代までの文化史の流れを概説できる (2) 文学研究の基礎をふまえて、小説作品を分析的に批評することができる		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	文学の中の家①：二葉亭四迷『浮雲』の下宿	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	文学の中の家②：森鷗外『雁』の妾宅	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	文学の中の家③：樋口一葉『たけくらべ』の遊郭	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	文学の中の家④：夏目漱石『門』の崖下の借家	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	小括（1）：明治時代の〈家〉とは	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	文学の中の家⑤：佐藤春夫『田園の憂鬱』の「田舎」の家	
	フリー欄		
	第8回		
タイトル	文学の中の家⑥：泉鏡花『草迷宮』の化物屋敷		
フリー欄			
第9回			
タイトル	文学の中の家⑦：江戸川乱歩『人間椅子』の文化住宅		
フリー欄			
第10回			
タイトル	小括（2）：大正時代の〈家〉とは		
フリー欄			
第11回			
タイトル	文学のなかの家⑧：疎開先の家		
フリー欄			

	第12回
	タイトル 文学のなかの家⑨：戦後の公団住宅
	フリー欄
	第13回
	タイトル 文学のなかの家⑩：吉本ばなな『キッチン』
	フリー欄
	第14回
	タイトル 文学のなかの家⑪：女性二人暮らしの家
	フリー欄
	第15回
	タイトル まとめ
	フリー欄
授業概要	この授業では近現代の小説を〈家〉という切り口で概観します。みなさんにも身近な存在である〈家〉は、さまざまな文学の舞台になってきました。家族構成や学歴、結婚観など、その社会における価値観を文学の描く〈家〉を通じて読み解くと同時に、〈家〉が文学へどのように影響しているのかを具体的な作品に基づいて講義します。
実務経験及び授業の内容	なし
時間外学習	事前に読了するよう指示のあった文芸作品や資料については、該当の授業までに必ず一読してください。また、ハンドアウトやノートなどを活用しながら各回の内容に関して理解を深めてください。
テキスト	なし
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生同士の対話の機会も設けますが、主として講義形式で実施します。</li> <li>・受講生には毎回の授業時にハンドアウトを配布します。授業で使用する資料や文芸作品等については教員が適宜配布します。</li> <li>・授業中に、教師がテキストの内容に関わる感想や質問を求めたり、授業前後にコメントや課題の提出を課したりする場合があります。</li> </ul>
評価方法	毎回の授業時のリアクションペーパー（ミニ課題を含む）40% 期末レポート60%
参考文献	西川祐子『増補 借家と持ち家の文学史』平凡社、2023年 そのほか授業時に適宜紹介します。
備考	

講義科目名称： 近現代文学作品研究Ⅱ（10441）

授業コード： 10441

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
今井 瞳良			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	川端康成『山の音』を一度読み通した後、川端に関するこれまでの研究成果を学び、再び『山の音』を読みます。到達目標は以下の三つです。①長編小説を読み通す力を身につける。②長編小説を二回読むことで、一回目では気がつかなかった細部を発見する。③文学研究の蓄積を学んだ上で新たな「読み」を発見する。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	川端康成とは何者か①：川端康成の幼年・青年期を学ぶ講義	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	川端康成とは何者か②：川端康成の作家活動を学ぶ講義	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	川端康成『山の音』精読①：「山の音」、「蟬の羽」、「雲の炎」、「栗の実」	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	川端康成『山の音』精読②：「島の夢」、「冬の桜」、「朝の水」、「夜の声」	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	川端康成『山の音』精読③：「春の鐘」、「鳥の家」、「都の苑」、「傷の後」	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	川端康成『山の音』精読④：「雨の中」、「蚊の群」、「蛇の卵」、「秋の魚」	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	戦後小説としての『山の音』	
	フリー欄		
	第9回		
	タイトル	家族小説としての『山の音』	
	フリー欄		
	第10回		
	タイトル	妊娠小説としての『山の音』	
	フリー欄		
	第11回		
	タイトル	映画『山の音』（1954年）を見る	
	フリー欄		
	第12回		

	タイトル	妊娠映画としての『山の音』
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	川端康成『山の音』精読⑤：あらすじを書く・読む
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	川端康成『山の音』精読⑥：戦後とアメリカ
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	『山の音』をテキストマイニングする、まとめ
	フリー欄	
授業概要	川端康成『山の音』を二回精読します。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	川端康成の他の作品も読んでみて下さい。	
テキスト	川端康成『山の音』（新潮文庫、1957年、825円、ISBN978-4-10-100242-2） ※購買で購入できるようにしますが、川端康成『山の音』であれば他の版でも問題ありません。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	最初の「読み」を大切にしつつ、歴史的文脈を知ること、より楽しく小説を読むことができるようになると思います。自身の「読み」を積極的に発信して下さい。	
評価方法	振り返りシート（20%）、中間レポート／発表（40%）、最終レポート（40%）	
参考文献	授業中に適宜紹介する。	
備考		

講義科目名称： 近現代文学特講 I (10451)

授業コード： 10451

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
高畑 早希			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	(1) 〈怪異〉を切り口に近代の文化史の流れを概説できる (2) 文学研究の基礎をふまえて、小説作品を分析的に批評することができる		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	明治期の「怪談ブーム」について	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	幽霊と心霊学——夏目漱石「琴のそら音」 (1905)	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	超能力と科学——「千里眼事件」からみる科学と迷信	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	怪談と事実のあいだ——柳田國男『遠野物語』 (1910)	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	郊外を歩く奇妙な男——田山花袋「少女病」 (1907)	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	性科学と逸脱する身体——田山花袋「少女病」 (1907) 続き	
	フリー欄		
	第8回		
タイトル	狂気と都市怪談——芥川龍之介「歯車」 (1927)		
フリー欄			
第9回			
タイトル	映画化された身に覚えのない身体——谷崎潤一郎「人面疽」 (1918)		
フリー欄			
第10回			
タイトル	不気味な童話——宮澤賢治「月夜のでんしんばしら」 (1924)		
フリー欄			
第11回			
タイトル	のぞきからくりの魔力——江戸川乱歩「押絵と旅する男」 (1929)		
フリー欄			

	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	労働の不安と都市——葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」(1926)
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	戦争と怪談——吉屋信子「生霊」(1950)
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	1970年代のオカルトブームと少年漫画
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ
	フリー欄	
授業概要	私たちはどんなときに「怪しい」と感じたり「普通じゃない」と思ったりするのでしょうか。この授業では日本の近現代文学がとらえてきた様々な〈怪異〉や〈奇妙なもの〉、〈不気味なもの〉を分析的に読み解くことでそのことを考えます。	
実務経験及び授業の内容	なし	
時間外学習	事前に読了するよう指示のあった文芸作品や資料については、該当の授業までに必ず一読してください。また、ハンドアウトやノートなどを活用しながら各回の内容に関して理解を深めてください。	
テキスト	なし	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生同士の対話の機会も設けますが、主として講義形式で実施します。</li> <li>・受講生には毎回の授業時にハンドアウトを配布します。授業で使用する資料や文芸作品等については教員が適宜配布します。</li> <li>・授業中に、教師がテキストの内容に関わる感想や質問を求めたり、授業前後にコメントや課題の提出を課したりする場合があります。</li> </ul>	
評価方法	毎回の授業時のリアクションペーパー（ミニ課題を含む）40% 期末レポート60%	
参考文献	一柳廣孝『怪異の表象空間 メディア・オカルト・サブカルチャー』国書刊行会、2020年 怪異怪談研究会監修／茂木謙之介・小松史生子ほか編『〈怪異〉とナショナリズム』青弓社、2021年 怪異怪談研究会監修／乾英治郎・小松史生子ほか編『〈怪異〉とミステリ 日本近代文学は何を「謎」としてきたか』青弓社、2022年	
備考		

講義科目名称： 近現代文学特講Ⅱ（10461）

授業コード： 10461

英文科目名称： ー

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
今井 瞳良			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	主に「近現代文学」を書かれた歴史的・社会的背景や、映画・アニメなど他のメディアとの関係に目を配りながら読み解いていきます。到達目標は以下の三つです。①小説や映画、アニメの細部を丁寧に読み解くことで、自身の「読み」を作り出す力を身につける。②自分の「読み」を発信する力と、他の人の多様な「読み」を聞く力を身につける。③歴史的・社会的・メディア的背景へ目を向けることで、自身の「読み」を別の視点から捉えなおし、相対化する力を身につける。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス：文学的なことは社会的なこと	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	「文豪」はつくられる	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	志賀直哉『暗夜行路』を「戦後」に読む	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	「内向の世代」の空間	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	三島由紀夫は映画に「敗北」したか	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	中間のまとめ：「文豪」の時代の終わり	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	文学と文学と映画に描かれた病①：堀辰雄『風立ちぬ』	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	文学と映画に描かれた病②：松本清張『砂の器』	
	フリー欄		
	第9回		
	タイトル	映画『ドグラ・マグラ』（松本俊夫監督、1988年）を見る	
	フリー欄		
	第10回		
	タイトル	文学と映画に描かれた病③：夢野久作『ドグラ・マグラ』	
	フリー欄		
	第11回		
	タイトル	SFの現代性：大江健三郎『治療塔』・『治療棟惑星』	
	フリー欄		
	第12回		
	タイトル	映画『息の跡』（小森はるか監督、2016年）を見る	

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	3.11震災文学と震災ドキュメンタリー映画：津島佑子『半減期を祝って』と『息の跡』
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	戦争の記憶の「現在」：村上春樹『ねじまき鳥クロニクル』
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ
	フリー欄	
授業概要	戦後以降の小説を多角的に捉えることで、いま小説を読むことの意味について考えたいと思います。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	授業で扱う作品は可能な範囲で目を通してください。	
テキスト	資料をTeamsよりダウンロードできるようにします。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生の関心に合わせて可能な限り言及する作家・小説を増やします。担当教員が振り返りシートを2～3回ほど確認し、応答する時間を取ります。積極的に意見を発信してください。	
評価方法	振り返りシート（30%）、レポート（70%）	
参考文献	授業中に適宜紹介する。	
備考		

講義科目名称： 音声表現法A (10512)

授業コード： 10514

英文科目名称： Phonetics of Japanese Language Phase A

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
山本 淳			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>この授業のテーマは「ヒトが音声をどのように放射して感知するのか全体的な仕組みを理解する」ことです。          受講を通して、ヒトの発する音声について、          ①物理的側面から発声から実音に到る仕組みの全容が理解できます          ②聴覚的にどのように音声を捉えるのかその全体像が把握できます          うえの2点は最終到達目標でもありますので、各回ごと少しずつですが、理解の範疇を拡げてゆきましょう。</p>																																																																				
授業計画	<p>第1回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">導入 言語形成期と言語歴</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2">受講者自身の言語形成についての内省・記述</td> </tr> </table> <p>第2回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">話し言葉の音声① ーオトとオンとー</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2">「音」の二面性</td> </tr> </table> <p>第3回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">話し言葉の音声② 一音の種類ー</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2">音全体の中の音声の占める位置</td> </tr> </table> <p>第4回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">音声器官</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2">音声を形成するヒトの音声器官の部位と役割</td> </tr> </table> <p>第5回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">音の分類と分析方法</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2">ヒトの発する音の性質と分類方法</td> </tr> </table> <p>第6回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">音の強さと大きさ</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2">音の物理的強さ、聴覚的大きさ</td> </tr> </table> <p>第7回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">音の強さの尺度</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2">音圧、デシベル、音のスペクトル</td> </tr> </table> <p>第8回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">音の刺激量</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2">フェヒナーの法則、ウェーバーの法則</td> </tr> </table> <p>第9回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">音の高さ</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2">オクターブ感覚、メル尺度、聴覚器官の構造、聴覚フィルタ</td> </tr> </table> <p>第10回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">母音の生成としくみ</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2">喉頭原音、構音・調音、基音・倍音</td> </tr> </table> <p>第11回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">母音・鼻音とフォルマント</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2">ソース・フィルタモデル、鼻音フォルマント</td> </tr> </table> <p>第12回</p>			タイトル	導入 言語形成期と言語歴		フリー欄	受講者自身の言語形成についての内省・記述		タイトル	話し言葉の音声① ーオトとオンとー		フリー欄	「音」の二面性		タイトル	話し言葉の音声② 一音の種類ー		フリー欄	音全体の中の音声の占める位置		タイトル	音声器官		フリー欄	音声を形成するヒトの音声器官の部位と役割		タイトル	音の分類と分析方法		フリー欄	ヒトの発する音の性質と分類方法		タイトル	音の強さと大きさ		フリー欄	音の物理的強さ、聴覚的大きさ		タイトル	音の強さの尺度		フリー欄	音圧、デシベル、音のスペクトル		タイトル	音の刺激量		フリー欄	フェヒナーの法則、ウェーバーの法則		タイトル	音の高さ		フリー欄	オクターブ感覚、メル尺度、聴覚器官の構造、聴覚フィルタ		タイトル	母音の生成としくみ		フリー欄	喉頭原音、構音・調音、基音・倍音		タイトル	母音・鼻音とフォルマント		フリー欄	ソース・フィルタモデル、鼻音フォルマント	
タイトル	導入 言語形成期と言語歴																																																																				
フリー欄	受講者自身の言語形成についての内省・記述																																																																				
タイトル	話し言葉の音声① ーオトとオンとー																																																																				
フリー欄	「音」の二面性																																																																				
タイトル	話し言葉の音声② 一音の種類ー																																																																				
フリー欄	音全体の中の音声の占める位置																																																																				
タイトル	音声器官																																																																				
フリー欄	音声を形成するヒトの音声器官の部位と役割																																																																				
タイトル	音の分類と分析方法																																																																				
フリー欄	ヒトの発する音の性質と分類方法																																																																				
タイトル	音の強さと大きさ																																																																				
フリー欄	音の物理的強さ、聴覚的大きさ																																																																				
タイトル	音の強さの尺度																																																																				
フリー欄	音圧、デシベル、音のスペクトル																																																																				
タイトル	音の刺激量																																																																				
フリー欄	フェヒナーの法則、ウェーバーの法則																																																																				
タイトル	音の高さ																																																																				
フリー欄	オクターブ感覚、メル尺度、聴覚器官の構造、聴覚フィルタ																																																																				
タイトル	母音の生成としくみ																																																																				
フリー欄	喉頭原音、構音・調音、基音・倍音																																																																				
タイトル	母音・鼻音とフォルマント																																																																				
フリー欄	ソース・フィルタモデル、鼻音フォルマント																																																																				

	タイトル	子音の分類
	フリー欄	子音分類の三基準
	第13回	
	タイトル	共鳴音の調音
	フリー欄	共鳴音のスペクトログラム
	第14回	
	タイトル	阻害音の調音
	フリー欄	阻害音のスペクトログラム
	第15回	
	タイトル	まとめ
	フリー欄	第1～14回の講述内容のおさらいとポイントの解説
授業概要	そもそも「音声」とは何か、音声はどのように発信されどのように受容されるのか、音声の放射と感知の実態を詳しく観察する	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	基礎音声学に関する専門用語・専門知識について、毎時消化吸收するよう練習問題を提示しますので、確実にこなしてください	
テキスト	スライドによる講述につきハンドアウトを用意します	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教職必修科目ですので、受講制限が必要になった場合は、教職希望者を優先します スライド使用で授業を進めます 必要の際は、チームズの掲示板にアウトラインを掲示しますので、適宜参照してください	
評価方法	毎時提示する練習問題は提出（ワークシート使用）を求めます その成果（100％）により評価いたします	
参考文献	城生伯太郎・福盛貴弘・齋藤純男『音声学基本事典』（勉誠出版） 服部四郎『音声学』（岩波書店） 川上泰『日本語音声概説』（おうふう） 川原繁人『ビジュアル音声学』（三省堂）	
備考		

講義科目名称： 音声表現法A (10512)

授業コード： 10515

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
小峰 克之			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	この授業では、調音音声学を中心に日本語の音声について学ぶことをテーマとしている。 到達目標 1 調音音声学の基本を理解する。 2 日本語の音声を調音音声学に則って説明できる。 3 日本語の音声に関わる諸問題を説明できる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	導入 調音音声学とは何か	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	母音の発音	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	子音1 破裂音	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	子音2 摩擦音と破擦音	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	子音3 鼻音と弾音	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	五十音図と音	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	撥音の問題	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	その他の特殊音	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	無声化と直音化		
フリー欄			
第10回			
タイトル	変音現象		
フリー欄			
第11回			
タイトル	外来語の問題		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	アクセントの基本
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	アクセントの変化
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	地域差の問題
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ
	フリー欄	
授業概要	音声の授業なので理論を学ぶことはもちろんのこと、音声の実演も行ってもらおう。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	次の授業内容に予め目を通しておき、課題が与えられている場合は次の授業までにやっておく。	
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	調音音声学の基礎を学んでもらいますが、その過程で実際に音声の実演を行ってもらいます。実際に声に出すのは恥ずかしいかもしれませんが、声を出すタイミングなど授業で指示しますので積極的に取り組んでください。	
評価方法	提出物（50%）、発音の実演（50%）で評価する。	
参考文献	授業で適宜紹介する。	
備考		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
山本 淳			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	この授業のテーマは「日本語音声の実相と音声たらしめている音の観念とについて理解する」ことです。この授業の受講を通じ、日本語音声の実相と観念上の音に関して、 ①子音と母音とに分けてそれぞれの調音的・物理的特徴が解ります ②受講生自身の話し言葉を内省する機会となり、音声的・超分節素的特徴が解ります また、上記①②は最終到達目標でもあります。		
授業計画	第1回		
	タイトル	母音の調音音声学的記述① —短母音・長母音・連母音—	
	フリー欄	【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】	
	第2回		
	タイトル	母音の調音音声学的記述② —母音の無声化—	
	フリー欄	【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】	
	第3回		
	タイトル	五十音図の音声学的分析	
	フリー欄	五十音図の構造を音声学的に解析する 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】	
	第4回		
	タイトル	子音の有標性	
	フリー欄	子音らしさと母音っぽさ 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】	
	第5回		
	タイトル	注意すべき子音の調音	
	フリー欄	硬口蓋化子音とサ行・タ行・ナ行・ハ行子音 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】	
	第6回		
	タイトル	ガ行濁子音・合拗音	
	フリー欄	【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】	
	第7回		
	タイトル	四つ仮名の歴史的展開	
	フリー欄	【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】	
	第8回		
	タイトル	無声子音の有声化・開拗音の直音化	
	フリー欄	【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】	
	第9回		
	タイトル	音声と音素	
	フリー欄	異音、音素、相補分布 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】	
	第10回		
	タイトル	特殊拍とその音声	
	フリー欄	特殊拍の音声学的記述とその理解 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】	
	第11回		
	タイトル	語の清濁と連濁	

	フリー欄	【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】
	第12回	
	タイトル	日本語音韻の歴史的変遷
	フリー欄	サ行子音・ハ行子音の歴史的展開、音節数の変化 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】
	第13回	
	タイトル	日本語のアクセント
	フリー欄	アクセント核、有核・無核アクセント、アクセントの型 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】
	第14回	
	タイトル	全国の音声・音韻・アクセント
	フリー欄	東部方言、西部方言、九州方言 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】
	第15回	
	タイトル	まとめと筆記試験の説明
	フリー欄	第14回の補遺(琉球方言)と全体のまとめ 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】
授業概要	日本語の音声・音韻・アクセントについて、受講生の話し言葉を観察しつつ、その特質・特徴について理解を深める	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	「音声表現法A」同様、音声学に関する専門用語・専門知識について、毎時消化吸収するよう練習問題を提示します 各回確実にこなしてください	
テキスト	スライドによる講述につきハンドアウトを用意します	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「音声表現法A」同様、教職必修科目ですので、受講制限が必要になった場合は、教職希望者を優先します スライド使用で授業を進めます 必要の際は、チームズの掲示板にアウトラインを掲示しますので、適宜参照してください	
評価方法	「音声表現法A」同様、毎時提示する練習問題は提出(ワークシート使用)を求めます その成果(50%)と試験期間中に実施するペーパーテスト(50%)と併せて総合的に評価します	
参考文献	城生伯太郎・福盛貴弘・齋藤純男『音声学基本事典』（勉誠出版） 服部四郎『音声学』（岩波書店） 川上泰『日本語音声概説』（おうふう） 川原繁人『ビジュアル音声学』（三省堂）	
備考		

講義科目名称： 音声表現法B (10513)

授業コード： 10517

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
小峰 克之			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	この授業のテーマは音声表現の実演とその考察である。 到達目標 1 一般的な談話表現と朗読の相違点を理解できる。 2 アクセントやフレージングを意識してしっかりした朗読ができる。 3 教育における音読及び朗読の効果を説明できる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	導入 アクセントとイントネーション	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	朗読と身体	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	文章の解釈と朗読	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	近代の文章の実演	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	現代の文章の実演	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	朗読の意義	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	群読の準備	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	学校教育における音声表現	
	フリー欄		
	第9回		
	タイトル	合成音声の諸問題	
フリー欄			
第10回			
タイトル	小説の群読		
フリー欄			
第11回			
タイトル	脚本の群読		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	群読の実演と評価
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	その他の音声表現
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	議論における音声表現
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ
	フリー欄	
授業概要	この授業は朗読などの音声表現の実演と、その特性や注意点などの考察という二つの柱からなる授業であり、履修者は朗読などの実演を数回行うことになる。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	次の授業内容に予め目を通しておき、課題が与えられている場合は次の授業までにやっておく。特に朗読に関しては練習の必要がある。	
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この授業では朗読などの実演があります。他人の文章を朗読することは日常的にはあまりないことですが、実際にやってみると新たな発見があるかもしれませんので、ぜひ積極的に授業に参加してください。	
評価方法	授業での実演（70%）、提出物や授業での発言（30%）で評価する。	
参考文献	授業で適宜紹介する。	
備考		

講義科目名称： 国語資料講読（10532）

授業コード： 10532

英文科目名称： Reading of Sourcebook on Japanese Linguistics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
山本 淳			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
	聴講生開講科目（※一般の男女が聴講する場合有）	高大連携開放科目（※高校生男女が受講する場合有）	授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>初期江戸語(関東方言)によって書かれた文献について、国語学的に講読します。          この授業の受講を通じ、          ①いわゆる古典文学とは異なる文章体を扱いますが、近世の諸文章様式の違いが解ります          ②文章のアウトラインを掴み、言葉を逐って読むことが身につきます          ③近世当時の中央語の流れについて理解できます          上記3点を最終到達目標といたします。</p>																																																																				
授業計画	<p>第1回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">近世語の諸相</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第2回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">初期江戸語資料について</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第3回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">『雑兵物語』の資料性</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第4回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">『雑兵物語』の諸本</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第5回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">『雑兵物語』を読む① 一文末表現に注意してー</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第6回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">『雑兵物語』を読む② 一接続表現に注意してー</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第7回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">『雑兵物語』を読む③ 一東国方言語彙ー</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第8回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">『雑兵物語』を読む④ 一奴言葉についてー</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第9回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">『雑兵物語』を読む⑤ 一上方語的特徴ー</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第10回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">『雑兵物語』を読む⑥ 一日常的な言葉遣いと開かれた場での言葉遣いー</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第11回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">『雑兵物語』を読む⑦ 一諸国方言との関連性ー</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第12回</p>			タイトル	近世語の諸相		フリー欄			タイトル	初期江戸語資料について		フリー欄			タイトル	『雑兵物語』の資料性		フリー欄			タイトル	『雑兵物語』の諸本		フリー欄			タイトル	『雑兵物語』を読む① 一文末表現に注意してー		フリー欄			タイトル	『雑兵物語』を読む② 一接続表現に注意してー		フリー欄			タイトル	『雑兵物語』を読む③ 一東国方言語彙ー		フリー欄			タイトル	『雑兵物語』を読む④ 一奴言葉についてー		フリー欄			タイトル	『雑兵物語』を読む⑤ 一上方語的特徴ー		フリー欄			タイトル	『雑兵物語』を読む⑥ 一日常的な言葉遣いと開かれた場での言葉遣いー		フリー欄			タイトル	『雑兵物語』を読む⑦ 一諸国方言との関連性ー		フリー欄		
タイトル	近世語の諸相																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	初期江戸語資料について																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	『雑兵物語』の資料性																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	『雑兵物語』の諸本																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	『雑兵物語』を読む① 一文末表現に注意してー																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	『雑兵物語』を読む② 一接続表現に注意してー																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	『雑兵物語』を読む③ 一東国方言語彙ー																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	『雑兵物語』を読む④ 一奴言葉についてー																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	『雑兵物語』を読む⑤ 一上方語的特徴ー																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	『雑兵物語』を読む⑥ 一日常的な言葉遣いと開かれた場での言葉遣いー																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	『雑兵物語』を読む⑦ 一諸国方言との関連性ー																																																																				
フリー欄																																																																					

	タイトル	『雑兵物語』を読む⑧ —伝統的文法と初期江戸語文法と①—
	フリー欄	断定表現の推移
	第13回	
	タイトル	『雑兵物語』を読む⑨ —伝統的文法と初期江戸語文法と②—
	フリー欄	否定表現の推移
	第14回	
	タイトル	『雑兵物語』を読む⑩ —伝統的文法と初期江戸語文法と③—
	フリー欄	推量表現の推移
	第15回	
	タイトル	『雑兵物語』を読む⑪ —伝統的文法と初期江戸語文法と④—
	フリー欄	禁止表現の推移
授業概要	授業担当者による講読と、受講生による輪読と、併行して進めます 受講生による輪読では、テキストを音読し、概要についての理解を促します	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	次回授業の概要について毎時終了直前に予告します 指定テキストを事前に読み、難解な点について抽出しておいてください 授業後はテキストを読み返し、本文理解の定着に努めてください	
テキスト	必要に応じて印刷し適切な折に配付します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業担当者による講読では、トピックごとに整理しながら読むこととします 受講生にも担当範囲を事前に決めて読むように、計画的に進めたいと思います	
評価方法	適宜レポート提出を求め、それにより(100%)評価いたします	
参考文献	『日本語学研究事典』（明治書院） 『日本語大事典』（朝倉書院）	
備考		

講義科目名称： 国語学特講（10550）

授業コード： 10550

英文科目名称： ー

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
山本 淳			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>「国語史・国語学史」とはどういう領域の研究なのか、その概要を掴み、大きな流れを辿ることをテーマとします  この授業の受講を通じて、国語(日本語)変化ならびに国語研究史の大きな流れが解ります  また、国語という意識の芽生えた時期、国語の研究の爛熟した江戸時代の様相を中心にした研究の潮流が掴めます</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	国語と日本語、現代語と古語	
	フリー欄	導入	
	第2回		
	タイトル	仮名遣いの研究①	
	フリー欄	定家仮名遣いと『下官集』	
	第3回		
	タイトル	仮名遣いの研究②	
	フリー欄	行阿『仮名文字遣』	
	第4回		
	タイトル	仮名遣いの研究③	
	フリー欄	『和字正濫鈔』と『古言梯』	
	第5回		
	タイトル	仮名遣いの研究④	
	フリー欄	本居宣長『字音仮字用格』～義門『於乎軽重義』	
	第6回		
	タイトル	仮名遣いと音韻①	
	フリー欄	本居宣長『古事記伝』～石塚龍磨『仮名遣奥山路』～草鹿砥宣隆『古言別音抄』	
	第7回		
	タイトル	仮名遣いと音韻②	
	フリー欄	奥村栄実『古言衣延弁』	
	第8回		
	タイトル	仮名遣いと音韻③	
	フリー欄	『蜷縮涼鼓集』と四つ仮名問題	
	第9回		
	タイトル	てにをは研究①	
	フリー欄	『手爾葉大概抄』と『抄之抄』	
	第10回		
	タイトル	てにをは研究②	
	フリー欄	『亘爾乎波義慣鈔』と『てには綱引綱』	
	第11回		
	タイトル	てにをはと係結研究①	
	フリー欄	本居宣長『ひも鏡』と『詞の玉緒』	
	第12回		
	タイトル	てにをはと係結研究②	

	フリー欄	義門『友鏡』と『玉緒繰分』
	第13回	
	タイトル	てにをはと係結研究③
	フリー欄	萩原広道『てにをは係辞弁』
	第14回	
	タイトル	品詞論①
	フリー欄	富士谷成章『かざし抄』と『あゆひ抄』
	第15回	
	タイトル	品詞論②
	フリー欄	鈴木朗『言語四種論』
授業概要		
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	次回授業の概要について毎時終了時に触れるので、指定テキストについて事前に読み、難解な部分について抽出しておくこと。授業終了後再びテキストを読み直し、重要項目について整理し、さらに練習問題で理解度を確認しておくこと。	
テキスト	必要箇所を印刷して渡します	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	学年指定の特定は示していませんが、「国語学概論」受講後の方が理解が早いかと思しますので、なるべく2年次での履修を切望します。	
評価方法	毎時間を実施する確認レポートの状況（5割） 試験期間中に行う筆記試験（5割）	
参考文献	『日本語学研究事典』（明治書院） 『日本語学キーワード事典』（朝倉書店） 『日本語百科大事典』（大修館書店）	
備考		

講義科目名称： 日本語文化論（10561）

授業コード： 10561

英文科目名称： ー

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小峰 克之			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
	聴講生開講科目（※一般の男女が聴講する場合有）	高大連携開放科目（※高校生男女が受講する場合有）	授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	この授業は日本語における文化的側面を考えることをテーマとする。 到達目標 1 文化的側面を意識して日本語を捉えることができる。 2 外国語と比較して日本語の特性を考えられる。 3 文化の違いを考慮に入れて日本語教育を考えることができる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	導入 言葉と文化	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	近代の日本語	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	外国語との出会い	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	翻訳の影響	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	外国語の取り込み	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	最初の外国語	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	漢字語の力	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	留学生に対する日本語教育	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	役割語の問題		
フリー欄			
第10回			
タイトル	待遇表現の特徴		
フリー欄			
第11回			
タイトル	ハイコンテキストとローコンテキスト		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	誤用の判定とその背景
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	留学生の質問
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	書き言葉と話し言葉
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ
	フリー欄	
授業概要	授業では異国の文化や言語を通して日本語の特性を考える。前半は日本人が外国語を学習する場合、後半は日本語の教師が留学生に日本語を教える場合を題材に、具体例や資料を使いながら、言語や文化に関わる諸問題について考えていく。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	次の授業内容に予め目を通しておき、課題が与えられている場合は次の授業までにやっておく。また、授業後は配布物や授業でのノートなどを整理しておく。	
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	身近な例やよく見聞きすることなどから話を展開していきますので、そういったちょっとした事柄を普段から意識していると、いろいろ気付くことがあると思います。それらについてみなさんの興味を喚起できるように授業を進めていきたいと思っています。	
評価方法	レポート（60%）、授業での提出物（40%）で評価する。	
参考文献	授業で適宜紹介する。	
備考		

講義科目名称： 日本語運用スキルアップゼミ (10562)

授業コード： 10562

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小峰 克之			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	この授業のテーマは、日本語のスキルをレベルアップすることである。 到達目標1 文字や記号、書式、文体など基礎的事項を理解する。 2 曖昧な表現を避け、自分の意図を受け手に正しく伝えることができる。 3 自分の考えを根拠をもって論理的に文章にすることができる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	導入 悪文とは何か	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	表現の基礎	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	曖昧な表現の回避	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	修飾と被修飾	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	文の長さの問題	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	文の校正	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	文の接続と段落	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	敬語の基礎	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	敬語の応用		
フリー欄			
第10回			
タイトル	敬語表現の実践		
フリー欄			
第11回			
タイトル	手紙とメールの文章		
フリー欄			
第12回			
タイトル	メールの注意点		

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	論理の構成と要約
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	要約と校正の実演
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ
	フリー欄	
授業概要	授業の前半では様々な例文や問題を解きながら、誤解されないように表現するにはどうすればよいか考える。終盤では実際に文章の作成や要約に取り組んでもらう。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	次の授業内容に予め目を通しておき、課題が与えられている場合は次の授業までにやっておく。授業後は配布物やノートを見て授業内容を整理しておく。	
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この授業では、自分の考えを相手に誤解されることなく伝える方法を考えていきます。「良い」「美しい」「正しい」というよりも「正確な」という視点で考えていきますので、時々面食らうこともあるかと思いますがすぐに慣れると思います。また、この授業では日本語検定2級の受験を推奨していますので、興味のある方は検定試験に挑戦してみましょう。	
評価方法	ワークシートなど授業内の提出物が多数あり、それらの提出物（100%）で評価する。	
参考文献	授業で適宜紹介する。	
備考		

講義科目名称： 漢文学概説 (10600)

授業コード： 10600

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職必修
担当教員			
渡部 東一郎			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<授業のテーマ> 漢文学入門 <到達目標> ・漢文を訓読によって解釈するために必要な基礎知識を身に付けることができる。 ・漢文学が日本語や日本人に与えた影響について知見を深めることができる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	漢文・漢文学の定義と漢字・漢語(熟語)の基礎知識	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	漢文の基本構造と訓読法(返り点の用法と種類・書き下し文・置き字)	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	句法の基本型：再読文字・使役形・受身形	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	句法の基本型：否定形	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	句法の基本型：疑問形・反語形	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	句法の基本型：願望形・推量形	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	句法の基本型：仮定形・比較形・抑揚形	
	フリー欄		
	第9回		
	タイトル	句法の基本型：限定形・累加形・詠嘆形・倒置形	
	フリー欄		
	第10回		
	タイトル	近体(今体)詩の修辞法	
	フリー欄		
	第11回		
	タイトル	日本人と漢文学：上代、平安前期	
	フリー欄		
	第12回		
	タイトル	日本人と漢文学：平安後期、鎌倉・室町	

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	日本人と漢文学：江戸前期
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	日本人と漢文学：江戸後期
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	日本人と漢文学：明治以降
	フリー欄	
授業概要	10回目までは、漢文を訓読によって解釈するために必要な基礎事項を学んだ上で練習問題に取り組んでもらい、基礎知識の確認・定着を図ります。11回目以降は、日本における漢文学の歴史を概観し、漢文学が日本語や日本人に与えた影響について考えていきます。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	授業後には必ず復習を行い、十分に理解を深めること。なお、10回目までは配布プリントの原文について、あらかじめ辞書等で調べ、書き下し文及び現代語訳を準備しておくこと。	
テキスト	プリントを配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	高校での既習・未習を問わず、この機会に漢文学の基礎をしっかりと身に付けたいと考える学生の積極的な受講を期待します。	
評価方法	学期末の試験(70%)、授業時の取り組む姿勢(30%)をあわせて評価します。	
参考文献	必要に応じてその都度指示します。	
備考	高校等で使用した「漢文文法」の教科書及び漢和辞典(電子辞書も可)を持参してください(2回～10回)。	

講義科目名称： 漢文学講読（10611）

授業コード： 10611

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
渡部 東一郎			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<授業のテーマ> 中国古典文学の世界 <到達目標> ・訓点(返り点・送りがな)付きの漢文の正確な書き下し、解釈ができるようになる。 ・日本人や日本文学に有形無形の影響を与えてきた中国古典文学の概要を把握するとともに、作品が書かれた、それぞれの時代の社会や文化に対する理解を深めることができる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	『史記』淮陰侯列伝から	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	『論語』から	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	『老子』から	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	『莊子』から	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	東晋・陶淵明「桃花源記」「五柳先生伝」	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	東晋・王羲之「蘭亭序」	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	唐・李白「春夜宴桃李園序」、唐・韓愈「雑説二」	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	唐・韓愈「雑説二・四」		
フリー欄			
第10回			
タイトル	唐・柳宗元「種樹郭橐駝伝」		
フリー欄			
第11回			
タイトル	唐・柳宗元「種樹郭橐駝伝」		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	北宋・欧陽脩「醉翁亭記」
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	北宋・欧陽脩「醉翁亭記」
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	明・帰有光「貞女論」
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	明・帰有光「貞女論」
	フリー欄	
授業概要	中国古典文学の中から、古来、日本人にも親しまれてきた著名な散文作品を中心に幾つかを取り上げ、それらを講読していきます。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	あらかじめ辞書等を利用して、自分なりの書き下し文と現代語訳を準備した上で授業に臨むこと。また、授業後は必ず復習を行い、十分に理解を深めること。	
テキスト	プリントを配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	開始から数回は教員主導で読み進めていきますが、要領が分かってきた頃合いを見計って、受講者にも訓読や現代語訳に参加してもらいます。訓読能力を高めたい、或いはその必要がある学生の積極的な受講を期待します。	
評価方法	学期末の試験(60%)、授業時の発表や取り組む姿勢(40%)をあわせて評価します。	
参考文献	必要に応じてその都度指示します。	
備考	高校等で使用した「漢文文法」の教科書と漢和辞典(電子辞書も可)を毎回持参して下さい。	

講義科目名称： 漢文学作品研究 (10621)

授業コード： 10621

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
渡部 東一郎			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<授業のテーマ> 「唐代伝奇」小説の世界 <到達目標> ・訓点(返り点・送りがな)付きの漢文の正確な書き下し、解釈ができるようになる。 ・現代とは異なる、当時の人々のものの考え方や感じ方について理解を深めることができる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	「離魂記」	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	「離魂記」	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	「李徴(人虎伝)」	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	「李徴(人虎伝)」	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	「李徴(人虎伝)」	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	「板橋三娘子伝」	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	「定婚店」	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	「定婚店」		
フリー欄			
第10回			
タイトル	「杜子春伝」		
フリー欄			
第11回			
タイトル	「杜子春伝」		
フリー欄			
第12回			
タイトル	「杜子春伝」		

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	「枕中記」
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	「枕中記」
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	「枕中記」
	フリー欄	
授業概要	芥川龍之介の「杜子春」や中島敦の「山月記」などの日本の近代文学にも影響を与えた、唐代文人の手に成る短編小説、「唐代伝奇」の中から数篇を取り上げ、講読していきます。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	あらかじめ辞書等を利用して、自分なりの書き下し文と現代語訳を準備した上で授業に臨むこと。また、授業後は必ず復習を行い、十分に理解を深めること。	
テキスト	プリントを配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	開始から数回は教員主導で読み進めていきますが、要領が分かってきた頃合いを見計って、受講者にも訓読や現代語訳に参加してもらいます。訓読能力を高めたい、或いはその必要がある学生の積極的な受講を期待します。	
評価方法	学期末の試験(60%)、授業時の発表や取り組む姿勢(40%)をあわせて評価します。	
参考文献	必要に応じてその都度指示します。	
備考	高校等で使用した「漢文文法」の教科書と漢和辞典(電子辞書も可)を毎回持参して下さい。	

講義科目名称： 漢文学専門ゼミ I (10631)

授業コード： 10631

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
渡部 東一郎			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>&lt;授業のテーマ&gt;          実践的な漢文訓読力を身に付けるとともに、記述問題に的確に解答できる文章表現力を培う。          &lt;到達目標&gt;          ・句読点のみ、或いは句読点及び返り点のみの漢文を正確に訓読、解釈できるようになる。          ・問題に対する的確な記述答案が作成できるようになる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説		
フリー欄			
第10回			
タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説		
フリー欄			
第11回			
タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説		
フリー欄			
第12回			
タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説		

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説
	フリー欄	
授業概要	<p>四年制大学の編入学試験の漢文の問題は、学校によっては句読点、或いは句読点及び返り点しか付されていない文章が出題されるため、それなりの漢文訓読能力が必要になります。授業では編入学試験の過去問や類題の演習、解答・解説を積み重ねることを通して、実践的な漢文訓読力を身に付けるとともに、記述問題に的確に解答できる文章表現力を培っていきます。</p>	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	<p>毎回問題演習をしてもらう形で行うので予習は必要ありませんが、授業後は必ず速やかに復習を行い、漢文訓読の基本事項の確認や、記述問題の解き直し等を十分に行ってください。</p>	
テキスト	<p>プリントを配布します。</p>	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>四年制大学の編入学試験で漢文が出題される学校の受験を考えている学生を主たる対象とする授業ですが、そうでない学生でも、漢文をより読めるようになりたい、記述問題に的確に解答できるようになりたいと思う人がいれば受講を歓迎します。</p>	
評価方法	<p>学期末の試験(50%)、授業時の取り組む姿勢(50%)をあわせて評価します。</p>	
参考文献	<p>必要に応じてその都度指示します。</p>	
備考	<p>高校等で使用した「漢文文法」の教科書と漢和辞典(電子辞書も可)を毎回持参して下さい。</p>	

講義科目名称： 漢文学専門ゼミⅡ（10641）

授業コード： 10641

英文科目名称： ー

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
渡部 東一郎			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<授業のテーマ> 実践的な漢文訓読能力を身に付けるとともに、記述問題に的確に解答できる文章表現力を培う。 <到達目標> ・句読点のみ、或いは句読点及び返り点のみの漢文でも正確に訓読、解釈できるようになる。 ・問題に対する的確な記述答案が作成できるようになる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説		
フリー欄			
第10回			
タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説		
フリー欄			
第11回			
タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説		
フリー欄			
第12回			
タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説		

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説
	フリー欄	
授業概要	四年制大学の編入学試験の漢文の問題は、学校によって句読点、或いは句読点及び返り点しか付されていない文章が出題されるため、それなりの漢文訓読能力が必要になります。授業では編入学試験の過去問や類題の演習、解答・解説を積み重ねることを通して、実践的な漢文訓読力を身に付けるとともに、記述問題に的確に解答できる文章表現力を培っていきます。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	毎回問題演習をしてもらう形で行うので予習は必要ありませんが、授業後は必ず速やかに復習を行い、漢文訓読の基本事項の確認や、記述問題の解き直し等を十分に行ってください。	
テキスト	プリントを配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	四年制大学の編入試験で漢文が出題される学校の受験を考えている学生を主たる対象とする授業ですが、そうでない学生でも、漢文をより読めるようになりたい、記述問題に的確に解答できるようになりたいと思う人がいれば受講を歓迎します。	
評価方法	学期末の試験(50%)、授業時の取り組む姿勢(50%)をあわせて評価します。	
参考文献	必要に応じてその都度指示します。	
備考	高校等で使用した「漢文文法」の教科書及び漢和辞典(電子辞典も可)を毎回持参して下さい。	

講義科目名称： 漢文学特講（10650）

授業コード： 10650

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
渡部 東一郎			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<授業のテーマ> 中国文学史 <到達目標> 先秦から唐代に至る中国文学の歴史を学ぶことを通して、中国文学各ジャンルの特色とその盛衰についての知識を得、併せて日本の文化・文学に与えた影響について知見を深めることができる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス、一、序論	
	フリー欄	(1)中国文学の特質 (2)〈言志派〉と〈載道派〉・〈達意主義〉と〈修辞主義〉(3)時代区分・日本との関係	
	第2回		
	タイトル	二、先秦時代の文学	
	フリー欄	(1)神話 (2)詩経 (3)散文の起源と展開「書経」「易経」	
	第3回		
	タイトル	二、秦漢時代の文学	
	フリー欄	(3)散文の起源と展開「諸子百家の散文」「孔子」「孟子」「韓非子」「老子」「荘子」「春秋左氏伝」「国語」「戦国策」(4)楚辞	
	第4回		
	タイトル	三、秦漢の散文	
	フリー欄	(1)秦 (2)漢「史記」「班固」「漢書」「論衡」	
	第5回		
	タイトル	四、漢代の韻文学	
	フリー欄	(1)駢文の起源 (2)辞賦・楽府・古詩十九首 (3)辞賦	
	第6回		
	タイトル	四、漢代の韻文学	
	フリー欄	(4)楽府 (5)古詩 (6)古詩十九首	
	第7回		
	タイトル	五、魏晋南北朝の文学	
	フリー欄	(1)建安の文学「曹操」「曹丕」「曹植」「竹林の七賢」	
	第8回		
	タイトル	五、魏晋南北朝の文学	
	フリー欄	(2)晋の詩「陶淵明」「謝靈運」	
第9回			
タイトル	五、魏晋南北朝の文学		
フリー欄	(3)齊・梁の宮廷文学「『文選』」「駢文」「文学評論」「小説」		
第10回			
タイトル	六、隋・唐の文学		
フリー欄	(1)隋の文学 (2)唐代文学「初唐の詩」		
第11回			
タイトル	六、隋・唐の文学		
フリー欄	(2)唐代文学「盛唐の詩」「李白」「絶句について」		
第12回			

	タイトル	六、隋・唐の文学
	フリー欄	(2)唐代文学「杜甫」「その他の盛唐の詩人」
	第13回	
	タイトル	六、隋・唐の文学
	フリー欄	(2)唐代文学「中唐の詩文」「韓愈」「柳宗元」
	第14回	
	タイトル	六、隋・唐の文学
	フリー欄	(2)唐代文学「白居易」
	第15回	
	タイトル	六、隋・唐の文学
	フリー欄	(2)唐代文学「晩唐の詩人」「小説」「唐の詞と五代の詞」
授業概要	テキストに沿いながら、必要に応じて資料を交え、先秦から唐代に至る中国文学の歴史を概観していきます。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	授業後には必ず授業時のノートやメモを参照しながらテキストを読み直し、理解の定着を図ること。	
テキスト	佐藤一郎[著]『中国文学史』（慶應義塾大学出版社）1,320円(税込価格) ISBN:978-4766401943 大学内の購買部で購入可能。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中国文学に興味関心のある学生は勿論、四年制大学への編入試験で中国文学や文学史に関する知識が必要となる学生の積極的な参加を期待します。	
評価方法	学期末のレポート(80%)、授業時の取り組む姿勢(20%)をあわせて評価します。	
参考文献	必要に応じてその都度指示します。	
備考		

講義科目名称： 古典文学演習ⅡA (10721)

授業コード： 10721

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	中世の代表的物語『酒天童子』より派生した『伊吹童子』の内容を読み解き、民間伝承、他の古典・説話を参照しその成立の諸問題を考察します。到達目標は、1、古典文学研究のための辞書、工具の理解。2、室町期散文としての『伊吹童子』読解発表。3、「伊吹童子」成立についての理解。となります。		
授業計画	第1回		
	タイトル	導入 酒天童子とは何者か？ 伊吹童子諸本・大英博物館本・東洋大本・国会本・赤木本	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	酒天童子物語との関連	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	伊吹童子発表のため諸道具、参考書について	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	受講生の発表 1	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	受講生の発表 2	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	受講生の発表 3	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	受講生の発表 4	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	受講生の発表 5	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	受講生の発表 6		
フリー欄			
第10回			
タイトル	受講生の発表 7		
フリー欄			
第11回			
タイトル	受講生の発表 8		
フリー欄			
第12回			
タイトル	受講生の発表 9		
フリー欄			

	第13回
	タイトル 受講生の発表10
	フリー欄
	第14回
	タイトル 受講生の発表11
	フリー欄
	第15回
	タイトル 『伊吹童子』まとめ
	フリー欄
授業概要	酒天童子の前半生を語る『伊吹童子』を通読、宛てられた箇所を各自読解し、『伊吹童子』諸本、中世の物語・民俗信仰との関係等の諸問題を考へる発表をします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業では取り上げない『伊吹童子』諸本、『酒天童子』、関連文献（土蜘蛛草子、「太平記」巻32「鬼丸鬼切事」等）、関連物語（鈴鹿草子、俵藤太物語等）の参照。口承文芸、民間信仰等、幅広く知見を広めること
テキスト	大英図書館蔵『伊吹童子』
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中世以降、最近まで源頼光の酒天童子は、子供達や大人にとつても血肉沸き踊る物語でした。その伝統が途絶してゐる現在、改めてこの物語の内容に触れ、楽しむと共に、その危険な魅力に触れ、様々な中世物語や鬼退治の民間伝承との関係について考へていきます。
評価方法	演習の発表（100%）一人1－2回発表です。
参考文献	佐竹昭広『酒天童子異聞』、高橋昌明『酒天童子の誕生』
備考	

講義科目名称： 古典文学演習ⅡB (10722)

授業コード： 10722

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	中世の代表的物語『酒天童子』の内容を読み解き、その成立の諸問題を考察します。到達目標は、1、渋川本「酒天童子」の読解発表。2、『酒天童子』諸本の相違、成立についての理解。3、『酒天童子』の価値についての理解。となります。		
授業計画	第1回		
	タイトル	導入 酒天童子とは何者か？ 伊吹童子諸本 大英博物館本・東洋大本・国会本・赤木本	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	酒天童子諸本について 香取本・サントリー本・中京大本・呆犬齋本	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	酒天童子関連物語・伝説の展開	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	酒天童子発表のため諸道具、発表の形式について	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	受講生の発表 1	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	受講生の発表 2	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	受講生の発表 3	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	受講生の発表 4	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	受講生の発表 5		
フリー欄			
第10回			
タイトル	受講生の発表 6		
フリー欄			
第11回			
タイトル	受講生の発表 7		
フリー欄			
第12回			
タイトル	受講生の発表 8		
フリー欄			

	第13回
	タイトル 受講生の発表9
	フリー欄
	第14回
	タイトル 受講生の発表10
	フリー欄
	第15回
	タイトル 総論—酒天童子とは何者か
	フリー欄
授業概要	酒色に耽溺する酒天童子を退治する源頼光一行の冒険を通読、宛てられた箇所を各自読解し、中世の物語・民俗信仰との関係から、成立等の諸問題を考へる発表をします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	香取本、サントリー本、中京大本の精読対照、関連文献（『伊吹童子』、土蜘蛛草子、「太平記」巻32「鬼丸鬼切事」等）、関連物語（鈴鹿草子、俵藤太物語等）の参照。口承文芸、民間信仰等、幅広く知見を広めること
テキスト	渋川版『酒天童子』
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中世以降、最近まで源頼光の酒天童子は、子供達や大人にとっても血肉沸き踊る物語でした。その伝統が途絶してある現在、改めてこの物語の内容に触れ、楽しむと共に、その危険な魅力に触れ、様々な中世物語や鬼退治の民間伝承との関係について考へていきます。呆犬齋文庫蔵の各種『酒天童子』絵巻・資料をお見せいたします。
評価方法	演習の発表（100%）一人1－2回発表です。
参考文献	佐竹昭広『酒天童子異聞』、高橋昌明『酒天童子の誕生』
備考	

講義科目名称： 近現代文学演習 I A (10731)

授業コード： 10731

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
高畑 早希			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>(1) 文学作品に関連する資料収集力や作品分析能力を身につけることができる。  (2) 文学研究の発展的事項を学びながら、適切な作品分析を行うことができる。  (3) 個々の文学作品に対して、自分の主張をわかりやすく他の受講者に説明し、建設的な議論につなげることができる。</p>																																																																																		
授業計画	<p>第1回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">ガイダンス、発表者決め</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p>第2回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">模擬発表(1)「言文一致と小説」ブックレポート</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p>第3回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">模擬発表(2)「言文一致と小説」個人発表</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p>第4回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">ブックレポート①——「小説に描かれた社会層」</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p>第5回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">個人発表①——「小説に描かれた社会層」</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p>第6回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">ブックレポート②——「自然主義文学と〈家〉」</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p>第7回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">個人発表②——「自然主義文学と〈家〉」</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p>第8回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">ブックレポート③——「アヴァンギャルドからプロレタリア文学へ」</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p>第9回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">個人発表③——「アヴァンギャルドからプロレタリア文学へ」</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p>第10回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">個人発表④——「アヴァンギャルドからプロレタリア文学へ」</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table>			タイトル	ガイダンス、発表者決め			フリー欄				タイトル	模擬発表(1)「言文一致と小説」ブックレポート			フリー欄				タイトル	模擬発表(2)「言文一致と小説」個人発表			フリー欄				タイトル	ブックレポート①——「小説に描かれた社会層」			フリー欄				タイトル	個人発表①——「小説に描かれた社会層」			フリー欄				タイトル	ブックレポート②——「自然主義文学と〈家〉」			フリー欄				タイトル	個人発表②——「自然主義文学と〈家〉」			フリー欄				タイトル	ブックレポート③——「アヴァンギャルドからプロレタリア文学へ」			フリー欄				タイトル	個人発表③——「アヴァンギャルドからプロレタリア文学へ」			フリー欄				タイトル	個人発表④——「アヴァンギャルドからプロレタリア文学へ」			フリー欄			
タイトル	ガイダンス、発表者決め																																																																																		
フリー欄																																																																																			
タイトル	模擬発表(1)「言文一致と小説」ブックレポート																																																																																		
フリー欄																																																																																			
タイトル	模擬発表(2)「言文一致と小説」個人発表																																																																																		
フリー欄																																																																																			
タイトル	ブックレポート①——「小説に描かれた社会層」																																																																																		
フリー欄																																																																																			
タイトル	個人発表①——「小説に描かれた社会層」																																																																																		
フリー欄																																																																																			
タイトル	ブックレポート②——「自然主義文学と〈家〉」																																																																																		
フリー欄																																																																																			
タイトル	個人発表②——「自然主義文学と〈家〉」																																																																																		
フリー欄																																																																																			
タイトル	ブックレポート③——「アヴァンギャルドからプロレタリア文学へ」																																																																																		
フリー欄																																																																																			
タイトル	個人発表③——「アヴァンギャルドからプロレタリア文学へ」																																																																																		
フリー欄																																																																																			
タイトル	個人発表④——「アヴァンギャルドからプロレタリア文学へ」																																																																																		
フリー欄																																																																																			

	第11回
	タイトル           ブックレポート④——「モダニズム文学と都市文化」
	フリー欄
	第12回
	タイトル           個人発表⑤——「モダニズム文学と都市文化」
	フリー欄
	第13回
	タイトル           個人発表⑥——「モダニズム文学と都市文化」
	フリー欄
	第14回
	タイトル           ブックレポート⑤——「戦時下の文学と地方」
	フリー欄
	第15回
	タイトル           まとめ
	フリー欄
授業概要	本授業では、ブックレポートや、小説の精読および発表を受講者に課し、それらを積み重ねることによって文学研究の基礎的な技術を磨くことを目指します。 授業は、教科書『日本近代文学史への招待』（ひつじ書房）の各「章」をブックレポートする回と、その章の取り上げる「事項」に関連する小説について、個人発表を行う回によって進行します。個人発表の方法と実践は、受講者の関心領域に合わせたテーマを選択するものとします。
実務経験及び授業の内容	なし
時間外学習	受講者は毎回、作品を精読し自身の疑問や論点を整理しておいてください。 発表者は発表内容に関する十分な資料調査を行い、充実したプレゼンテーション資料を作成してください。
テキスト	山崎義光・尾崎名津子ほか編『日本近現代文学史への招待』ひつじ書房、2400円、ISBN：978-4-8234-1240-0
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	指定された資料や作品については必ず授業までに読了しておいてください。発表者には発表内容に関する十分な資料調査と資料の作成が求められます。受講者はハンドアウトやノート等を活用しながら、各回毎のテーマ・内容に関して理解を深めてください。
評価方法	授業中の報告内容40％／質問や議論時の発言20％／期末レポート40％
参考文献	授業内で適宜紹介します。
備考	

講義科目名称： 近現代文学演習 I B (10732)

授業コード： 10732

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
高畑 早希			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>(1) 文学作品に関連する資料収集力や作品分析能力を身につけることができる。  (2) 文学研究の発展的事項を学びながら、適切な作品分析を行うことができる。  (3) 個々の文学作品に対して、自分の主張をわかりやすく他の受講者に説明し、建設的な議論につなげることができる。</p>																																																																				
授業計画	<p>第1回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第2回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">模擬発表(1)「戦時下の文学と地方」ブックレポート</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第3回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">模擬発表(2)「戦時下の文学と地方」個人発表</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第4回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">ブックレポート①——「私」の輪郭の溶解</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第5回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">個人発表①——「私」の輪郭の溶解</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第6回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">ブックレポート②——原爆文学・フェミニズム・環境問題</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第7回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">個人発表②——原爆文学</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第8回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">個人発表③——フェミニズム・環境問題</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第9回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">ブックレポート③——サブカルチャー</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第10回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">個人発表④——サブカルチャー</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第11回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">ブックレポート④——個人の時代の生きづらさと社会</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第12回</p>			タイトル	ガイダンス		フリー欄			タイトル	模擬発表(1)「戦時下の文学と地方」ブックレポート		フリー欄			タイトル	模擬発表(2)「戦時下の文学と地方」個人発表		フリー欄			タイトル	ブックレポート①——「私」の輪郭の溶解		フリー欄			タイトル	個人発表①——「私」の輪郭の溶解		フリー欄			タイトル	ブックレポート②——原爆文学・フェミニズム・環境問題		フリー欄			タイトル	個人発表②——原爆文学		フリー欄			タイトル	個人発表③——フェミニズム・環境問題		フリー欄			タイトル	ブックレポート③——サブカルチャー		フリー欄			タイトル	個人発表④——サブカルチャー		フリー欄			タイトル	ブックレポート④——個人の時代の生きづらさと社会		フリー欄		
タイトル	ガイダンス																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	模擬発表(1)「戦時下の文学と地方」ブックレポート																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	模擬発表(2)「戦時下の文学と地方」個人発表																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	ブックレポート①——「私」の輪郭の溶解																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	個人発表①——「私」の輪郭の溶解																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	ブックレポート②——原爆文学・フェミニズム・環境問題																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	個人発表②——原爆文学																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	個人発表③——フェミニズム・環境問題																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	ブックレポート③——サブカルチャー																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	個人発表④——サブカルチャー																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	ブックレポート④——個人の時代の生きづらさと社会																																																																				
フリー欄																																																																					

	タイトル	個人発表⑤——個人の時代の生きづらさと社会
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	ブックレポート⑤——女性作家と身体
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	個人発表⑥——女性作家と身体
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ
	フリー欄	
授業概要	<p>本授業では、ブックレポートや、小説の精読および発表を受講者に課し、それらを積み重ねることによって文学研究の基礎的な技術を磨くことを目指します。</p> <p>授業は、教科書『日本近代文学史への招待』（ひつじ書房）の各「章」をブックレポートする回と、その章の取り上げる「事項」に関連する小説について、個人発表を行う回によって進行します。個人発表の方法と実践は、受講者の関心領域に合わせたテーマを選択するものとします。</p>	
実務経験及び授業の内容	なし	
時間外学習	<p>受講者は毎回、作品を精読し自身の疑問や論点を整理しておいてください。</p> <p>発表者は発表内容に関する十分な資料調査を行い、充実したプレゼンテーション資料を作成してください。</p>	
テキスト	山崎義光・尾崎名津子ほか編『日本近現代文学史への招待』ひつじ書房、2400円、ISBN：978-4-8234-1240-0	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>指定された資料や作品については必ず授業までに読了しておいてください。発表者には発表内容に関する十分な資料調査と資料の作成が求められます。受講者はハンドアウトやノート等を活用しながら、各回毎のテーマ・内容に関して理解を深めてください。</p>	
評価方法	授業中の報告内容40％／質問や議論時の発言20％／期末レポート40％	
参考文献	授業内で適宜紹介します。	
備考		

講義科目名称： 近現代文学演習ⅡA (10742)

授業コード： 10742

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
今井 瞳良			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	演習形式で文学研究の方法を学びます。授業の後半では、卒業研究に向けて各自で作品を選び、分析を発表してもらいます。到達目標は以下の三つです。①文学研究の方法を学ぶ。②作品分析を実践して、自身の「読み」を作り出す。③自身の「読み」を他者に理解できるよう伝える。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	プレゼンを学ぶ	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	文学研究の方法を学ぶ①：作者と語り手	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	文学研究の方法を学ぶ②：語り・叙法	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	文学研究の方法を学ぶ③：語り・叙法	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	文学研究の方法を学ぶ④：身体と空間	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	文学研究の方法を学ぶ⑤：ジェンダー	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	文学研究の方法を学ぶ⑥：アダプテーション	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	文学研究の方法を学ぶ⑦：アダプテーション		
フリー欄			
第10回			
タイトル	文学研究の方法を学ぶ⑧：論文を読んでもみよう		
フリー欄			
第11回			
タイトル	文学研究の方法を学ぶ⑨：論文を読んでもみよう		
フリー欄			
第12回			
タイトル	卒業研究発表①		
フリー欄			

	第13回
	タイトル 卒業研究発表②
	フリー欄
	第14回
	タイトル 卒業研究発表③
	フリー欄
	第15回
	タイトル 卒業研究発表④
	フリー欄
授業概要	報告者による報告をベースに演習形式で学習します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	報告者以外も文献には目を通し、分からないところや疑問点をまとめてくる。
テキスト	資料をTeamsよりダウンロードできるようにします。
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	自分の周りにあるメディアに意識を向けるようにしてください。小説を読む力は、自分の周りの世界を読む力でもあります。作品を読んで自分が感じたことを大切にしつつ、なぜ自分がそこに興味を持ったのか考え抜きましょう。
評価方法	授業中の報告 (50%) 及び議論への貢献度 (50%)
参考文献	演習の中で適宜紹介する。
備考	

講義科目名称： 近現代文学演習ⅡB（10743）

授業コード： 10743

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
今井 瞳良			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	卒業研究として各自で作品を選び、分析を発表してもらいます。到達目標は以下の三つです。①文学・アニメ等の精読を通して、作品分析の方法を学ぶ。②作品分析を実践して、自身の「読み」を作り出す。③自身の「読み」を他者に理解できるように伝える。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	論文の書き方を学ぶ	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	卒業研究構想発表会①	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	卒業研究構想発表会②	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	卒業研究構想発表会③	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	卒業研究構想発表会④	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	文献購読：受講者の関心に合わせて選定	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	卒業研究中間報告①	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	卒業研究中間報告②		
フリー欄			
第10回			
タイトル	卒業研究中間報告③		
フリー欄			
第11回			
タイトル	卒業研究中間報告④		
フリー欄			
第12回			
タイトル	卒業研究相談会		
フリー欄			

	第13回
	タイトル 卒業研究相談会
	フリー欄
	第14回
	タイトル 卒業研究プレゼン
	フリー欄
	第15回
	タイトル 卒業研究プレゼン
	フリー欄
授業概要	報告者による報告をベースに演習形式で学習します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	報告者以外も文献には目を通し、分からないところや疑問点をまとめてくる。
テキスト	プリント配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	作品を読んで自分が感じたことを大切にしつつ、なぜ自分がそこに興味を持ったのか考え抜きましょう。
評価方法	授業中の報告（50%）及び議論への貢献度（50%）
参考文献	演習の中で適宜紹介する。
備考	

講義科目名称： 国語学演習 A (10753)

授業コード： 10753

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
山本 淳			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>近世に流布したテキスト『源氏物語評釈』を採り上げ、往時の人々がどのように古典に向かったか、その跡を辿って読むことをテーマとします。この授業を通じて、</p> <p>① 近世の板本が読めるようになる          ② 古注釈書の様式に馴れて書かれてある大要が理解できる          ③ 解りにくいところを受講生どうし互いに意見交換できるという最終目標を達成することになります。</p>																																																																				
授業計画	<p>初講</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">導入 演習の進め方</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>2講</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">近世国学者鈴木朗と栗田直政</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>3講</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">栗田直政の業績</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2">『源氏遠鏡』の体裁と内容</td> </tr> </table> <p>4講</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">『源氏物語』を読む前に</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2">『源氏物語』の諸注釈</td> </tr> </table> <p>5講</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">若紫の段を読む①（北山への来訪）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>6講</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">若紫の段を読む②（小柴垣の垣間見）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>7講</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">若紫の段を読む③（僧都への持ちかけ）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>8講</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">若紫の段を読む④（尼君への消息）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>9講</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">若紫の段を読む⑤（源氏と僧都との対座）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>10講</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">若紫の段を読む⑥（源氏と正室葵上とのこと）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>11講</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">若紫の段を読む⑦（源氏と藤壺宮）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>12講</p>			タイトル	導入 演習の進め方		フリー欄			タイトル	近世国学者鈴木朗と栗田直政		フリー欄			タイトル	栗田直政の業績		フリー欄	『源氏遠鏡』の体裁と内容		タイトル	『源氏物語』を読む前に		フリー欄	『源氏物語』の諸注釈		タイトル	若紫の段を読む①（北山への来訪）		フリー欄			タイトル	若紫の段を読む②（小柴垣の垣間見）		フリー欄			タイトル	若紫の段を読む③（僧都への持ちかけ）		フリー欄			タイトル	若紫の段を読む④（尼君への消息）		フリー欄			タイトル	若紫の段を読む⑤（源氏と僧都との対座）		フリー欄			タイトル	若紫の段を読む⑥（源氏と正室葵上とのこと）		フリー欄			タイトル	若紫の段を読む⑦（源氏と藤壺宮）		フリー欄		
タイトル	導入 演習の進め方																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	近世国学者鈴木朗と栗田直政																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	栗田直政の業績																																																																				
フリー欄	『源氏遠鏡』の体裁と内容																																																																				
タイトル	『源氏物語』を読む前に																																																																				
フリー欄	『源氏物語』の諸注釈																																																																				
タイトル	若紫の段を読む①（北山への来訪）																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	若紫の段を読む②（小柴垣の垣間見）																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	若紫の段を読む③（僧都への持ちかけ）																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	若紫の段を読む④（尼君への消息）																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	若紫の段を読む⑤（源氏と僧都との対座）																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	若紫の段を読む⑥（源氏と正室葵上とのこと）																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	若紫の段を読む⑦（源氏と藤壺宮）																																																																				
フリー欄																																																																					

	タイトル	若紫の段を読む⑧（紫姫君への思い）
	フリー欄	
	13講	
	タイトル	若紫の段を読む⑨（尼君逝去）
	フリー欄	
	14講	
	タイトル	若紫の段を読む⑩（二条院へ）
	フリー欄	
	15講	
	タイトル	まとめ
	フリー欄	
授業概要	近世後期尾張藩の国学者栗田直政の著した『源氏遠鏡』若紫の段を採り上げて、原典で読む。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	板本で読めるように、解説の練習が必要です 授業前に必ず予習（予定範囲の原文に目を通しておくこと）しておいてください 授業後は、要点を捉えて読み返しをしてください	
テキスト	板本を印刷します	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	まずは原典に馴れることを当面の目標として進めます 連綿体に馴れたら、それぞれで読み進めてゆきましょう（輪読形式を予定しています）	
評価方法	輪読の成果で評価します（100%）。評価基準として 担当範囲全体を隅々まで目配りでき、明朗な朗読に明快な解説ができる[S]、担当範囲全体からポイントを押さえて、明朗な朗読に明快な解説ができる[A]、担当範囲全体からポイントは押さえているが、朗読や解説にやや明快さを欠く[B]、担当範囲内に不正確な理解が混在し、朗読や解説に明快さを欠く[C]、担当範囲の読みが誤っており、朗読や解説が拙い[D] に照らして、相対的に評価します。	
参考文献	源氏物語についての現在の注釈書を座右に置いて対照させると解りやすいでしょう たとえば 『新編日本古典文学全集 源氏物語①』（小学館） など	
備考		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
山本 淳			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>近世書き言葉標準体と話し言葉との交渉の様相を観察することがテーマです。 この授業により、次のことが受講生の身につくところとなります。</p> <p>①古典文学の近世語訳の文章体について文体に馴れる ②近世版本の様式に馴れ、連綿体の文章が読めるようになる ③古典語と近代語との違いに注意して意味を掴むことができる</p>																																																																							
授業計画	<p>第1回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">国学者の古典研究</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第2回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">本居宣長・鈴木朗・栗田直政の系譜について</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2">『古今集遠鏡』との共通点・相違点</td> </tr> </table> <p>第3回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">鈴木朗による『源氏遠鏡』添削例</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2">草稿本への書き込みから原案と添削案とを比較する</td> </tr> </table> <p>第4回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">『源氏遠鏡』受講生による発表①</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2">源氏転地療養する</td> </tr> </table> <p>第5回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">『源氏遠鏡』受講生による発表②</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2">明石入道とその娘の話を耳にする</td> </tr> </table> <p>第6回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">『源氏遠鏡』受講生による発表③</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2">尼君と僧都との遣り取り</td> </tr> </table> <p>第7回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">『源氏遠鏡』受講生による発表④</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2">源氏僧都の坊を来訪する</td> </tr> </table> <p>第8回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">『源氏遠鏡』受講生による発表⑤</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2">尼君へ消息を遣わす</td> </tr> </table> <p>第9回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">『源氏遠鏡』受講生による発表⑥</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2">源氏と僧都と和歌の応酬</td> </tr> </table> <p>第10回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">『源氏遠鏡』受講生による発表⑦</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2">源氏帰還、北山の人々に消息を出す</td> </tr> </table> <p>第11回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">『源氏遠鏡』受講生による発表⑧</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2">藤壺宮懐妊のこと</td> </tr> </table> <p>第12回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">『源氏遠鏡』受講生による発表⑨</td> </tr> </table>			タイトル	国学者の古典研究		フリー欄			タイトル	本居宣長・鈴木朗・栗田直政の系譜について		フリー欄	『古今集遠鏡』との共通点・相違点		タイトル	鈴木朗による『源氏遠鏡』添削例		フリー欄	草稿本への書き込みから原案と添削案とを比較する		タイトル	『源氏遠鏡』受講生による発表①		フリー欄	源氏転地療養する		タイトル	『源氏遠鏡』受講生による発表②		フリー欄	明石入道とその娘の話を耳にする		タイトル	『源氏遠鏡』受講生による発表③		フリー欄	尼君と僧都との遣り取り		タイトル	『源氏遠鏡』受講生による発表④		フリー欄	源氏僧都の坊を来訪する		タイトル	『源氏遠鏡』受講生による発表⑤		フリー欄	尼君へ消息を遣わす		タイトル	『源氏遠鏡』受講生による発表⑥		フリー欄	源氏と僧都と和歌の応酬		タイトル	『源氏遠鏡』受講生による発表⑦		フリー欄	源氏帰還、北山の人々に消息を出す		タイトル	『源氏遠鏡』受講生による発表⑧		フリー欄	藤壺宮懐妊のこと		タイトル	『源氏遠鏡』受講生による発表⑨	
タイトル	国学者の古典研究																																																																							
フリー欄																																																																								
タイトル	本居宣長・鈴木朗・栗田直政の系譜について																																																																							
フリー欄	『古今集遠鏡』との共通点・相違点																																																																							
タイトル	鈴木朗による『源氏遠鏡』添削例																																																																							
フリー欄	草稿本への書き込みから原案と添削案とを比較する																																																																							
タイトル	『源氏遠鏡』受講生による発表①																																																																							
フリー欄	源氏転地療養する																																																																							
タイトル	『源氏遠鏡』受講生による発表②																																																																							
フリー欄	明石入道とその娘の話を耳にする																																																																							
タイトル	『源氏遠鏡』受講生による発表③																																																																							
フリー欄	尼君と僧都との遣り取り																																																																							
タイトル	『源氏遠鏡』受講生による発表④																																																																							
フリー欄	源氏僧都の坊を来訪する																																																																							
タイトル	『源氏遠鏡』受講生による発表⑤																																																																							
フリー欄	尼君へ消息を遣わす																																																																							
タイトル	『源氏遠鏡』受講生による発表⑥																																																																							
フリー欄	源氏と僧都と和歌の応酬																																																																							
タイトル	『源氏遠鏡』受講生による発表⑦																																																																							
フリー欄	源氏帰還、北山の人々に消息を出す																																																																							
タイトル	『源氏遠鏡』受講生による発表⑧																																																																							
フリー欄	藤壺宮懐妊のこと																																																																							
タイトル	『源氏遠鏡』受講生による発表⑨																																																																							

	フリー欄	尼君を弔う
	第13回	
	タイトル	『源氏遠鏡』受講生による発表⑩
	フリー欄	源氏、兵部卿宮の意中を知る
	第14回	
	タイトル	『源氏遠鏡』受講生による発表⑪
	フリー欄	源氏、紫姫君を連れて去る
	第15回	
	タイトル	まとめ
	フリー欄	『源氏遠鏡』の俗訳文体について
授業概要	尾張国の国学者栗田直政が訳した『源氏遠鏡』を雅俗対照させて読みます 古典語・古典文法について復習し、近代語法について新たに学習します	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	影印資料に馴れるということを当面の目標として、授業前に読みの練習をしてください また、授業後はしっかり概要を押さえながら読めるように、反復練習してください	
テキスト	影印資料を印刷して渡します	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	馴れさえすれば読むのはそれほど難しくはありませんので、根気強く読む練習をしてください	
評価方法	授業への参加度(50%)と課題レポートの成果(50%)との総合的評価。基本的な評価基準として、【参加度(発表者の場合)】発表内容を熟知し不明点を積極的に求めようとする態度が窺える[S]、発表内容を熟知し、不明点が明確に判る[A]、発表内容が概ね理解できてまとめられる[B]、発表内容が概ね理解されているが、説明が足りない[C]、発表内容が不明確で説明もできない[D]【参加度(聴講者の場合)】発表者説明をよく理解し建設的な意見を述べる[S]、発表者説明をよく理解し不明点を指摘できる[A]、発表者説明を概ね理解し賛意・不賛意が表明できる[B]、発表者説明は概ね理解できるが自身の考えは表明できない[C]、発表者説明が理解できず発言や質問もできない[D]、【レポートの成果】問題の所在を理解し解法を正しく述べ明快な解答が導き出せている[S]、問題の所在を理解し解法が概ね正しく明快な解答が導き出せている[A]、問題の所在は理解しているが解法に不備な点があり解答にやや明快さを欠く[B]、問題点・解法に誤りがあり結論に精細さが無い[C]、問題点・解法が示されず結論が出せていない[D]、として総合評価します。	
参考文献	野村剛史『日本語スタンダードの歴史』（岩波書店） 杉本つとむ『東京語の歴史』（講談社学術文庫）	
備考		

講義科目名称： 日本語教育論演習 A (10763)

授業コード： 10763

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
小峰 克之			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	この授業は、日本語教育における初中級学習者の指導法とその留意点を学ぶことを目的としている。 到達目標 1 必須文型を優先順位を考えながら体系的に列挙できる。 2 各文法事項を学習者が理解できるように説明できる。 3 初中級の学習者に対してライティングの指導ができる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	導入 ガイダンス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	日本語教育の諸問題	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	学生指導の方法	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	文法指導 1 動詞の諸問題	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	文法指導 2 ヴォイスの留意点	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	文法指導 3 アスペクト	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	文法指導 4 自他動詞と助詞	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	文法指導 5 授受表現	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	文法指導 6 条件の表現		
フリー欄			
第10回			
タイトル	ライティング指導 1 主張の構成		
フリー欄			
第11回			
タイトル	ライティング指導 2 フレームの意義		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	ライティング指導3 フレーム作成
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	ライティング指導4 形式とリサーチ
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	ライティング指導5 校正の仕方
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	ライティング指導6 相互批評
	フリー欄	
授業概要	日本語教育で扱う事柄は私たちが中学高校で習ったものとはかなり異なっているため、まずはその内容を理解することが大切である。授業ではそれらについて議論などを行いながら、効果的な指導授のあり方を模索していく。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	次の授業内容に予め目を通しておき、課題が与えられている場合は次の授業までにやっておく。また、授業後はプリントやノートで授業内容を整理しておく。	
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本語教育は、私たちが中学高校で習った国語の授業とは根本的に異なるため初めは戸惑うかもしれませんが、授業をしっかり受けていけば慣れてくるとと思いますので、その点は心配せずに受講してください。	
評価方法	発表及び実演（60%）、提出物（40%）で評価する。	
参考文献	授業で適宜紹介する。	
備考		

講義科目名称： 日本語教育論演習 B (10764)

授業コード： 10764

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
小峰 克之			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>この授業は「日本語教育論演習A」の内容を前提としたもので、日本語教育の知見を深めることを目的としている。</p> <p>到達目標1 日本語教育で使われる概念を把握し、それらを応用して考えることができるようになる。</p> <p>2 発表やプレゼンテーションの指導ができるようになる。</p> <p>3 実演を通しレポート作成などのライティングの指導ができるようになる。</p>
--------------	---

授業計画	第1回	
	タイトル	導入 ガイダンス
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	テーマの選定方法とその例
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	文型積み上げ式の問題
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	会話指導の問題
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	生教材の問題
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	話し言葉と書き言葉の問題
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	ライティング指導の問題
フリー欄		
第8回		
タイトル	問題の整理とその方法	
フリー欄		
第9回		
タイトル	報告のための諸注意	
フリー欄		
第10回		

	タイトル	報告形式の確認
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	相互批評
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	修正上の諸注意
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	自己評価と振り返り
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	最終報告と今後の課題
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ
	フリー欄	
授業概要	この授業は演習であるため、配布された資料を読んだり考えたりする以外に発表したり小レポートを作成したりする。また、議論などの時間もあり、受講者の主体的な参加が望まれる。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	事前に配布された資料を読んでくること。また、発表などでは授業までに指示された作業を終えておくこと。授業後は配布物やノートで授業内容を整理しておくこと。	
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この授業は「日本語教育論演習A」を履修したことを前提としています。発表などの作業が比較的に多い授業ですので、主体的に取り組んでもらえるように配慮しながら進めていきたいと思っております。	
評価方法	レポート（50%）、発表（50%）で評価する。	
参考文献	授業で適宜紹介する。	
備考		

講義科目名称： 図書館文化論演習 A (10782)

授業コード： 10782

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
大沼 太兵衛			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	図書館情報学の様々なトピックについて演習形式で探究し、その作業を通じて基礎的なアカデミックスキルの涵養も行う。到達目標は次の3点である。 (1) 図書館をめぐる近年の動向や課題を知り、周辺分野も含めた広い視野を獲得する (2) 文献読解、レジュメ作成、発表、議論等を通して、汎用的な知的作業能力を身につける (3) グループワークを通して、チームで協力する能力を身につける		
授業計画	第1回		
	タイトル	導入	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	発表に向けた準備	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	グループによる発表(1)	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	グループによる発表(2)	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	グループによる発表(3)	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	グループによる発表(4)	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	グループによる発表(5)	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	グループによる発表(6)	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	グループによる発表(7)		
フリー欄			
第10回			
タイトル	グループによる発表(8)		
フリー欄			
第11回			
タイトル	グループによる発表(9)		
フリー欄			
第12回			
タイトル	グループによる発表(10)		

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	グループによる発表(11)
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	グループによる発表(12)
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	全体のまとめ、後期に向けた導入
	フリー欄	
授業概要	国立国会図書館「カレントアウェアネス・ポータル」( <a href="https://current.ndl.go.jp/">https://current.ndl.go.jp/</a> ) 収録の記事を主たる題材とし、各回異なる記事を題材として、グループによる発表とディスカッションを行う。担当する記事は、グループの希望を踏まえて決定する。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	予習：各回の指定記事の予習にあたっては、発表者ではない場合であっても、十分に時間をかけて読解（記事を理解するための調査作業も含む）し、あらかじめ内容を理解してポイントや疑問点をまとめておくこと。 復習：1時間以上。	
テキスト	なし	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	発表やディスカッションへの積極的な参加を高く評価します。	
評価方法	発表の質・授業への貢献度（40%） 出席率（30%） 期末レポート（30%）	
参考文献	佐藤望編著『アカデミック・スキルズ（第3版）：大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会、2020年、1,100円（税込）ISBN 978-4-7664-2656-4 河野哲也著『レポート・論文の書き方入門 第4版』慶應義塾大学出版会、2018年、1,100円（税込）ISBN 978-4-7664-2527-7 その他、各授業回の内容にかかわる参考文献は適宜紹介する。	
備考	出欠管理、レポート提出、諸連絡等はすべてGoogle Classroom上で行うため、各自Googleアカウントを一つ用意すること。詳細は初回授業で説明します。 レポートの提出を単位取得の必要条件とします。レポートの提出がない場合、不可となりますのでご注意ください。 授業計画は、受講者数、授業進捗その他の事情によって随時変更の可能性があります。	

講義科目名称： 図書館文化論演習 B (10783)

授業コード： 10783

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
大沼 太兵衛			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>「図書館文化論演習A」の発展形として、後期では図書館情報学の論文を扱う。前期同様、発表およびディスカッションで演習を行う。</p> <p>到達目標は前期と同様、次の3点であるが、前期よりも高度なレベルを目指す。</p> <p>(1) 図書館をめぐる動きや現代的な課題を知り、周辺分野も含めた広い視野を獲得する</p> <p>(2) 文献読解、レジュメ作成、発表、議論等を通して、汎用的な知的作業能力を身につける</p> <p>(3) グループワークを通して、チームで協力する能力を身につける</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス、図書館情報学分野の学術論文の調べ方	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	学術論文の読み方	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	グループによる発表(1)	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	グループによる発表(2)	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	グループによる発表(3)	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	グループによる発表(4)	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	グループによる発表(5)	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	グループによる発表(6)	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	グループによる発表(7)		
フリー欄			
第10回			
タイトル	グループによる発表(8)		
フリー欄			
第11回			
タイトル	グループによる発表(9)		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	グループによる発表(10)
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	グループによる発表(11)
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	グループによる発表(12)
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	全体のまとめ
	フリー欄	
授業概要	図書館情報学および関連分野の論文を題材とし、各回異なる論文について、グループによる発表とディスカッションを行う。 担当する論文は、グループの希望を踏まえて決定する。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	予習：各回の指定論文の予習にあたっては、発表者ではない場合であっても、十分に時間をかけて読解（論文を理解するための調査作業も含む）し、あらかじめ内容を理解してポイントや疑問点をまとめておく等すること。 復習：1時間以上。	
テキスト	なし	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	発表やディスカッションへの積極的な参加を高く評価します。	
評価方法	発表の質・授業への貢献度（40%） 出席率（30%） 期末レポート（30%）	
参考文献	佐藤望編著『アカデミック・スキルズ（第3版）：大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会、2020年（ISBN：978-4-7664-2656-4） 河野哲也著『レポート・論文の書き方入門 第4版』慶應義塾大学出版会、2018年（ISBN：978-4-7664-2527-7） その他、各授業回の内容にかかわる参考文献は適宜紹介する。	
備考	出欠管理、レポート提出、諸連絡等はすべてGoogle Classroom上で行うため、各自Googleアカウントを一つ用意すること。詳細は初回授業で説明します。 レポートの提出を単位取得の必要条件とします。レポートの提出がない場合、不可となりますのでご注意ください。 授業計画は、受講者数、授業進捗その他の事情によって随時変更の可能性があります。	

講義科目名称： 教育文化論演習 A (10791)

授業コード： 10791

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
村瀬 桃子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	教育をはじめとした文化に関して、各個人の興味関心に添いつつ、様々な角度から教育問題や社会問題を考察できるようにする。		
授業計画	第1回		
	タイトル	オリエンテーション	
	フリー欄	前期のゼミの流れを確認する。	
	第2回		
	タイトル	発表資料の書き方・発表の仕方	
	フリー欄	演習でのゼミの発表資料の書き方や発表の仕方などを確認する。	
	第3回		
	タイトル	レポート・論文の書き方	
	フリー欄	短大を卒業する前に、レポートや論文の書き方の最低限のルールを知る（特に卒論・編入希望者は確実に）。	
	第4回		
	タイトル	文献の講読と発表	
	フリー欄	文献を分担し、発表する。	
	第5回		
	タイトル	文献の講読と発表	
	フリー欄	文献を分担し、発表する。	
	第6回		
	タイトル	文献の講読と発表	
	フリー欄	文献を分担し、発表する。	
	第7回		
	タイトル	文献の講読と発表	
	フリー欄	文献を分担し、発表する。	
	第8回		
	タイトル	文献の講読と発表	
	フリー欄	文献を分担し、発表する。	
第9回			
タイトル	文献の講読と発表		
フリー欄	文献を分担し、発表する。		
第10回			
タイトル	文献の講読と発表		
フリー欄	文献を分担し、発表する。		
第11回			
タイトル	文献の講読と発表		
フリー欄	文献を分担し、発表する。		
第12回			
タイトル	文献の講読と発表		
フリー欄	文献を分担し、発表する。		

	第13回	
	タイトル	文献の講読と発表
	フリー欄	文献を分担し、発表する。
	第14回	
	タイトル	文献の講読と発表
	フリー欄	文献を分担し、発表する。
	第15回	
	タイトル	卒業論文構想発表
	フリー欄	卒業論文の執筆を予定している者の構想を発表する。
授業概要	前期は、教育・文化に関する基本事項をおさえるため、全員で文献を読み解いていく（卒業研究を予定している者はその検討を行う）。発表は、基本的に個人で行う予定である。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	検討文献を必ず前もって読む。発表前に自主的に準備を進めておく。日頃から、教育を中心とした社会問題について関心を持つようにする。	
テキスト	授業内に皆で文献候補を検討、決定した文献。絶版の場合はコピー。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ゼミは学生による自治が基本。自ら課題を見つけ、学ぶ能力をつけた人を評価する。	
評価方法	発表の完成度（課題設定や分析は適切か等、70%）、演習への参加度（演習中の質問等の発言30%）	
参考文献	その都度紹介する。	
備考		

講義科目名称： 教育文化論演習 B (10792)

授業コード： 10792

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
村瀬 桃子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	教育に関して、まず基本事項をおさえた上で、各個人の興味関心に添いつつ、様々な角度から教育問題を考察できるようにしたい。		
授業計画	第1回		
	タイトル	オリエンテーション	
	フリー欄	後期の予定を確認する。	
	第2回		
	タイトル	卒論構想発表①	
	フリー欄	卒業研究の構想について発表する（希望者）。	
	第3回		
	タイトル	卒論構想発表②	
	フリー欄	卒業研究の構想について発表する（希望者）。	
	第4回		
	タイトル	個人研究発表①	
	フリー欄	個人研究の発表を行う（卒業研究を希望しない者が中心となる）。	
	第5回		
	タイトル	個人研究発表②	
	フリー欄	個人研究の発表を行う（卒業研究を希望しない者が中心となる）。	
	第6回		
	タイトル	個人研究発表③	
	フリー欄	個人研究の発表を行う（卒業研究を希望しない者が中心となる）。	
	第7回		
	タイトル	個人研究発表④	
	フリー欄	個人研究の発表を行う（卒業研究を希望しない者が中心となる）。	
	第8回		
	タイトル	個人研究発表⑤	
	フリー欄	個人研究の発表を行う（卒業研究を希望しない者が中心となる）。	
	第9回		
	タイトル	個人研究発表⑥	
フリー欄	個人研究の発表を行う（卒業研究を希望しない者が中心となる）。		
第10回			
タイトル	卒論中間発表①		
フリー欄	卒論の進捗状況について、報告し、検討する。		
第11回			
タイトル	卒論中間発表②		
フリー欄	卒論の進捗状況について、報告し、検討する。		
第12回			
タイトル	個人研究発表⑦		
フリー欄	個人研究の発表を行う（卒業研究を希望しない者が中心となる）。		
第13回			

	タイトル	個人研究発表⑧
	フリー欄	個人研究の発表を行う（卒業研究を希望しない者が中心となる）。
	第14回	
	タイトル	個人研究発表⑨
	フリー欄	個人研究の発表を行う（卒業研究を希望しない者が中心となる）。
	第15回	
	タイトル	まとめ
	フリー欄	1年間のゼミのまとめを行う。
授業概要	後期は、それぞれの興味関心に添った文献等を読み進めていく予定である（卒業研究を取る者は卒業研究の検討を行う）。発表は、基本的に個人で行う予定である。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	検討文献を必ず前もって読む。発表前に自主的に準備を進めておく。日頃から、教育・文化を中心とした社会問題について関心を持つようにする。	
テキスト	授業内に皆で文献候補を検討、決定した文献。絶版の場合はコピー。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ゼミは学生による自治が基本。自ら課題を見つけ、学ぶ能力をつけた人を評価する。	
評価方法	発表の完成度（課題設定や分析は適切か等、70%）、演習への参加度（演習中の質問等の発言30%）	
参考文献	その都度紹介する。	
備考		

講義科目名称： 書道 (10800)

授業コード： 10801 10802

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2	4	選択・教職必修 (教科：国語)
担当教員			
我彦 芳柳			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放(教養)			授業形態：講義・演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	1. 楷書・行書・草書・隸書・仮名の代表的な古典を臨書し、学内展示作品を作成 2. 篆書を学び雅印作成 3. 国語科の書写指導に必要な実技 4. 現代の書・生活の書・実用書の作成		
授業計画	第1回		
	タイトル	用具・用材について	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	楷書の基本用筆確認	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	書写から書道入門	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	漢字の変遷と書体・楷書の成立	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	唐の四大家を学ぶ (1) 孔子廟堂碑	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	唐の四大家を学ぶ (2) 九成宮醴泉銘	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	唐の四大家を学ぶ (3) 雁塔聖教序	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	唐の四大家を学ぶ (4) 顔氏家廟碑	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	北魏の書を学ぶ (1) 牛けつ造像記		
フリー欄			
第10回			
タイトル	北魏の書を学ぶ (2) 鄭義下碑		
フリー欄			
第11回			
タイトル	楷書の小階 隅寺心教		
フリー欄			
第12回			
タイトル	楷書の小階 隅寺心教		
フリー欄			

第13回	
タイトル	行書の特徴を学ぶ
フリー欄	
第14回	
タイトル	行書の古典を学ぶ（1）蘭亭序
フリー欄	
第15回	
タイトル	行書の古典を学ぶ（2）争坐位文稿
フリー欄	
第16回	
タイトル	篆書を学ぶ 泰山刻石
フリー欄	
第17回	
タイトル	日本の書三筆三跡を学ぶ
フリー欄	
第18回	
タイトル	仮名の用筆法を学ぶ
フリー欄	
第19回	
タイトル	平仮名と変体仮名を学ぶ
フリー欄	
第20回	
タイトル	平仮名と変体仮名の単体・連綿を学ぶ
フリー欄	
第21回	
タイトル	仮名の古典を学ぶ（1）高野切第三種
フリー欄	
第22回	
タイトル	仮名の古典を学ぶ（2）高野切第一種
フリー欄	
第23回	
タイトル	仮名の古典を学ぶ（3）寸松庵色紙
フリー欄	
第24回	
タイトル	学内展示作品仕上げ
フリー欄	
第25回	
タイトル	草書を学ぶ 真草千字文
フリー欄	
第26回	
タイトル	隷書を学ぶ
フリー欄	
第27回	
タイトル	漢字仮名交じりの書を学ぶ
フリー欄	
第28回	
タイトル	学内展示作品の鑑賞
フリー欄	
第29回	

	タイトル	手紙文・実用書を学ぶ
	フリー欄	
	第30回	
	タイトル	書道史年表中心にまとめ
	フリー欄	
授業概要	漢字・仮名の変遷成立の理解を深め、基礎的実技能力を養う。	
実務経験及び授業の内容	書道教室での実務経験及び小中高の書道展での審査経験を生かし、作品制作の指導を行う。	
時間外学習	休日等を利用し、美術館・博物館・展覧会等の鑑賞に行くこと。	
テキスト	必要に応じてプリント配布	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	1. 実技を中心とする積み上げ学習なので、講義を欠席しないこと。 2. 学内展示作品（修了作品）作成に費用2,400円位必要です。	
評価方法	1. 作品の評価 2. 授業の参加度 3. 学内展示作品の作成	
参考文献	古典法帖	
備考	①書道道具(既存の物で可)を1回目から持参下さい。 ②用具・用材はさわらび利用	

講義科目名称： 伝統文化論 (10910)

授業コード： 10910

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
石黒 志保			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放 (教養)			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	日本の伝統はどのように生じ、形成されてきたのかについて考察します。授業を通じて、各時代の「伝統」に関する資料を読み解き、自身の身近にある文化や思想について、再考できるようになることを目標とします。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	「伝統について」	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	川端康成『美しい日本の私』を読む	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	川端康成『美の存在と発見』を読む	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	和歌とはなにか①ー『古今和歌集』仮名序を読む	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	和歌とはなにか②ー中世歌論を読む	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	もののあはれとは①ー『源氏物語』	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	もののあはれとは②ー本居宣長『石上私淑言』を読む	
	フリー欄		
	第9回		
	タイトル	世阿弥『風姿花伝』を読む	
フリー欄			
第10回			
タイトル	千利休『南方録』を読む		
フリー欄			
第11回			
タイトル	松尾芭蕉『おくのほそ道』を読む①ー概説		
フリー欄			
第12回			
タイトル	松尾芭蕉『おくのほそ道』を読む②ー尾花沢・山寺・羽黒三山		

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	民藝について①一柳宗悦『手仕事の日本』
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	民藝について②一柳宗悦『工藝の道』
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ
	フリー欄	
授業概要	各回、古代から近代までのさまざまな資料を読み、日本の伝統について通史的に考察します。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	配布資料を復習的に読み、授業で取り上げたテキストを熟考してください。また、参考になる書籍等は随時、授業内でお伝えします。	
テキスト	プリント配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	異なる時代のさまざまな視点の資料を取り上げます。自分の身の回りにある、文化や思想についてなぜ、どのように醸成されてきたのか、一緒に考えてみましょう。	
評価方法	各回ごとのコメントシート（80%）、授業の参加度（20%）で評価をします。初回授業日に注意点をまとめたプリントを配布しますので、履修者は必ず受け取り、内容を確認してください。その内容を理解したものとし、授業を進めます。	
参考文献	適宜、授業内で紹介します。	
備考		

講義科目名称： 有職故実 (10920)

授業コード： 10920

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択
担当教員			
田中 潤			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放 (教養)			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	有職故実とは、前近代の公家・武家社会において、政治・制度・儀式・法令・慣習など多様な分野におよぶ知識・先例と、それを研究する学問とされる。いわば、前近代の人々の衣食住の総体を規定してきた要素を学ぶものである。古代から伝えられてきた歴史資料や古典籍、あるいは博物館・美術館などに收藏される美術品が生み出され、実際に用いられてきた様子を知る上で、有職故実の知識は不可欠である。この講義では、多方面にわたる有職故実の分野の中でも、公家・女房装束を中心に紹介し、実際の着装を通じて理解を深めることを目標とする。		
授業計画	第1回		
	タイトル	オリエンテーション (有職故実とはなにか)	
	フリー欄	身近な有職故実としての年中行事 (お正月を中心に)	
	第2回		
	タイトル	現代に伝えられた公家服飾 (お雛さまの装い)	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	近代の即位の礼と装束の変化 (即位礼の「場」としての「京都御所」)	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	日本服飾史① (衣服の起源と原始古代の服飾)	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	日本服飾史② (正倉院宝物にみる服飾)	
	フリー欄	奈良朝の復元装束を中心に	
	第6回		
	タイトル	日本服飾史③ (彫刻資料にみる服飾・公家装束を中心に)	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	日本服飾史④ (文献資料にみる服飾)	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	日本服飾史⑤ (絵画資料に見る服飾・女房装束を中心に)	
	フリー欄	源氏物語絵巻を題材として	
第9回			
タイトル	日本服飾史⑥ (和の色名と、かさねの色目)		
フリー欄	グループオリジナルのかさね色目をつくる。		
第10回			
タイトル	日本服飾史⑦ (平安時代⑤：有職織物・有職文様)		
フリー欄	有職装の調査		
第11回			
タイトル	日本服飾史⑧ (衣紋道について)		
フリー欄	衣紋道による着装を知る。		
第12回			

	タイトル	日本服飾史⑨（着装体験の説明）
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	着装体験と装束雛形の調査①
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	着装体験と装束雛形の調査②
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ・筆記試験
	フリー欄	
授業概要	配布資料とパワーポイントなどを用い、映像資料、着装などを踏まえながら理解を深める。	
実務経験及び授業の内容	装束の着装指導や有職故実関係資料の整理で得た実務経験を踏まえて指導を行う。	
時間外学習	日本の歴史の流れを確認し、「伝統的な」日本の衣装に目を留め、よく観察しておくこと。	
テキスト	プリントを配布。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	着装や、個人・グループでも作業を行うので、積極的な参加を希望します。	
評価方法	試験	
参考文献	鈴木敬三『有職故実図典』吉川弘文館 1995	
備考		

講義科目名称： 民俗学概説(国) (10930)

授業コード： 10930

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
阿部 宇洋			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>本授業は、日本民俗学の概要を広く学ぶこと主題とします。また、共同で学びを深めることによって、様々な興味関心を持ち、広い視野で歴史、現代を見つめる力を身につけることを願います。</p> <p>到達目標</p> <p>1、日本民俗学の分野に関して理解する。 2、身近な現象を民俗学の視野で観察することが出来る。 3、日本人は目に見えない世界をどのように理解しようとしたのかを、理解することが出来る。</p>																																														
授業計画	<p>第1回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>オリエンテーション、民俗学の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第2回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>調査ノート（フィールドノート）、メモ、記録に関して</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第3回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>民俗学の系譜1（柳田国男、折口信夫、南方熊楠など）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第4回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>民俗学の系譜2（渋沢敬三、宮本常一、柳宗悦など）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第5回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>地獄、極楽、供養、民衆の中のあの世</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第6回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>怪異とのつきあい方</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第7回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>やまがたを知る（グループワーク1・グループ作成と課題設定）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第8回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>やまがたの郷土食を探る（グループワーク2・課題探求）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第9回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>米沢の刺し子 1 十字刺し</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第10回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>米沢の刺し子 2 くぐり刺し</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第11回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>民具の基礎知識、道具から見える世界</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第12回</p>			タイトル	オリエンテーション、民俗学の基礎知識	フリー欄		タイトル	調査ノート（フィールドノート）、メモ、記録に関して	フリー欄		タイトル	民俗学の系譜1（柳田国男、折口信夫、南方熊楠など）	フリー欄		タイトル	民俗学の系譜2（渋沢敬三、宮本常一、柳宗悦など）	フリー欄		タイトル	地獄、極楽、供養、民衆の中のあの世	フリー欄		タイトル	怪異とのつきあい方	フリー欄		タイトル	やまがたを知る（グループワーク1・グループ作成と課題設定）	フリー欄		タイトル	やまがたの郷土食を探る（グループワーク2・課題探求）	フリー欄		タイトル	米沢の刺し子 1 十字刺し	フリー欄		タイトル	米沢の刺し子 2 くぐり刺し	フリー欄		タイトル	民具の基礎知識、道具から見える世界	フリー欄	
タイトル	オリエンテーション、民俗学の基礎知識																																														
フリー欄																																															
タイトル	調査ノート（フィールドノート）、メモ、記録に関して																																														
フリー欄																																															
タイトル	民俗学の系譜1（柳田国男、折口信夫、南方熊楠など）																																														
フリー欄																																															
タイトル	民俗学の系譜2（渋沢敬三、宮本常一、柳宗悦など）																																														
フリー欄																																															
タイトル	地獄、極楽、供養、民衆の中のあの世																																														
フリー欄																																															
タイトル	怪異とのつきあい方																																														
フリー欄																																															
タイトル	やまがたを知る（グループワーク1・グループ作成と課題設定）																																														
フリー欄																																															
タイトル	やまがたの郷土食を探る（グループワーク2・課題探求）																																														
フリー欄																																															
タイトル	米沢の刺し子 1 十字刺し																																														
フリー欄																																															
タイトル	米沢の刺し子 2 くぐり刺し																																														
フリー欄																																															
タイトル	民具の基礎知識、道具から見える世界																																														
フリー欄																																															

	タイトル	民俗芸能の基礎知識
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	口承伝承 昔話、伝説の基礎知識
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	発表・報告
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ
	フリー欄	
授業概要	講義を中心に、実施します。第7回目からグループを作成して共同作業を実施してもらう予定です。第9回、第10回には米沢の原方刺し子を実践してもらう予定です。評価方法、評価の内容に関しては第1回目に詳しく説明します。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	土日祝日を利用して、さまざまな博物館・美術館・資料館を見学しに行くこと。また、授業中にわからなかった語句の意味を調べること。	
テキスト	適宜配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	民俗学は「あるく、みる、きく」が基礎とされますが、皆さんにはその3つに加え、みずから「考える」ことをしていただきたいと思います。社会の中に取り込まれている、隠れている民俗事象を発見できるような、視点を身に付けて欲しいと思います。また、知らない人とコミュニケーションする練習の場にもなります。この講義では失敗を恐れなくてください。コミュニケーションが苦手な人は授業時に相談してください。	
評価方法	授業への参加度	15%
	中間レポート	35%
	発表・報告	45%
参考文献	『日本民俗学概論』（1983）、『米沢市伝統技術「原方刺し子」の詳細記録の作成と図案の研究』（2020）、他、詳しくは講義資料で紹介します。	
備考	刺し子の体験を実施します。自分で刺し子のコースターを作成して頂きます。その際に、材料費が1,500円かかります。教員とのやり取りに関しては、授業内で提示します。	

講義科目名称： 山形の郷土資料と文学（10951）

授業コード： 10951

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
千葉 正昭			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放（教養）			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	山形の土壌が生んだ作家・作品を、その生涯及びテーマを絡めて検討していく。その過程で作品様式の独自性を理解していく。出来ればこの作品様式の中に、自然、風土、歴史が潜んでいることを理解できるようになれば有難いと考えている。		
授業計画	第1回		
	タイトル	山形の文学の豊饒さ	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	樋口一葉を世に出した大橋乙羽	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	一葉に対決心を燃やした田沢稲舟	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	斎藤茂吉と老いらくの恋	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	童話作家浜田広助は偏屈男？	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	「黒川能」と折口信夫「死者の書」	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	森敦「月山」とは？	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	無着成恭「山びこ学校」と安本末子「にあんちゃん」	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	丸谷オ一「笹まくら」の逃避行		
フリー欄			
第10回			
タイトル	藤沢周平の桃源郷		
フリー欄			
第11回			
タイトル	井上ひさしの奇想天外		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	森万紀子の破滅志向
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	直木賞作家佐藤賢一と西洋
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	安部公房「砂の女」と庄内砂丘
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	安部公房「砂の女」その2／レポート提出
	フリー欄	
授業概要	<p>各々の作家・作品を初回の授業で解説。該当する作品は、前週に印刷したものを配布する。こんな興味深い作家がいたのかという発見があれば、嬉しい。図書館にない資料でもお貸しすることを考えている。受講学生とのやり取りで意欲が出ることを望んでいる。</p>	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	<p>1 翌週の授業内容を指定するので、問題点を考えておくこと。  2 授業を踏まえて、テーマをもう一度ノートに整理しておくこと。  3 授業に関わりのあった別の作品等を調べておくこと。</p>	
テキスト	印刷物を配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	山形県出身者にこれほどの人がいたのかという驚きがあれば有難い。風土の特殊性は、結構興味深いものと理解されるのではないかと。授業終了後に希望者たちと文学散歩が出来れば嬉しいと夢想している。	
評価方法	質疑応答20%、レポート80%。	
参考文献	その都度教室で指示する。	
備考	第一回目の授業が結構重要である。	

講義科目名称： 現代文化論 (10952)

授業コード： 10952

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
今井 瞳良			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放 (教養)	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	あるメディアから他のメディアへ移植される「アダプテーション」という現象から、現代文化を歴史的に読みときます。到達目標は以下の二つです。①アダプテーションの見方を理解する。②現代文化を歴史的な視点から相対的に捉える力をつける。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイドランス：アダプテーションとは何か	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	映像史概説	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	『ちはやふる 上の句』 (2016年) を見る	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	漫画『ちはやふる』から青春映画『ちはやふる』へ	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	ライトノベルからアニメへ：『涼宮ハルヒの憂鬱』	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	『君の名は』から『君の名は。』へ	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	『ゴジラ』から『シン・ゴジラ』へ	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	映画『伊豆の踊子』 (1963年) を見る	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	『伊豆の踊子』から『伊豆の踊子』から『伊豆の踊子』へ、そして『伊豆の踊子』へ		
フリー欄			
第10回			
タイトル	「文豪」から「聖地巡礼」へ：『文豪ストレイドッグス』と『文豪とアルケミスト』		
フリー欄			
第11回			
タイトル	『戦慄怪奇ファイルコワすぎ！ FILE04 真相！トイレの花子さん』 (2012年) を見る		
フリー欄	※ホラー作品を扱います。苦手な方は出席を控えてください。欠席しても成績には影響しません。		
第12回			

	タイトル	怪談からJホラーへ：「実話性」と赤い服の女
	フリー欄	※ホラー作品を扱います。苦手な方は出席を控えてください。欠席しても成績には影響しません。
	第13回	
	タイトル	「東京オリンピック」から「東京2020オリンピック」へ：その背景
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	「東京オリンピック」から「東京2020オリンピック」へ：映像と観客
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ
	フリー欄	
授業概要	アダプテーションという現象を考えることで、現代文化をただ「新しい」と見るのではなく、歴史の中に位置付けてみたいと思います。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	授業で扱う作品は可能な範囲で目を通してください。	
テキスト	資料をTeamsよりダウンロードできるようにします。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	興味のある作品を今までとは異なる視点から考える機会にしましょう。担当教員が振り返りシートを2～3回ほど確認し、応答する時間を取ります。積極的に意見を発信してください。	
評価方法	振り返りシート（30%）、レポート（70%）	
参考文献	授業中に適宜紹介する。	
備考	第11回、第12回にホラー作品を扱います。苦手な方は出席を控えてください。欠席しても成績には影響しません。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
小野 卓也			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放 (教養)			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>日本は昔から、インドや中国の文化（言語と論理、宗教と死生観、恋愛観や家族観など）を積極的に取り入れてきました。その結果、私たちの習慣やものの考え方の背景には、知らず知らずのうちにこうした国々の影響が多く残されています。</p> <p>この授業では、私たちの日常生活にひそむインドや中国からの影響を学び、その発想や捉え方の違いを、日本と比較して見ていきます。当然と思っていたことの背景にある未知の歴史や、それが当然ではない世界との比較から見えてくるものは何か、一緒に考えていきましょう。</p>																																										
授業計画	<p>第1回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>日本語の中のインドの言葉</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>音写と意識のメリットとデメリット。梵文を書いてみよう</td> </tr> </table> <p>第2回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>七福神の成立</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>インド・中国・日本の神様の違い。人は神仏に何を求めるのか</td> </tr> </table> <p>第3回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>カレーライスの歴史</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>インドから日本への経路。外国文化の伝播と日本国内の広がり</td> </tr> </table> <p>第4回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>無常について</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>いろは歌と「もののあはれ」。ネガティブな捉え方とポジティブな捉え方</td> </tr> </table> <p>第5回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>苦と解脱</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>四苦八苦から涅槃へ。悩み苦しみを乗り越えて幸せになる方法</td> </tr> </table> <p>第6回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>善悪の基準</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>十悪業と四摂法。偽善とお節介のはざま</td> </tr> </table> <p>第7回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>自己とは何か</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>コロナ禍で見失ってしまった自分を再構築するために</td> </tr> </table> <p>第8回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>業と来世</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>輪廻と黄泉の国について。人は死んだらどうなるのか</td> </tr> </table> <p>第9回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>世界の始まりと終わり</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>世界は単一か多元か。存在論と認識論をめぐって</td> </tr> </table> <p>第10回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>先祖と神仏</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>餓鬼と御霊信仰。死者はどのように扱われるか</td> </tr> </table> <p>第11回</p>			タイトル	日本語の中のインドの言葉	フリー欄	音写と意識のメリットとデメリット。梵文を書いてみよう	タイトル	七福神の成立	フリー欄	インド・中国・日本の神様の違い。人は神仏に何を求めるのか	タイトル	カレーライスの歴史	フリー欄	インドから日本への経路。外国文化の伝播と日本国内の広がり	タイトル	無常について	フリー欄	いろは歌と「もののあはれ」。ネガティブな捉え方とポジティブな捉え方	タイトル	苦と解脱	フリー欄	四苦八苦から涅槃へ。悩み苦しみを乗り越えて幸せになる方法	タイトル	善悪の基準	フリー欄	十悪業と四摂法。偽善とお節介のはざま	タイトル	自己とは何か	フリー欄	コロナ禍で見失ってしまった自分を再構築するために	タイトル	業と来世	フリー欄	輪廻と黄泉の国について。人は死んだらどうなるのか	タイトル	世界の始まりと終わり	フリー欄	世界は単一か多元か。存在論と認識論をめぐって	タイトル	先祖と神仏	フリー欄	餓鬼と御霊信仰。死者はどのように扱われるか
タイトル	日本語の中のインドの言葉																																										
フリー欄	音写と意識のメリットとデメリット。梵文を書いてみよう																																										
タイトル	七福神の成立																																										
フリー欄	インド・中国・日本の神様の違い。人は神仏に何を求めるのか																																										
タイトル	カレーライスの歴史																																										
フリー欄	インドから日本への経路。外国文化の伝播と日本国内の広がり																																										
タイトル	無常について																																										
フリー欄	いろは歌と「もののあはれ」。ネガティブな捉え方とポジティブな捉え方																																										
タイトル	苦と解脱																																										
フリー欄	四苦八苦から涅槃へ。悩み苦しみを乗り越えて幸せになる方法																																										
タイトル	善悪の基準																																										
フリー欄	十悪業と四摂法。偽善とお節介のはざま																																										
タイトル	自己とは何か																																										
フリー欄	コロナ禍で見失ってしまった自分を再構築するために																																										
タイトル	業と来世																																										
フリー欄	輪廻と黄泉の国について。人は死んだらどうなるのか																																										
タイトル	世界の始まりと終わり																																										
フリー欄	世界は単一か多元か。存在論と認識論をめぐって																																										
タイトル	先祖と神仏																																										
フリー欄	餓鬼と御霊信仰。死者はどのように扱われるか																																										

	タイトル	愛と慈悲
	フリー欄	ラブスタイル類型論から分析する愛欲と慈悲と仁
	第12回	
	タイトル	心とは何か
	フリー欄	心を整える心理学と唯識。身体の外に広がる心
	第13回	
	タイトル	身分と差別
	フリー欄	カースト制度を擁護した人たち。差別はなぜなくなるらないのか
	第14回	
	タイトル	議論と論理
	フリー欄	友好的な議論と敵対的な議論。対立を乗り越える話し合い
	第15回	
	タイトル	仏教と女性
	フリー欄	比丘尼教団の成立と今。男女平等はいかにして達成されるか
授業概要	毎回テーマに沿って、インド・中国・日本、あるいはバラモン教・ヒンドゥー教・儒教・道教・仏教における考え方の違いを比較していきます。授業の最後に簡単な課題を出し、次回提出してもらいます。	
実務経験及び授業の内容	講師はインド留学経験があり、そこでの見聞も授業中に適宜紹介していきたいと思います。また禅宗寺院の住職、人権擁護委員、保護司、家庭教育アドバイザー、県男女共同参画推進員なども務めており、その実務経験に基づいた現代の問題にも触れます。	
時間外学習	授業の最後に出す課題は、自身の経験に照らして考えてきてもらう内容です。授業内容をもとに、自分の見方や考え方を整理してきてください。	
テキスト	プリントを配布しますので、穴をあけて綴じられるA4ファイルを用意してください。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	聞いてなるほどと思うだけでなく、それが自分の考え方にどのように関係してくるのかを考えてもらえるよう心がけて進めていきたいと思っています。	
評価方法	毎回提出された課題を出席点とします。そのほかにレポートが2回あり、出席点80%、レポート20%で成績を評価します。試験は行いません。	
参考文献	授業中に適宜紹介します。	
備考		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
村瀬 桃子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	1. 現代における子ども・若者の問題や、教育問題について知る。 2. 2回の発表を通して、各自の興味のある問題について深く考え、自分の意見を伝える。		
授業計画	第1回		
	タイトル	オリエンテーション	
	フリー欄	この講義の内容や進め方、評価の仕方等について説明する。	
	第2回		
	タイトル	貧困問題と教育	
	フリー欄	「相対的貧困」をキーワードに、子どもの貧困問題について、現実を知り、どのような対策が必要か考える。	
	第3回		
	タイトル	奨学金の問題	
	フリー欄	主に大学生の奨学金の問題について、当事者として現状を知り、将来の奨学金制度をどうしていくべきか考える。	
	第4回		
	タイトル	若者の問題	
	フリー欄	若者、特に若い女性の問題のひとつとして、「生理の貧困」について知る。	
	第5回		
	タイトル	障がいをもつ子どもたちの就労問題	
	フリー欄	障がいを持つ子どもの就労問題について、現実と課題を知る。	
	第6回		
	タイトル	いじめ問題	
	フリー欄	毎年のようにいじめによる自殺という痛ましい事件が起こっている。まず、現場の取り組みを知り、いじめ防止対策推進法や第三者委員会等を知り、すべての子どもが安全に学ぶ権利を保障するための手立てを考える。	
	第7回		
	タイトル	個人発表（新聞記事から気になる話題を発表）	
	フリー欄	自分の興味のある記事を掘り下げ、パワーポイントで発表する。	
	第8回		
	タイトル	個人発表（新聞記事から気になる話題を発表）	
	フリー欄	自分の興味のある記事を掘り下げ、パワーポイントで発表する。	
	第9回		
	タイトル	個人発表（新聞記事から気になる話題を発表）	
	フリー欄	自分の興味のある記事を掘り下げ、パワーポイントで発表する。	
	第10回		
	タイトル	不登校の問題	
	フリー欄	不登校の児童生徒は年々増え続けている。不登校の子どもたちも含め、学校は子どもたちが安心して学べるために、どう変わるべきかを考える。	
	第11回		
	タイトル	児童虐待の問題	
	フリー欄	年々増加しているといわれている児童虐待であるが、虐待された子どもを保護して終わりではない。保護されてからも、長い道のりであることを知	

	る。
	第12回
タイトル	罪を犯した少年たち
フリー欄	少年犯罪は増え続けているのか、凶悪化しているのか。罪を犯した少年たちの境遇や、どのような矯正教育を受けているのかについて知る。
	第13回
タイトル	日本における外国ルーツの子どもの問題
フリー欄	日本以外にルーツを持つ子どもの問題について知り、多文共生社会を考える。
	第14回
タイトル	発表（テーマ自由）
フリー欄	授業で取り上げたテーマでも、それ以外でも、教育・子ども・若者の問題に関わることについて、興味のあることをパワーポイントで発表する。
	第15回
タイトル	発表（テーマ自由）
フリー欄	授業で取り上げたテーマでも、それ以外でも、教育・子ども・若者の問題に関わることについて、興味のあることをパワーポイントで発表する。
授業概要	ドキュメンタリー番組等を見ることで、現代の教育問題についてまず現状を知る。興味関心のあるテーマを調べ、パワーポイントを用い2回発表する（中間・最終）。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	新聞やニュース等を通じ、日頃から教育問題、子ども・青少年問題に関心を持つようにする。発表に向けて、自主的に準備を進めておく。
テキスト	毎回、プリントを配布、テキストは使用しない。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	できるだけ新しい動きを取り上げたい。授業は考える「きっかけ」。現代の様々な教育問題に対する解決法に明確な「正解」はおそらくない。だからこそ各自で考え、発信できるようにしたい。
評価方法	毎回の感想（30%）と発表内容（1回分35%×2回＝70%）で評価する。
参考文献	参考文献等は、その都度紹介する。
備考	

講義科目名称： 古文書学 (11120)

授業コード： 11121 11122

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
原 淳一郎 (21) 山田 彩起子 (22)			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義・演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>原組：前半はかな文字の基礎を固める。後半は、近世文書で使われる書体の解読力を身につける。いわゆる「くずし字」を判読する力を高める。近世から近代を専門とする（しようとする）人向け。</p> <p>山田組：前半は同じテキスト（かな文字）を使用し、後半はよりかな文字に特化したテキストを利用する。古代から中世を専門とする（しようとする）人向け。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	くずし字解読のためのガイダンス、クラス分け	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	江戸名所図会を読む－「かな」の練習（1）	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	女今川を読む－「かな」の練習（2）	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	ルビを振られた文書を読む－「かな」の練習（3）	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	江戸時代の文体に慣れよう－「かな」の練習（4）	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	手代の式目を読む－「かな」の練習（5）	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	小まとめ	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	宗門人別改帳を読む－「漢字」の練習（1）	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	交通・旅行に関する文書を読む（1）－「漢字」の練習（2）		
フリー欄			
第10回			
タイトル	交通・旅行に関する文書を読む（2）－「漢字」の練習（3）		
フリー欄			
第11回			
タイトル	交通・旅行に関する文書を読む（3）往来手形など－「漢字」の練習（4）		
フリー欄			
第12回			
タイトル	離縁状を読む		

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	結婚・離婚に関する文書を読む
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	奉公人請状を読む
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	借用証文を読む
	フリー欄	
授業概要	原組（近世文書）、山田組（かな文字）のコピー版を配布し、予習を前提に、解説を加える形で、授業を進める。1回目のガイダンスでクラス分けを行う。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	授業の予習・復習をしっかりとすること。	
テキスト	プリントを配布	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生にとっては、くずし字を読むのは、骨が折れることと思います。でも、少し辛抱すれば、ちよつとずつ読めるようになっていきます。予習、復習を大切にしてください。これらをしっかりとやって授業に臨めば、3問目も解けるようになり、特優がとれるはずですよ。	
評価方法	期末試験。全体で3問。1問目は初見のかな文字。2問目はテキスト終了範囲から1問。3問目はテキスト未修範囲から1問。2問目がほぼ正解できていれば単位取得可能。あとは1問目、3問目の正答率で「特優」から「可」まで判断する。	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 古文書学演習（11123）

授業コード： 11123

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
小林 文雄			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義・演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	1、江戸時代のくずし字を判読できるようになる（技能） 2、古文書を通して、江戸時代の庶民の生活や文化について理解し、説明できるようになる（知識・理解）		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄	授業のすすめ方と、くずし字に慣れる方法を解説します。	
	第2回		
	タイトル	江戸時代の版本を読む1－往来物	
	フリー欄	実際にくずし字に触れて、読んでみましょう。読むコツをつかんで、最初に、江戸時代の人たちが寺子屋で使っていた教材を読みます。	
	第3回		
	タイトル	江戸時代の版本を読む2－往来物	
	フリー欄	いろいろな種類の往来物に触れます。	
	第4回		
	タイトル	江戸時代の版本を読む3－江戸の名所記と番付	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	江戸時代の版本を読む4－草双紙を眺めよう	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	庶民の一生（1） 宗門人別帳を読む	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	庶民の一生（2） 離縁状と人別送り状	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	庶民の一生（3） 奉公先との契約	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	庶民の一生（4） 若者仲間の記録を読む		
フリー欄			
第10回			
タイトル	村の暮らし（1） 領主が出す文書		
フリー欄	領主が村に出したお触れを読みます。		
第11回			
タイトル	村の暮らし（2） 領主に出す文書		
フリー欄	村人が領主に出した願書や訴状を読みます		
第12回			
タイトル	村の暮らし（3） 村の事件簿		
フリー欄	村で起きた事件の記録を読みます。		

	第13回
	タイトル 村の暮らし（4） 生産と消費
	フリー欄 村人たちの土地やお金にかかわる文書を読みます。
	第14回
	タイトル 村の暮らし（5） 村人たちの楽しみ
	フリー欄
	第15回
	タイトル まとめ
	フリー欄
授業概要	毎回、江戸時代から明治時代初期にかけての、村方に残された古文書を取り上げて、判読していきます。さらに、これらの古文書読解を通して、江戸時代の庶民生活にせまりたいと思います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	テキストの古文書は毎日少しずつ予習してきてください。トピックに関連する文献も紹介するので、できるだけお読みください。
テキスト	古文書の写真と古文書解読用テキストを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	くずし字の辞典があったほうが便利です。くずし字辞典は貸し出しできます。講義の最初にくずし字の辞典の種類と使い方について説明します。
評価方法	課題の提出（60％）と期末レポート（40％）で評価します。
参考文献	
備考	

講義科目名称： 日本古代社会の歴史（11131）

授業コード： 11131

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
吉田 歆			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	日本古代史における諸問題について講義を行う。基本的には通史的な解説を行いながら進めていくが、テーマ史的な視点から、現在の歴史研究の状況についても解説していく。古代史について理解できる。歴史的な考察ができる。自分で調べたことをまとめることができる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	イントロダクション～日本列島のすがた～	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	倭人の登場	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	古代国家の形成	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	東アジアの中の日本	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	天皇号の成立	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	倭国から日本へ	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	律令国家支配の成立	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	飛鳥の様子	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	藤原京を探す		
フリー欄			
第10回			
タイトル	藤原京の復元		
フリー欄			
第11回			
タイトル	律令国家と地方		
フリー欄			
第12回			
タイトル	律令国家と文化		
フリー欄			

	第13回
	タイトル 平安遷都
	フリー欄
	第14回
	タイトル 古代の東北地方
	フリー欄
	第15回
	タイトル 古代国家と中世社会
	フリー欄
授業概要	古代史に関するテーマを詳しく解説する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業中にわからなかった語句の意味を調べること。
テキスト	とくに使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	政治史だけにかたよらず、文化史など本当にいろいろな分野にも目を配りながら進めていくので、何か一つでも興味を持てるテーマを見つけてもらいたい。
評価方法	積極的な授業への参加度（60%）、レポート（40%）
参考文献	
備考	

講義科目名称： 日本中世社会の歴史（11141）

授業コード： 11141

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
山田 彩起子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
同時開講日本史概説 2 ※	高大連携開放科目 ※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	日本中世社会への理解を深める。		
授業計画	第1回		
	タイトル	中世という時代	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	院政の成立	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	領域型荘園－御願寺造営との関わりなど－	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	武士の台頭	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	平家政権の興亡	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	東国武士のありかた	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	源頼朝の挙兵と鎌倉幕府の成立	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	鎌倉幕府支配体制の変遷	
	フリー欄		
	第9回		
	タイトル	南北朝内乱と室町幕府の成立	
	フリー欄		
第10回			
タイトル	足利義満		
フリー欄			
第11回			
タイトル	応仁・文明の乱		
フリー欄			
第12回			
タイトル	戦国大名		
フリー欄			
第13回			

	タイトル	洛中洛外図屏風と戦国時代の京都
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	中世の寺院勢力
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	中世の男色
	フリー欄	
授業概要	中世すなわち平安時代後期～戦国時代について、まずは通史を説明し、その後で幾つかのテーマをとりあげます。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	講義後、レジュメに提示した参考文献を読んで、理解を深めて下さい。	
テキスト	毎回レジュメを配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「中学や高校の授業で習った内容と違う」と思う場面が度々あると思います。近年の学説に触れられるのが大学の授業の醍醐味ですので、新しい知識・情報をどんどん吸収して下さい。	
評価方法	期末レポート	
参考文献	毎回、レジュメに参考文献を提示します。	
備考		

講義科目名称： 日本近世社会の歴史 (11151)

授業コード： 11151

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
小林 文雄			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ 日本の近世社会（江戸時代）の歴史を、世界の諸地域との関わりのなかでとらえる。</p> <p>到達目標</p> <p>①日本近世史を理解するために必要な基本的な研究概念・用語を説明することができる。</p> <p>②日本の近世社会の特質を、その前後の時代や現代と比較して説明することができる。</p> <p>③日本の近世を、日本列島をとりまく世界と関連させて把握し、説明することができる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス 日本近世史とは何か	
	フリー欄	歴史学上の地域区分や時代区分について説明し、日本や近世といった枠組みを問い直します。	
	第2回		
	タイトル	世界のなかの近世日本（1） 東アジアのなかの日本	
	フリー欄	日本列島の歴史を、東アジアの広がりの中で考えてみます。	
	第3回		
	タイトル	世界のなかの近世日本（2） 北方の交易世界	
	フリー欄	蝦夷地を北東アジアや北太平洋地域のなかに位置づけ、日本列島の歴史を複線的にとらえ直します。	
	第4回		
	タイトル	世界のなかの近世日本（3） 江戸時代の対外関係 国境はどのようにつくられるのか	
	フリー欄	江戸時代の日本をとりまく国際的な環境について検討します。	
	第5回		
	タイトル	近世の支配体制（1） 統治のしくみと社会制度	
	フリー欄	江戸時代の政治体制と、それを支えていた社会制度について説明します。	
	第6回		
	タイトル	近世の支配体制（2） 領主支配の特質	
	フリー欄	中世の武家政権と近世の武家政権では、領主の支配のあり方にどのような違いがみられたのか、江戸時代の領主と百姓の関係はどのようなものだったのか、について説明します。	
	第7回		
	タイトル	近世の支配体制（3） 統治の理念	
フリー欄	なぜ、江戸幕府は約260年もの長い期間にわたって支配を続けることができたのか、検討します。		
第8回			
タイトル	近世の文化と思想（1） 文字の普及と読み書き能力		
フリー欄	江戸時代の社会の特質を、文字の普及や役割という観点からとらえ直します。		
第9回			
タイトル	近世の文化と思想（2） 文字の習得と江戸時代の教育		
フリー欄	江戸時代の庶民教育とその意義について考察します。		
第10回			
タイトル	近世の文化と思想（3） 百姓一揆の思想		
フリー欄	江戸時代の百姓たちの法意識、社会規範について検討します。		

	第11回
	タイトル 中間まとめ
	フリー欄
	第12回
	タイトル 近世の村と町（1） 江戸時代の村共同体
	フリー欄 江戸時代の人びとは、自分たちの生活と生命をどのように守っていたのでしょうか。命を守る仕組みの発展という側面から、江戸時代の社会を見直します。
	第13回
	タイトル 近世の村と町（2） 市場経済の発達
	フリー欄 江戸時代の人びとは、どのような自然環境の中で生きていたのでしょうか。江戸時代の人びとの自然とのかかわり方、そのなかでの経済の発展について検討します。
	第14回
	タイトル 近世の村と町（3） 国訴と郡中議定ー近世後期の地域社会
	フリー欄 江戸時代の村の自治が、近代に向けてどのように展開していったか、考察します。
	第15回
	タイトル 近世の特質 まとめ
	フリー欄
授業概要	日本近世史の諸問題について、講義します。通史的な概説や、政治史・経済史・文化史といった、分野ごとの解説は行わず、研究上の争点・論点やトピックを取り上げて講義します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で取り上げた文献等を図書館で借りて読むようにこころがけてください。
テキスト	必要に応じて資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	毎回、授業後にコメントシートを提出してもらいます。そのうち5回は、授業の理解度を確認するための問いに答えてもらう形式となります。コメントシートに記載する内容の詳細は、授業内のほか、Teams内で指示することもあります。質問等は、LINEまたはメールでも受け付けます。積極的に質問してください。
評価方法	期末レポート40%、コメントシートの記述内容60%（10%×5回の理解度確認シート+その他のコメントシートの提出枚数） 期末レポートでは、日本の近世社会の特質を把握し、適切に説明できているかどうかを評価します。
参考文献	
備考	

講義科目名称： 日本文化史 (11160)

授業コード： 11160

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
原 淳一郎			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	本授業の目的は3つある。第1に、歴史に親しんでもらうこと、第2に、文化史とはいかなる学問なのか知ってもらうこと。第3に、自分達が生まれた「日本列島」（「日本」とは限らない）がいかなる歴史を歩んできたかを認識してもらうこと、またはその手がかりを与えることである。本授業ではあまり時代にこだわらず、現代社会とつながる問題意識で多角的な歴史像を紹介したい。歴史学は記憶の学問ではない。考える学問である。ひとつの具体的事実が、どのような社会的背景から引き起こされたのか、私の力の及ぶ限り説明していきたい。		
授業計画	第1回		
	タイトル	史学とは？文化史とは？民俗学とは？文化人類学とは？	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	歴史学における過去と現在（マルクス主義と皇国史観）	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	歴史学における過去と現在（マルクス主義と皇国史観）	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	稲作の起源と日本人起源論	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	柳田國男と日本民俗学（ビデオ）	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	いくつもの日本（東と西の日本文化）	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	いくつもの日本（北と南の日本文化）	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	日本国の成立と「日本人」	
	フリー欄		
	第9回		
	タイトル	伊波普猷と沖縄学（ビデオ）	
	フリー欄		
	第10回		
	タイトル	被差別と伝統文化	
	フリー欄		
	第11回		
	タイトル	都市と農村（太閤検地と徳川吉宗・柳田國男・柳宗悦）	
	フリー欄		
	第12回		
	タイトル	国家と統計・調査（『菊と刀』、太平洋戦争史、外国人から見た日本、西洋と日本の差異）	

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	日本人論の展開（『手仕事の日本』、『日本風景論』、『遠野物語』、『ニッポン』・『日本文化私観』、『タテ社会の人間関係』、『甘えの構造』…）
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	日本人論の展開（『手仕事の日本』、『日本風景論』、『遠野物語』、『ニッポン』・『日本文化私観』、『タテ社会の人間関係』、『甘えの構造』…）
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	日本人論の展開（『代表的日本人』、『茶の本』・『東洋の理想』、『武士道』）
	フリー欄	
授業概要	日本文化について様々に思考してきた先人達の書籍を紹介しながら、①日本人と日本国がいかに多様であるか、ということ、②現在の我々にとって常識であることが、必ずしも過去には常識ではないこと、などを知って貰い、受講生各自が、③日本とは何か、日本人とは何か、日本の文化とは何か、ということについて多様な視点から思索してもらおう機会とする。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	日頃より読書やテレビ視聴、映画鑑賞を通じて、積極的に情報収集し、日本人、日本国、日本の文化について主体的に考えること。	
テキスト	すべてプリントを配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	できうる限り色々な著書を読んだり原史料に触れる機会をつくりたいと思います。歴史家、思想家、宗教家などの主張を紹介した際には、できうる限りその著書（現代語訳でもよいので）を読んでください。ある地域の話をする場合にはその場所をしっかりと認識してください。固有名詞や専門用語を登場させる場合には耳だけで聞き流さないでください。ちょっと地図帳を開いたりインターネットで調べるだけでもきっと違います。	
評価方法	数回(6回程度)の課題で評価します。それぞれ4段階に評価し、平均をとります。その内容の高度さはもちろん、いかに講義中に自分の頭を使って考えたかが伝わるような主体的な取り組み方が窺われるものを評価します。約6回中提出回数が、3回以上(可)、5回以上(良)、6回以上(優)を目安としますが、内容によって1段階上下させることがあります。これは、ただ名前を書いて提出する人、あるいは1行程度しか書かない人と、しっかり考えて書いてくれた人と差をつけるための措置です。	
参考文献	佐々木高明『日本文化の多様性』（小学館、2009）をはじめとして、様々な文献、研究を紹介します。興味を抱いたものは是非図書館で手に取ってみてください。	
備考		

講義科目名称： 視覚文化論（11171）

授業コード： 11171

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
小池 隆太			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>本授業のテーマ及び到達目標は以下の通り：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. マンガならびにアニメを研究対象にした視覚文化作品の分析の方法論を身につけることができる。</li> <li>2. 表象文化の研究におけるさまざまな学際的なアプローチについて理解することができる。</li> <li>3. 上述の方法論を学際的に統合した上での作品分析を行うことができる。</li> </ol>																																																																										
授業計画	<p>第1回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第2回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">マンガ／アニメと教育</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第3回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">マンガ／アニメの歴史（論）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第4回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">マンガと文学・ライトノベル</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第5回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">マンガ表現論とその「歴史」</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第6回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">キャラクター論</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第7回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">マンガ／アニメとジェンダー</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第8回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">映像・芸術としてのマンガ</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第9回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">マンガ／アニメの物語論</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第10回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">産業としてのマンガ／アニメ</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第11回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">同人誌と同人文化</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第12回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">マンガ／アニメと観光</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>			タイトル	ガイダンス		フリー欄			タイトル	マンガ／アニメと教育		フリー欄			タイトル	マンガ／アニメの歴史（論）		フリー欄			タイトル	マンガと文学・ライトノベル		フリー欄			タイトル	マンガ表現論とその「歴史」		フリー欄			タイトル	キャラクター論		フリー欄			タイトル	マンガ／アニメとジェンダー		フリー欄			タイトル	映像・芸術としてのマンガ		フリー欄			タイトル	マンガ／アニメの物語論		フリー欄			タイトル	産業としてのマンガ／アニメ		フリー欄			タイトル	同人誌と同人文化		フリー欄			タイトル	マンガ／アニメと観光		フリー欄		
タイトル	ガイダンス																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	マンガ／アニメと教育																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	マンガ／アニメの歴史（論）																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	マンガと文学・ライトノベル																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	マンガ表現論とその「歴史」																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	キャラクター論																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	マンガ／アニメとジェンダー																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	映像・芸術としてのマンガ																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	マンガ／アニメの物語論																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	産業としてのマンガ／アニメ																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	同人誌と同人文化																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	マンガ／アニメと観光																																																																										
フリー欄																																																																											

	第13回
	タイトル マンガとミュージアム
	フリー欄
	第14回
	タイトル マンガ／アニメの海外受容
	フリー欄
	第15回
	タイトル まとめ マンガ／アニメ研究における学際性
	フリー欄
授業概要	マンガ／アニメの特性とその文化的変容について学際的視点から講義するとともに、マンガ／アニメ作品の分析のために必要な理論・方法論を概観し、実際の作品分析をワークショップ形式で行います。授業に際してはテキストの購入が必須になります。購入方法については最初の授業で説明します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	いくつかの章ごとに課題の提出を課します。マンガやアニメ作品の購読・視聴において、意識的に批評的精神をもって臨んでください。自分の購読・視聴したマンガ・アニメ（TV／劇場版）作品について、記録と簡単なレビューを残しておくことを求めます。本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題やリアクションペーパーの提出によって、学修内容を深めてもらう予定です。
テキスト	小山昌宏・玉川博章・小池隆太編著『マンガ研究13講』、水声社、2016年、3000円（本体価格。仕入価格により若干の値段変動あり）、購入方法等については講義中に指示します。その他の資料については適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	課題提出などを通して理論的／分析的思考を養ってもらおうとともに、参加型の授業形式を複数回取り入れ、議論を通じて広く理解を深めてもらおうと考えています。
評価方法	授業中の提出課題50%、期末レポート50%。
参考文献	小山昌宏・須川亜紀子編著『アニメ研究入門 [増補改訂版] アニメを究める9つのツボ』、現代書館、2014年。小山昌宏・須川亜紀子編著『アニメ研究入門 [応用編] アニメを究める11のコツ』、現代書館、2018年
備考	